撰要寺墓塔群

大須賀町教育委員会

発刊のことば

景江山撰要寺は、天正九年（一五八一年）に横須賀城初代城主大須賀康高が、城の北西の程近い丘上に創建した浄土宗の寺で、江戸時代は六十石の朱印地を有し、十万石の格式を持っていました。

寺域の墓地には、大須賀康高、その養子大須賀忠政、横須賀城第十二代城主本多利長一族の墓塔を初めとして、歴代城主の家臣等の墓塔六百に及ぶ多数のものが存在し、その形態も種々の時代相を遺し、貴重な文化財となっています。然るところ永年の星霜に伴ない破損するもの、倒壊するものあり、また石文の消滅により判読困難となれるものあり、歴史を語る墓塔調査が速かに実施の必要に迫られていました。

この度幸にして文化庁及び静岡県教育委員会の援助を受け、静岡県文化財保護審議会委員斎藤忠先生、県教育委員会文化課、撰要寺住職泉敬常師を初めとして関係者各位のご協力の下に、昭和五十五年六月より翌年三月に亘る実施調査を完成することができたのは誠に時宜を得たもので、深く感謝と敬意を表せずにはいられません。

ここに本調査報告書を刊行して調査の成果を公にすると共に、貴重な史料である本書の活用を切望し、序文とする次第であります。

昭和五十六年三月

静岡県小笠郡大須賀教育委員会教育長

村　松　祐　次

例　言

1. 本書は静岡県大須賀町山崎に所在する景江山撰要寺の墓塔・墓標群の調査報告書である。
2. 調査は国・県費の補助金を得て、大須賀町教育委員会が実施したものである。
3. 調査は撰要寺墓塔群調査団を編成し、団長斎藤忠博士の指揮により実施したものであり、調査団の編成は以下のとおりである。

団　長　　斎藤　忠（県文化財保護審議委員）
顧　問　　長田　実（　〃　）
調査員　　池谷和三（県教育委員会）
　　岡田恭順（　〃　）
　　平野吾郎（　〃　）
調査補助員　谷藤保彦（大正大学学生）
　　坂巻隆一（　〃　）
　　佐藤知幸（　〃　）
　　高橋勝広（　〃　）

4. 本書の原稿執筆および掲載した写真は全て斎藤博士の手になるものである。
5. 実測図および挿図の作成・トレースは平野・佐藤達雄・川崎陽子がおこなった。
6. 本書の編集は斎藤博士によるものであり、平野・佐藤が補助した。
7. 本調査に係る事務は大須賀町教育委員会がおこなった。

教育長　　村松祐次
事務局長　　牧野秀雄
社会教育主事　松本すが子

本文目次

序　撰要寺の沿革と墓地の経営……1
一、調査の方法……4
二、地区別による墓標の整理とその表……4
三、墓標の種類……67
四、墓標の編年的序列……85
五、墓標の変遷……93
結　撰要寺墓標に関する二、三の問題……98

挿図目次

第一図　調査カード……3
第二図　来家太七夫妻の供養の石仏……5
第三図　Ⅱ地区の一部……5
第四図　Ⅲ地区……9
第五図　Ⅳ地区……10
第六図　Ⅴ地区……14
第七図　Ⅵ・Ⅷ・Ⅹ地区……16
第八図　Ⅶ地区……17
第九図　Ⅹ地区……26
第一〇図　Ⅸ・Ⅺ地区……30
第一一図　Ⅺ地区……30
第一二図　Ⅻ地区……33
第一三図　ⅩⅢ地区……37
第一四図　ⅩⅣ地区……41
第一五図　ⅩⅤ地区……46
第一六図　ⅩⅥ地区……49
第一七図　ⅩⅦ地区……52
第一八図　ⅩⅧ地区……58
第一九図　墓地発見の骨壷写真……58
第二〇図　墓地発見の骨壷図……58
第二一図　墓標群分布図（Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ地区）……59
第二二図　墓標群分布図（Ⅱ地区）……60
第二三図　墓標群分布図（Ⅴ・Ⅶ・Ⅸ地区）……61
第二四図　墓標群分布図（Ⅷ・Ⅹ・Ⅻ地区）……62
第二五図　墓標群分布図（Ⅺ・ⅩⅢ地区）……63
第二六図　墓標群分布図（ⅩⅣ・ⅩⅥ・ⅩⅤ地区）……64
第二七図　墓標群分布図（ⅩⅦ地区）……65
第二八図　墓標群分布図（ⅩⅧ地区）……66
第二九図　墓塔実測図（Ⅱ地区―9・10）……68
第三〇図　墓塔実測図（Ⅰ地区―1・2）……69
第三一図　墓塔実測図（Ⅱ地区―4・5）……70
第三二図　墓塔実測図（Ⅱ地区―6・7・20）……71
第三三図　墓塔実測図（Ⅱ地区―1・2）……72
第三四図　墓塔実測図（Ⅱ地区―3・8）……73
第三五図　墓塔実測図（Ⅱ地区―11・12・13・14・15）……74
第三六図　墓塔実測図（Ⅱ地区―22、Ⅶ地区―35、Ⅺ地区―2、ⅩⅢ地区―48・61・62）……75
第三七図　墓塔実測図（Ⅱ地区―30・35、Ⅳ地区―34、Ⅶ地区―36、Ⅺ地区―1）……76
第三八図　墓塔実測図（Ⅱ地区―16・18・19・28・29、Ⅵ地区―2、Ⅶ地区―14、Ⅺ地区―19）……77
第三九図　墓塔実測図（Ⅱ地区―17・32、Ⅲ地区―7、Ⅳ地区―51、Ⅵ地区―9、Ⅺ地区―25・33・34、ⅩⅢ地区―64、ⅩⅤ地区―18）……78
第四〇図　墓塔実測図（Ⅱ地区―21・36、Ⅲ地区―2、Ⅳ地区―1、Ⅵ地区―7・8、Ⅶ地区……79

—46、Ⅸ地区—1・11・12・18、XⅥ地区—18）
第四一図　板状碑の正面と側面（Ⅱ地区—29）……80
第四二図　三角頭墓標の諸形式……81
第四三図　三角状弧頭・弧頭・二重弧頭・隅丸方頭・隅丸・二重方頭・盛り上げ方頭・三角錐方頭……82
第四四図　各面の隅取りのある三角頭角碑（Ⅺ地区—33）……83
第四五図　笠付方柱状墓標の笠部……83
第四六図　位牌形笠付方柱状墓標……83
第四七図　仏像付背光状墓標（Ⅳ地区—15）……84
第四八図　自然石の墓標……84
第四九図　宝篋印塔隅飾の各種形式……95
第五〇図　五輪塔　火輪部の屋根形式……96
第五一図　無縫塔上部の各形式……97
第五二図　文字の記載……99
第五三図　梵文表現の二例……100
第五四図　蓮の葉と蕾の表現と水受け……100
第五五図　開き蓮弁の各形式……101
第五六図　立葵の家紋の諸形式……102
第五七図　頭書の梵字と紋章……103

図版目次

第一　撰要寺の位置（航空写真）
第二　撰要寺周辺地形図
第三　墓地全体図
第四　撰要寺墓地遠望と山門
第五　大須賀家墓所（Ⅰ地区）
第六　大須賀康高墓塔
第七　大須賀忠政墓塔
第八　本多家墓所　（Ⅱ地区）
第九　本多康重墓塔（Ⅱ地区）
第一〇　本多康紀墓塔（Ⅱ地区）
第一一　本多忠利墓塔（Ⅱ地区）
第一二　Ⅱ地区　宝篋印塔等の並列状態
第一三　宝篋印塔（Ⅱ地区）
第一四　宝篋印塔（Ⅱ地区）
第一五　宝篋印塔上頂部（Ⅱ地区）
第一六　宝篋印塔（Ⅱ地区）
第一七　宝篋印塔（Ⅱ地区）
第一八　宝篋印塔（Ⅱ地区）
第一九　宝篋印塔（Ⅱ地区）
第二〇　五輪塔　（Ⅱ地区）
第二一　Ⅱ地区の墓標
第二二　Ⅱ地区の墓標
第二三　Ⅱ地区の墓標
第二四　Ⅲ地区の墓標
第二五　Ⅳ地区の墓標（無縫塔）（1）
第二六　Ⅳ地区の墓標（2）
第二七　Ⅳ地区の墓標（3）
第二八　Ⅳ地区の墓標（4）
第二九　Ⅳ地区の墓標（5）
第三〇　Ⅴ地区の墓標
第三一　Ⅵ地区の墓標
第三二　Ⅶ地区の墓標（1）
第三三　Ⅶ地区の墓標（2）
第三四　Ⅶ地区の墓標（3）
第三五　Ⅷ地区の墓標
第三六　Ⅸ地区の墓標（1）
第三七　Ⅸ地区の墓標（2）
第三八　Ⅹ地区の墓標
第三九　Ⅺ地区の墓標（五輪塔）（1）
第四〇　Ⅺ地区の墓標（2）
第四一　Ⅻ地区の墓標（1）
第四二　Ⅻ地区の墓標（2）
第四三　XIII地区の墓標（1）
第四四　XIII地区の墓標（五輪塔）（2）
第四五　XIV地区の墓標
第四六　XV地区の墓標
第四七　XVI地区の墓標
第四八　XVII・XVIII地区の墓標（左三基はXVIII地区）

序――撰要寺の沿革と墓地の経営

撰要寺は、静岡県小笠郡大須賀町山崎一三〇二の地にある。景江山の山号をもち、浄土宗の宗派に属する。独立した丘陵地の西がわにあり、前面に平地をのぞむが、この平地をへだてて南西約三〇〇メートルには、同じ独立丘陵上に横須賀城跡があり、国の史跡の指定を受けている。

この横須賀城の初代の城主大須賀康高は、徳川家康の命を受け武田勢を攻略するに当り、はじめ撰要寺に布陣したとも伝えられている。のち、横須賀城に居城するに及び、天正九年（一五八一）には、岌屋春阿和尚を請じて、撰要寺を創建させたという。『横須賀根元歴代明鑑』は、同町浄土真宗善福寺二代の住持釈祐念師の筆になるといわれ、史料として信憑性をもつものであるが、同書には、

私云撰要寺は往古は高天神の麓に有之撰要寺ケ谷と申伝旧跡有之由、五郎左衛門殿横須賀の城主に被仰付節被為得上意建立の寺也。当寺領五十石五郎左ェ門殿寄附十石出羽守殿寄附右春御朱印也。

とある。なお、岌屋春阿和尚は、中田村の松風山応馨院二十九世の僧であった。

ちなみに、景江山の山号は、西が入江に面し風光の絶景の地にあったことにもとづくという。また撰要寺の名は、「撰釈本願集」と「往生要集」から、それぞれ「撰」と「要」の文字を採ったといわれる。(1)

横須賀城初代の城主康高は、天正十六年六月二十三日に死去した。『横須賀根元歴代明鑑』には、

天正十六子年六月二十三日大須賀五郎左ェ門殿撰要寺へ参詣、本堂如来前に而逝去也。

とある。

とにかく、初代城主大須賀康高は、撰要寺に埋葬された。二代（五代）忠政も、慶長十二年（一六〇七）九月十一日に逝去し、康高の墓に隣りして葬むられた。忠政は、榊原式部大輔の二男で、大須賀家の家督を相続し、出羽守となった。『横須賀根元歴代明鑑』に、

慶長十二年出羽守殿病気に依り為養生上京、有馬湯汐之湯同年九月十一日伏見にて逝去し給う。横須賀撰要寺に送葬、号華馨院殿前羽州泰巌叟安大居士と是也。

とある。

このようにして、城主の菩提寺として高い格式をもち、法燈がつづけられたが、十二代本多利長が、正保二年（一六四五）城主にな

るに及び、父・祖父等の墓標を三河の岡崎から海路運んで、寺の本堂の奥に当る丘陵の背後に営んだ。あたかも横須賀城からは、その北東に望まれる一角に当る。本多家の家中も又、これにしたがって墓標を移転したものもあり、また直接この地に墓を営んだものもあった。撰要寺の現住職の泉敬常師のまとめた文献によれば、墓地内にある本多家関係の墓標は一一二基を数えるという。(2)

つづいて、天和二年（一六八二）西尾忠成が藩主となり、その後幕末まで西尾家は城主としてつづき、撰要寺は、家中の人々の墓地としても、格式をもちつづけた。『横須賀根元歴代明鑑』には、

元文二巳年六月二十三日大須賀様百五十年の御忌に付、町中庄屋問屋撰要寺へ被召寄、何れも麻上下にて参り町中より青銅二□□撰要寺へ冥加銭として御香奠を差上げる。

とあり、また、宝暦十年三月十三日西尾隠岐守が江戸で逝去し、竜眠寺で法事を営む際、

竜眠寺御位牌に焼香の御寺方三月廿八日一番撰要寺二番本源寺三番善立寺四番浄泉寺

とあり（『横須賀根元歴代明鑑』）、撰要寺の格式が知られる。

つづいて高天神城主一族の小笠原氏の墓標が、天正・文禄・慶長・寛永の頃、五輪塔の形式をもって設けられ、墓地が営造された。一方、江戸小船町で、廻船問屋を営んだ来家太七夫妻を供養したとみなされる石造如来像が、元禄十四年六月十五日、石工佐藤伝七によって大須賀康高・忠政の墓所の裏手に当る墓地の入口の高台に営造されており、豪商が早くも墓地の重要な一角を占めたとも考えられるが、藩主家中の墓のほかに、江戸時代の後半期には、町人等の墓標も見られており、撰要寺のこの頃の一性格を示している。

撰要寺は、このような歴史的背景のもとに、その墓地は天正十六年の大須賀康高の宝筐印塔を初現とし、江戸時代には多数の墓標が営まれ、しかも明治・大正をへて、現代に及んでいる。

幸いにして、寺院にはその創建の当初からの過去帳もそなわっており、寺院の由緒はもとより、墓標に刻された戒名や、死亡年月日を知る上に参考になるところが多い。

注

1　昭和五十五年刊行の『大須賀町誌』にも紹介されている。

2　寺院住職泉敬常師によってまとめられた『横須賀松尾城主本多家資料撰要寺過去帳』（昭和四十九年）による。

撰要寺墓塔・墓碑調査カード								No.	
位　置				現　状					
大きさ									
形　式									
									銘文
調査者		調査年月日	年　月　日	写　真	有無	図	有無	拓　本	有無

第1図　調査カード（実物大）

一、調査の方法

撰要寺には、境内地に二基、墓地におよそ七〇〇乃至八〇〇基の墓塔・墓標が存し、現在なお墓地として存続している。今回の調査は、墓塔の初現としての天正十六年の宝篋印塔から江戸時代及び明治十年までの墓標をとりあつかった。総じて四〇〇基である。これらの資料を整理するときには、あらかじめ境内地の一部を含め墓地全体について百分の一の測量図を作成し、墓塔・墓標のすべてを記入した。そして、これらを整理する便宜上、十八のブロックにわけた。このわけ方の基準は、墓標があるまとまりを示しているものや、高低等の区別が、ある程度あらわれているものによったが、必ずしも適切でないものもある。また、ブロックの番号の場合、ⅠⅡの特別なものをのぞき、Ⅲ以降は、参道に進んで右がわを偶数、左がわを奇数とした。

これらのブロック別を設定するとともに、所定のカード（前頁挿図1）を作成して、その一つ一つについて、形式・大きさ・銘文等をしらべて記入し、あわせて写真を撮影した。

一方、寺院には、過去帳が残されている。この過去帳をコピーし、私自ら調査し、その墓標の刻字も照合した。※

※ 従来、一墓地について徹底した調査を行った例は少い。この中で曽て坪井良平氏が、京都府相楽郡木津町で昭和七年の頃約三千三百基について調査したことは画期的なものであり、氏はこの場合八百の地区を設定した。（「山城木津惣墓墓標の研究」『考古学』一〇―六）昭和十四年

今回の地区設定もこれにならうとともに、古墳群について試みられている方法論をとった。

なお、他に石碑については、宮城県名取郡内のものを丹念にしらべた松本源吉氏の「陸前名取郡の古碑」（『考古学』八―二　九―四）があるが、そのほか、各市町村史等にも調査の成果が発表されている。

二、地区別による墓標の整理とその表

調査に当っては前述のように、便宜一八区にわけ、図面に照合しつつ、地区別に番号をつけて整理した。次に表を中心としてこれを記載する。

Ⅰ地区　本堂に向って左がわに、一段高い墓所をなす。この地域のみは墓地でなく、境内地の地目をもつ由である。二基の宝篋印塔で向って右のものは、初代横須賀城主大須賀康高の墓であり、天正十六戊子年六月廿三日の紀年銘がある。向って左のものは、二代（五代）忠政の墓で、慶長十二丁未年九月十一日の紀年銘がある。二基について表記すれば、次のようである。

なお、この地区の裏手、墓地への参道の左がわの高台の一角に、八角基壇の上と墓台の高さ五〇センチ蓮華台座を含めた仏像の高さ二〇六センチの石造如来像がある。来家太七夫妻の供養塔ともみなされる。八角基壇の裏には、元禄十四年六月十五日の紀年銘が刻され「石工佐藤伝七忠尚」の刻字も見られる。

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①	宝篋印塔	四〇〇	五〇	三四	撰要寺殿前金吾 覚 東岸浄春居士 霊 干時天正十六戊子年 六月廿三日	『過去帳』には己丑年 六月廿三日六十二才去 とあり		
②	宝篋印塔	四〇〇	四八	三四	花馨院殿前羽州 神			

第2図　来家太七夫妻の供養の石仏

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
					泰岩岩叟安居士 僕 干時慶長十二丁未年 九月十一日			

Ⅱ地区　墓地の最も奥の高台上に存するもので、すべて西面して並列している。十二代城主本多越前守利長が、三河岡崎から運んだ、本多豊後守康重（向って右）本多豊後守康紀（中央）本多伊勢守忠利（向って左）の墓標としての大型五輪塔が、石垣の中に並置されている。さらにこの墓所から、向って右から数えて宝篋印塔・五輪塔・板状碑等が四三基並列している。次の表示の如くである。

第3図　Ⅱ地区の一部

番号	形状	大いさ 高さ	大いさ 幅	大いさ 厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①	五輪塔	三七 （全高） 三三	六三	一六	慶長十六年二月廿二日 居 陽山道雪 士 藤原朝臣康重	『過去帳』には鳳翔院殿 前豊洲大守陽山道雪居士 とあり	最上欠	図9
②	五輪塔	二五六 （全高） 三四一	七一	二六	本多前豊後守 居 雄山道策 士 藤原康紀	四方に梵字あり	風化	図10
③	五輪塔	二四〇 （全高） 三三五	七三	二八	本多前伊勢守 居 勇宣道智 士 藤原忠利	四方に梵字あり	最上欠	
④	宝篋印塔	三一〇	三八	三三	寛永十四丁丑 妙法蓮華経 日源禅定尼 七月十四日	『過去帳』には松寿院殿 月鏡日源禅定尼とあり		図12図13～
⑤	宝篋印塔	三〇三	四〇	二八	慶安二己丑暦 淑 妙法蓮華経 安住院殿清岩日仙 霊 六月廿八日			図12～図14図15
⑥	宝篋印塔	三〇六	三八	二七	承應四三申午 妙法蓮華経 光岳院殿眞耀日久霊 五月上旬三日			図12図16
⑦	宝篋印塔				栄譽智安良心 明暦丁酉年			

番号	形状	大いさ 高さ	大いさ 幅	大いさ 厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑧	五輪塔	二八六 三三	三七 四八	二六 一六	理性院殿 大禅定尼 七月二日 光寿院殿権大僧都 齢長祐心居士 寛永廿一年六月四日	（地右面） 施主 本多弥佐衛門 四方に梵字あり	風化	図17 図12
⑨	宝篋印塔	二九八	四〇	三三	承應二癸巳年 盛勝院長譽周栄 六月二日			図18
⑩	宝篋印塔	三四六	三九	二六	長勝院殿 清譽道温大信士 寛文元辛丑年十一月廿八日	（右面） 施主本多□掃部 助勝		図19
⑪	五輪塔	二五〇	六〇	三三	元和九癸亥年 童 覚霜暁雲 童子 霜月八日	正面に地水火風空の刻文 がある。	風化	図20
⑫	五輪塔	一七六	五三	二六	本多弥太郎 琢宝永玉大禅定門 成廿 干時寛永十五年十月 寅六	四方に梵字あり 『過去帳』には源相院殿 琢宝永玉大禅定門とあり		図20
⑬	五輪塔	一六〇	五三	二六	本多前豊後守 登巌秀哲居士 廿 干時寛永十五年戊寅十二月 廿七日	四方に梵字あり 『過去帳』に光雲院殿登 巌秀哲居士とあり		図20

番号	種類	高さ	幅	幅	銘文	備考	状態	図
⑭	五輪塔	一三八	四三	二三	干時寛永七年庚午 露月涼耳童子 六月廿八日	四方に地水火風空の刻文あり		図20
⑮	五輪塔	一三七	四〇	二〇	干時寛永十一甲戌六月 廿三日 心寶珠貞童女 信心施主	四方に地水火風空の刻文あり		図20
⑯		七三	三一	一七	正保二年乙酉 夢覚了春童子 三月二日			図21
⑰		一〇〇	二四	二四	元和八壬 梅院殿接室清引太女姉 霜月四日			
⑱		七四	四三	三三	元和三丁巳七月廿八日 泰空龍安居士 施主本多甚五右衛門			図21
⑲		一七一	四五	三〇	慶長十年己巳年　藤原 乾峯秀哲居士　幽儀　本多藤[六]郎 八月廿三日　重章			図21
⑳	宝篋印塔	三二四	三三	二四	寛文四甲辰歳 得生院殿法誉浄心大禅定門 五月十三日			図21
㉑		一四七	三六	三五	寛文十庚戌年 生蓮院殿華屋幻哲大童子 六月七日			図21
㉒	五輪塔	一三五	四三	四一	寛永廿[癸]未 童	四方に梵字あり		図22

番号	種類	高さ	幅	幅	銘文	備考	状態	図
					春夢幻覚 子 正月廿六日			
㉓	五輪塔	一二四	四〇	四一	寛永廿癸未 光月貞寿童女 五月廿七日	四方に梵字あり	一部欠	図22
㉔						(左面) 施主本多弥左衛門 (右面) 寛文十年丁未九月廿八日 (裏面) □館相屋□□□定門□□	剥落	
㉕					寛文丙[午] 早世秋喜[童][女] 九月[廿][一][日]		折損	
㉖					順 □元□□□	(左面) □□九月廿一日 (右面) 施主	倒壊	
㉗			三五	一八	[寛]文六丙午年 菩提[己] 花月貞薫信女 施主 [十]月[六]日 本多弥五兵衛		上下欠	
㉘		七四	二六	三〇	寛文六丙午稔 為幻消童子巳 施主 十月六日　本多弥五兵衛		一部欠	図22

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
㉙		一八六	四三	四二	慶安元戊子年 喜月貞光信女 八月廿九日			
㉚	五輪塔	一八六	五〇	五〇		四方に梵字あり	風化	
㉛	五輪塔	一七〇	四八	四八		四方に梵字あり	風化	図22
㉜		一七一	二五	二三	山下後庄左衛門墓	(左面) 慶安己丑九月十九日 (右面) 松尾李允正盛立之		図23
㉝		一六六	二六	一七	明室清円信女	(左面) 延室甲寅年二月九日 (右面) 施主 葉若甚右衛門		図23
㉞		一七二	二五	一六	崇月念隆童子	(左面) 延宝三己卯年八月九日 (左面) □□□□□ (裏面) 本多弥左衛門子息	剥落	図23
㉟	五輪塔	一四〇	四八	四八	俗名本多 一峯道無 十郎衛門政定	(左面) 施主 後十郎衛門重政 (右面) 慶長十八癸丑年 六月朔日 四方に梵字あり		図23

番号	形式	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
㊱		八九	二八	二六	載岸乗運 俗名本多十郎右衛門重政	(左面) 後十郎衛門緑政立之 (右面) 正保三丙戌年五月十日		図23
㊲		七一	二四	一三	□□壬□年十月九日 應霜清□□童女 本多十郎衛門娘	『過去帳』に年月日不明 とあり	一部欠	
㊳		九八	二八	二三	寅 本誉源秋 俗名本多重郎右衛門紀政	(左面) 後十郎右衛門政義立之 (右面) 慶安三庚寅年七月十九日	一部欠	図23
㊴			二四	一八	□□十二月□□		上部欠	
㊵		九一	二八	一八	霊照院智光元鑑大姉	(左面) 本多十郎右衛門政義妻 (右面) 施主本多□□ 延宝六戊午歳九月廿二日 武州神奈川□卒二十七歳 北塚田氏珠生国相州小田原 暦住遠州横須賀	一部欠	図23
㊶			二七	一四	施主 □母位 本多□右衛門		上部欠	
㊷		一八〇	一八	一三	法名釈知悦正定聚位	(左面) 延宝六戊午年八月十六日施主士 (右面) 太田八郎右衛門墓		

Ⅲ地区　墓地への参道の登り口、墓地に向って左がわに生け籬にかこまれてある村松家の墓所で、すべて八基より成る。その中、大正九年の角石の墓は別として、万治元年（一六五八）の三角尖頭碑及び元禄二年（一六八九）・享保十五年（一七三〇）の仏像を造りつけ背光形供養碑がある。元禄二年のものは、上は三角で、わくを設けており、享保十五年のものは、尖りのある弧頭で、それぞれ年代的特色をあらわしている。

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
㊸		八七	二七	一八	□□月信女□ （左面） 本多助進政盛 孝子	□□七□□ （裏面） □□□	上部欠	

第4図　Ⅲ地区

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		一五〇	三三	一四	亥年 潘善女 上八日		剥落	
②		一五七	二六	一六	浄誉妙清信女霊位 享保十五辛戌九月五日	地蔵尊彫刻付き		図24
③		一五五	二六	一七	花山法雲童子 先祖代々明空恵光大姉 建誉常然信士			図24
④		一二一	四三	二	万治元天　俗名村松 光誉受心信士 戊十二月晦日　長四□			図24
⑤		一五五	三〇	一九	宝永二乙酉歳			
⑥					華誉香春大姉 十一月廿八日			
⑦		六九	二五	一五	室□□賀□女霊位 元禄二己巳年十二月十二日	地蔵尊彫刻付き		図24
⑧		一五四	三三	一六	清誉光道禅定門 観稱妙善信女 喜法妙輪信女	（左面） 清明治元年辰八月十一日 観安政四年四月朔日 喜明治九年十一月十七日		図24

Ⅳ地区　墓地の奥に向って左がわにあたり、入口のそばの一区画の墓域である。入口に寛永十九年銘の大型の板状三角頭のものが立つが、恐らく供養碑であろう。また入口から入ると、すぐに慶長十四年銘の小型の宝篋印塔がある。この墓域には、開山の春阿大和尚の無縫塔をはじめ歴代住職の無縫塔がならんでいるが、その他、笠付角碑や宝珠付の角碑もある。

番号	形状	大いさ 高さ	大いさ 幅	大いさ 厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①	無縫塔	二六			蓮社炭屋春阿大和尚 天正甲申十二年三月二天	『過去帳』には三月廿六日とあり		図25
②	無縫塔	九六			盛蓮社天誉炭南無分大和尚 慶長十乙己十一月二日			図25
③	無縫塔	九〇			天蓮社徳誉魯信在公大和尚 寛永八辛未五月十一日			図25
④	無縫塔	八九			徳蓮社聖誉玄怒大和尚 寛文五乙巳十二月十六日			図25
⑤	無縫塔	九八			然蓮社弁誉拱阿大和尚 正保三丙戌八月廿四日			図25
⑥	無縫塔	九八			当山中興			

番号	形状	大いさ 高さ	大いさ 幅	大いさ 厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑦	無縫塔	八八			照蓮社寂誉文公大和尚 寛文七丁未八月三日 信蓮社単誉傳説大和尚 貞享四丁卯正月十六日			図25
⑧	無縫塔				音蓮社鸞誉文怒大和尚 天和四甲子十一月七日 貞享元		身欠損	
⑨	無縫塔	一〇五			満蓮社豊誉新阿寂玄大和尚 享保三戊戌年十月十五日			図25
⑩	無縫塔	一一三			本蓮社隋誉龍阿源栄大和尚 享保十五庚戌年九月廿六日	(基壇正面) 上 隨誉 人		図25

第5図　Ⅳ地区

⑪	無縫塔	一二三			潮誉上人	(左面) 寛延三年 (右面) 庚午九月廿四日 『過去帳』には音蓮社潮 譽上人梵阿写海大和尚と あり
⑫	無縫塔	二五			闌誉上人	(左面) 宝暦十一辛巳年 (右面) 正月十四日 『過去帳』には光蓮社闌 誉上人道阿義碩大和尚と あり
⑬	無縫塔	一三四			㱃誉白順上人	
⑭	無縫塔	一〇三			現誉上人光阿霊随大和尚	
⑮	無縫塔	一四〇			十七世法誉上人	
⑯	無縫塔	一四九			十八世㱃誉上人本阿玄常大和上	(基壇正面) 十九世謙誉敬戒上人 二十世仏誉愚常上人 (右面) 仏明治四十一年六月廿三日
⑰		一三九	三三	三三	寛量院卓誉法性亮玄居士 深量院心誉妙性智玄大姉	(右面) 安政三丙辰年十一月六日卒 寺岡鑵殿右衛門 小壁久徴塚 同人妻
						図26 図26 図26 図26 図26 図26 図26

⑱		一三三	三二	三三	現光院大誉願海㊀翁居士 寿光院霊誉智戒圓明大姉	(左面) 文化五戊辰年十一月十七日 俗名寺岡木兵衛 久種
⑲		六六	三〇	二六	覚法院本誉心安自居士他立恵 瑞光院浄誉清讃知月大姉 浄諦院□誉□日清円大姉 梅光□春童子妙智清童女 他二人	『過去帳』には覚法心安 自休居士とあり (左面) 覚 享保六年六月十二日 瑞 元禄七甲戌年七月廿一日 浄 享保十己巳年 『過去帳』に四月四日と あり
⑳		八八	三三	三三	理體院乗誉一味宗貞居士 他三	(左面) 理 享保十七子年 享保十五戌年十月廿二日
㉑		八九	三三	三三	春凉院心誉月山風玄居士 他三	(右面) 春 宝永五子年十二月十日 明 享保十六亥年正月廿一日 『過去帳』に明陽院光誉 照月澄円大姉とあり
㉒		七三	二四	二二	教令院季光妙英大姉	(左面) 寺岡久等女 養子久誠妻 (右面) 文化四丁卯年六月廿二日
㉓		九一	三三	三三		文政元戊寅年 通善院政誉義門常道居士 八月二十五日 『過去帳』には通全院趣 誉義門勇道居士とあり
						図26 図26 図27 図27 図27 図27 図27

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㉔		五六	二五	一六	安政四丁巳年 戒香院定誉悦雲居士 十一月十六日			図27
㉕		六一	二六	二〇	覚真院蓮曙正圓居士　位	(左面) 嘉永四辛亥年正月十六日寂 (右面) 俗名 倉橋和多里源勝任 寿世七十有四歳		図27
㉖		六〇	二五	一六	好恩院情室離想大姉	(左面) 文化三寅年六月廿五日 (右面) 倉橋勝喬妻		図27
㉗		五七	二六	一七	寿聲院心頓蓮到居士	(右面) 維時 天明二寅二月廿八日卒 (左面) 倉橋半太夫勝吉墓		図27
㉘		六〇	二五	一六	離情院好室思想大姉	(左面) 安永二巳年 秋九月四日 (右面) 倉橋半太夫妻		
㉙		七九	二三	二八	天和三癸亥年七月十日 即到院教誉浄頓居士 覚霊位 心華院林誉貞樹大姉 宝永六己丑年十月廿四日			図27

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㉚		六三	二四	一八	常寂院慧屋智三大姉	(左面) 明和七庚寅年 二月上二日 (右面) 生国摂□元崎 粟津喜左衛門娘 当城家中 倉橋半太夫實母		図27
㉛		六〇	二〇	一〇	早世花因香悟童子 宝永三丙戌年端月初二日	地蔵尊彫刻付き		図28
㉜		五五	二五	一六	明和二乙酉年 泰誉春岸乗雲信士　位 正月上八日			図28
㉝		四四	二二	二三	慶長十四己酉卒 花王間栄信女 四月十三日		剥落	図28
㉞		二〇						図28
㉟		五九	二六	一七		(左面) 明和丙戌三月十七日 『過去帳』には即本院願誉意称大姉とあり	表面剥落	図28
㊱		四〇	二四	二三	正徳二壬辰年正月廿四日 向源院一誉良心居士 霊位 理松院栄誉見繁大姉 享保十二丁未年二月廿八日			図28

㊲	五一	二四 一五	元文二巳四月三日 明了院観誉圓窮居士 倶會 明蓮院光誉栄心大姉	『過去帳』に明和元甲六月廿七日大原長兵衛后ノ母とあり	一部欠損	図28
㊳	五三	二三 一五	正徳元辛卯年 帰元往誉生秋居士　霊位 九月廿三日			図28
㊴	五三	二六 一一	圜誉徹照光願善女 宝暦癸酉三月五日	地蔵尊彫刻付き		図28
㊵	四〇	二〇 一一	嘉永六癸丑年五月十二日	『過去帳』に智薫童女とあり	一部欠損	図28
㊶	五五	二五 二〇	覚樹院誓誉浄信居士 □樹院澄誉寿清大姉　霊位 融光院圓翁清輪大姉	『過去帳』に正徳四甲午正月十九日大原助右エ門祖父とあり （右面） 天和二壬戌歳六月廿四日 大原休□父母姉		
㊷	五六	三一 一七	正徳三癸巳年 覚真院廣誉浄長居士　霊位 六月廿六日			図29
㊸	五〇	二六 一四	転暁圜霜童女霊位 寛保元辛酉十月廿八日	地蔵尊彫刻付き		図29
㊹	六六	二五 三	静心院安誉諦道居士 霊智院鏡誉慧照大姉	（右面） 天保九戊戌年二月廿日 （左面） 弘化五戊申二月廿二日と過去帳にあり		図29

㊺	六五	二五 二〇	観龍院確誉圏玄居士 確亮院哲誉妙観大姉	（左面） 天保八年五月十五日 （右面） 天保二年七月十五日		図29
㊻	一三	三〇 二四	譲松院禮誉徳翁居士 良明院恭誉譲貞大姉	（右面） 譲　文化三丙寅年八月廿有九日 良　天保三壬辰年七月廿有五日 （左面） 佐文　貞太郎 大原長兵衛資順墓 同人妻		図29
㊼	一四	三〇 二四	松本院誓誉□音居士 即本院圜誉意圀大姉	（右面） 大原長兵衛資　墓 同人妻 （左面） 松明和三丙戌年二月十二日 即同年　三月十七日		図29
㊽	六八	三〇 三〇	勝雲院超誉高山無涯居士 雲晴院明誉月影智應大姉	（左面） 宝暦四甲戌年四月十七日 （右面） 宝暦十庚辰年七月初七日 『過去帳』には七月六日とあり	倒れ笠欠損	図29
㊾	六九	三〇 三〇	心池院涼誉遜清居士 唯称院見誉真栄大姉	（左面） 貞享四丁卯年六月初七日 （右面） 宝永四丁亥年十二月十五日	笠欠損	図29
㊿	八〇	三〇 三〇	自然院清誉冷道居士 儼相院然誉清好大姉	（右面） 自　享保十乙巳五月十七日	笠欠損	図29

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑤⑪		一六	五	三	寛永十九壬午歳九月十七日 □生山□國愛宕郡 光□□心 物□□右衛門 於三□□崎六十八歳而卒 聽岳諦善信士 速善智證信女	（左面） 儼　寛延己巳十二月十二日と『過去帳』にあり （左面） 聽　天保九戊十月十六日		図29
⑤⑫								

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
					西岳遊万信士 清誉光岸信士 光誉乗雲信女	『過去帳』には文政九丙戌十月廿六日とあり 速　文政三辰四月廿三日 『過去帳』には天保三壬辰四月廿三日とあり （右面） 清　文久二戌二月六日　父吉 『過去帳』に是ハ出レ家致ス故文政九丙戌十月廿六日トスとあり		

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		四	三	三	秋吟童子	（左面）		図30

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
					金山如幻童子	壬申七月□□		

V地区　奥に向って左がわの入口に近いところの地区に当る。VI地区と参道をへて相対する。新しい角石の墓標も多いが無縫塔や笠付角碑もある。この地区の中で目に着くのは、観音坐像を上にのせた角石のあることで、天保十五年（一八四四）・弘化二年（一八四五）の紀年銘があるが、一種の供養塔とみなされる。

第6図　V地区

①	四四	二一三				（右面） □門二　六月廿一日	
②	四二	三一三	明治七甲戌年 顕明院赫誉慈光大師 十二月十三日			（右面） 小林鉄右衛門従炊書	図30
③	五六	二六一	信静院殿禅量日宜居士 颯音院聞誉法道居士 流音院響誉妙道大姉			（左面） 信　慶応四辰年五月廿一日 鼓　明治七年戌一月十日 （右面） 原田氏	図30
④	四二	三一三	俊光院逸誉隆英居士 光誉妙英信女			（左面） 明治七年十二月廿三日 （右面） 明治二十年五月九日と 『過去帳』にあり	図30
⑤	四六		覚誉探道法子	無縫塔		（左面） 当寺十七主弟子	図30
⑥	一〇一	二九一三	法輪了覚居士 南無阿弥佗佛□□□ 智月貞了信士			（左面） 法　天保十五辰正月十一日 智　弘化二巳年八月廿五日 （右面） 当寺十七主 法誉建元	図30
⑦	一一五	三一二八				剥落	図30
⑧	五五	二五一六	弘化五戊申年				

⑨	一四五	二九一六	知方静入童子 三月十有三日			（左面） 源　天保十三壬寅年四月廿六日 震　嘉永七甲寅年十一月四日 同人妻	図30
⑩	一一五	三一三	定心院禮誉仁到素行居士 誓心院緊誉覚到栄寿大姉			（左面） 定　安政元甲寅年十二月九日 寺岡小野久信 誓　嘉永六癸丑年正月十一日 同人　□	風化 図30
⑪	六四	二九一四	□ □住院□誉□ 十月□				図30
⑫	六二		元禄二己巳歳 月牌　心光院空誉源入居士覚位 十二月十七日	無縫塔			
⑬	七二	三〇一六	寛永廿一甲申歳 天宗院乗誉一西居士 八月十八日亥			（左面） 天保十三壬寅年五月十二日 七代孫吉田條太郎宜周再建元 月牌□弐両□施立右同主 （右面） 生□ 吉田三郎兵衛重儀墓	図30

Ⅵ地区　参道右がわにある。一群の三角頭板碑の大型のものが参道に向ってならべられており、正徳・万治・慶長等の紀年銘がある。これらには、特に、碑身の下には蓮花と蓮蕾とを浮き彫りにし、その下に水盤状のくぼみのあるものがあり、この頃の墓標の丹念な彫風をそなえた一形式がうかがわれる。なお、これらは本多家家臣の墓が移置されたものとみなされ、『過去帳』には、該当の戒名のものがない。

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		一三六	四七	一四	正保二年乙酉 生閑貞往信女 乙酉九月晦日	(基壇正面) 施主 礒屋仁右衛門尉		図31
②		一三九	四八	三一	万治二年覚 大安道徹居士 己亥〔了〕秋七月霊	(基壇正面) 施主 礒屋仁右衛門尉		図31
③		一三〇	四七	二五	慶安五壬辰年 華屋清心信女 三月十日	(基壇正面) 施主 礒屋仁右衛門尉		
④		八一	三六		万治三年 花光了春信男 三月十七日		上部欠	図31

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑤		八九	三七		登屋全進信士 五月一日			図31
⑥		六六	二六		寛文十一庚亥年 称誉良念大徳 正月七日		欠落大	図31
⑦		七三	三〇		宝永三丙戌六月十一日　元禄五壬申二月朔日 勝誉超覚善士智光理讃信女 享保十六辛亥 實蓮社真誉順的大徳 七月二十四日 光廓利心信女林清妙相信女 延宝二甲寅四月十九日　貞享元甲子五月廿四日			図31

第7図　Ⅵ・Ⅷ・Ⅹ地区

⑧	五〇	二八	享保三戊戌天 實誉覚心信士 十二月廿二日	(右面) 俗名　潮田覚之進 『過去帳』には誠正院實誉覚心信士とあり	図31
⑨	七八	二八	明暦元乙未 □生心誉嘉源□□□ 三月三日	『過去帳』には心誉寿源信士とあり	図31
⑩	七七	二七　一五	覚誉浄圓信士 嘆誉智譜信女 各霊	(右面) 元禄十丁丑十一月晦日	図31
⑪	五〇	二四　一六	蓮誉普念秋覚信士 徳誉善念寿慶信女 霊位	(左面) 賀藤段右衛門勝房 墓 (右面) 加藤氏勝房 施主 □子勝往之	下部が埋れている
⑫	五八	二六　一九	□光蓮浄法師覚位 □二十七日	(左面) 生□□□境□□屋□ (右面) 当寺潮誉□来而発心也	一部欠
⑬	五八	二五　一九		(左面) 生国佐□川石田住戸田氏□ (右面) 当寺潮誉□□□布来□□生	倒壊
⑭	六一	二六　一八	玄慶信士□誉□□吡 □ 妙□□女□誓祐信士		剥落
⑮	六〇	二四　二〇	蓮社勤譽清閑大徳	(左面) □怡法尼沙弥　林清禅門 □辻社大誉応閑和尚 □□禅定門　妙徳禅尼 (右面) 天和三癸亥正月四日　貞享四丁卯十月廿九日 授誉即㝵信士　心岸即称信士 秋誉妙圓信女　暫夢童子 元禄元戊辰極月十一日　元禄元戊辰十二月十一日	一部欠

Ⅶ地区　八基の五輪塔も存するが、潮田家の墓所もあり、笠付角碑が多い。これらの中には、万延二年（一八六一）明治二年（一八六九）のものもあり、比較的新しい形式のもののあることがわかる。

三角頭板状碑などもあり、また、奥に進んだところに小径の両側に墓標がならんでいる。

「南無阿弥陀仏」の名号をきざんだ角碑もあり、一種の供養塔と思われるが、紀年銘はない。

この中で南面するものは、住職の話によれば、町人の墓標という。

第8図　Ⅶ地区

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		四七	三一	二四	寛文五乙巳年 秋光童子 八月三日			
	(欠番)							
③		三〇	二〇		□□年 月童女 六月十五日		上部欠	
④		五〇	二三	一六	保四丁亥年 月清光信女具位 月七日施主杣庄左衛□		上部欠	
⑤	五輪塔	一四五				四方梵字あり		図32
⑥	五輪塔	一七八				四方梵字あり	風の部 分欠損	図32
⑦	五輪塔	一九一			圓岳乾英信士 □□□ □□□□ 寛永二年七月廿三日	四方梵字あり		図32
⑧		八七	三八	二〇	万治元戊戌年 6月光浄現 九月廿二日杉江与右□門			図32
⑨		八六	三二	二三	□誉□□信□□位			
⑩		五八	二四	一三	玉應寿心禅定尼 継芳英寿禅定尼 量春妙性信女	(左面) 弘化四丁未年十月 杉江源八則寿建之		

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑪			三六	一八				
⑫		六一	二三	一八	寛文九己酉 七月四日 念翁理 称信女具位 施主杣江庄左衛門		剥落	図32
⑬		六一	二四	一三	寛文三癸卯年 還本秋安貞寿信女 七月四日			図32
⑭		一一七	四一	一六	元禄十丁丑天 信 清香院貞誉慶葩 二月十二日 尼			
⑮		六一	二三	一七	真光院誉念光信士	(右面) 享保五庚子天五月廿七日 『過去帳』には享保三 戊戌年五月廿七日とあり (左面) 俗名 山口本右門		図32
⑯		二〇	一三	一四		自然石を利用		
⑰		九八	二五	一七	□和五□□年 法□意誉信士 十一□四日			図32
⑱		四九	二三	一四	慶安二己丑年	(右面)		図32

(右面)
玉慶安二己丑年三月廿四日
継寛永十九壬午年十一月六日
景承応二癸巳年二月十七日

⑲	四三	三一三	芳月童女 六月十五日	弘化四丁未十月 杉江源八則寿再建元	
			善□□ 安□院實誉□豊大姉 明治六年九月 □□□詳安童女	（右面） 鈴木	
㉑	五一	三一六	行實院心覚是道士 法岸寂然信女 覚巌信士 春光童子	（左面） 遇文化元子十月十三日 法文化七午十二月二十八日 覚文化八泰十月二日	
				（右面） 孝子　村田八十治 春光童子は過去帳に 天保三壬辰十二月廿九日 とあり	
㉒	四九	二三一六	遇値院往識善生信士 号屋名𪜈信女	（左面） 天明七未年十二月五日 俗名　村田嘉内	
				（右面） 文化五辰四月廿二日	
㉓	五六	二六一七		（右面） 村田氏	表面剥落
㉔	五九	二六三	明治六年癸酉年 深廣院欣誉勇道居士 八月二十九日	（左面） 七代目俗名三輪彦十郎久徳行年 六十三才	
				（右面） 自先祖六代目□東京府 市ヶ谷町安養寺二葬有三輪氏	

㉕	六五	三一八	長寿院寶誉珍山居士 量寿院𪜈誉栄山大姉 勝雲院随誉考順居士 浄雲院清誉實順大姉	（左面） 長明治三庚午年十月五日 量明治五壬申年八月二十六日	
				（右面） □明治八乙亥年十月十日 浄明治六癸酉年十二月廿九日 静岡県士族谷氏墓	
㉖	六〇	二七一八	願誉西入信士 深誉詠心善女　霊位	（左面） 享保四己亥 三月十三日施主	
				（右面） 享保十六辛亥 五月十二日　板山氏	
㉗		一七一四		地蔵尊か	首と左手欠損
㉘	六四	二五二〇	簾山教外上座 月海妙江大姉 智泉童子 徳誉密傳確翁居士	（左面） 常カ □文化四□ □年□月初七日 □□政六□ □年十月二十日 □享和元□ 酉	表面剥落
				（右面） 簾延享三丙寅年五月十一日 月宝暦五乙亥年十月十六日 智明和三丙戌年十月二十四日 徳天明七丁未年八月十八日	
㉙			□□年 女具位 主枚庄左衛門		欠損大
㉚	六五	三二五	蓮光院乗誉妙池大姉	（左面） 明治七年十一月廿一日	

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
㉛		四二	二三	二三	明治五壬申年 春泡童女 二月五日	(右面) 浜松県貫□士族 小笠原守之妻 (右面) 小笠原源守之長女		
㉜	五輪塔	一六七				四方に梵字あり	風化激しい	図33
㉝	五輪塔	一五七			月赫露心禅定門 中島□兵衛 寛永二年二月十四日	四方に梵字あり		図33
㉞	五輪塔	一三〇			實山道一圃定門 地　中島半兵衛重昌 慶長七壬寅□七日廿九日	一面は漢字で地水火風空 他面は梵字 『過去帳』には龍峯院とあり		図33
㉟	五輪塔	一七三			忠寶院花岳周栄 慶安三庚寅年六月廿五日	(地の部分右面) 施主中嶋　半兵衛正春 四方に梵字あり		図33
㊱	五輪塔	一六六			萬治元戊戌年信 地　昭誉乗英大 十二月十七日士	地水火風空の文字正面のみあり		図33
㊲		九〇	三五	一八			風化激しい	
㊳		六一	三一	二四	□□栄誉清□□丘尼			図33
㊴		一〇六	四三	二七	6 萬治元戊戌年 夢安了春童子 十二月晦日			図33

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
㊵	五輪塔						倒壊し水部分欠落	図33
㊶		五八	二四	一三	寛文十庚戌年 □来室道本上庫覚霊位 四月四日　俗名中嶋□□		上部剥落	図33
㊷		一四一	四三	二七	南無阿弥陀佛			図34
㊸		六二	二四	一六	□春光蒙𠮟信士	(右面) 寛文八戊申天三月□日 (左面) 俗名中	剥落部分あり	
㊹		五八	二五	二	定心院實誉貞舜大姉	(左面) 潮田景徳妻 (右面) 嘉永元戊申十一月十日		
㊺		七五 (全高) 一三〇	三〇	三〇	松寿院三誉得勇永楽居士 識光院牲誉浣室貞閑大姉	(右面) 天保三壬辰年十月十六日 潮田景福妻 (左面)は 『過去帳』に天保十己亥 十月三十日とあり		図34
㊻		七四 (全高) 一四〇	二九	二六	文政十丁亥年 耀光院顕誉慧周智貞大姉 八月十二日	(右面) 潮田覚右衛門景福後妻		図34
㊼		七五 (全高) 一三〇	三〇	三〇	浄本院億誉智道恵空居士	(左面) 文化元甲子年七月初三日		図34

㊽	五〇	二五	一五	實際栄心童子	（右面） 俗名 潮田覚右衛門景富 （右面） 文政九丙戌十月廿九日	欠損が激しい 一部剥落
㊾	六四	二九	二五	珠光院鏡誉照圓大姉	（左面） 嘉永七寅歳閏七月六日 （右面） 潮田景後妻	欠損及び剥落が激しい 風化が激しい
㊿	六二	三〇	二六	閑誉浄昇信女 黄誉鶴山信士 窈誉仙奈信女	（右面） 天保八酉年三月四日 黄誉は『過去帳』に 元治元六月朔日とあり 窈誉は『過去帳』に明治 十三辰十二月三日とあり	欠損が激しい
(51)	六四	二八		享保十九甲寅年 乗誉壹運信士　霊位 七月朔日		
(52)	六七	二八		元禄十五壬午年二月二日施主中本 春誉道休信士 牲岩理法信女□位 宝永四丁亥年霜月十九日森本金右衛門		一部剥落
(53)	五三	二五	一三	一音圓浄聲信士 圓應妙現信女　霊位	（左面） 天保五甲午年十二月十八日 （右面） 文化十四丁丑年六月十四日	
(54)	五三	二五	一七	勇岳智道信士 願應智海信女		

図34

(55)						
(56)	五九	二五	一六	清誉涼運信士 運誉仕清信女	（左面） 施主丹羽喜右衛門 享保四己亥六月二十二日	欠損が激しい 一部剥落
(57)		二七		貞圓元申子年八月十日□□丹羽□□□ 誉思信士 妙心信士		欠損及び剥落が激しい
(58)	五〇	三三	一五	□雪松貞信女 □□□□信□ 地蔵尊彫刻		風化が激しい
(59)						欠損が激しい
(60)	四九	三三	一三	花月蓮光信女 普教現道信士 圓岸祐光信士	（左面） 寛政四子年五月廿日普 九月初六日花 （右面） 同年五癸丑八月朔日□	欠損が激しい
(61)						
(62)		三三		地蔵尊彫刻		欠損及び風化が激しい
(63)	四八 （全高） 一三	二六	二六	徳温院恭誉譲利良民居士 柔温院軟誉賢利良貞大姉	（左面） 万延二辛酉年正月三日 俗名潮田覚右衛門景直	
(64)	五三 （全高） 一三八	三三	二八	賢良院譲誉信恭知道居士 良雄院信誉智譲貞恭大姉	（左面） 明治二己巳年十月十三日 潮田與右衛門景信 良雄院は『過去帳』に 明治十二年八月三十一日 とあり	

図34　図34

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		八二	三〇		□□三□天　□□三□ □□法□□□士 □□　□主□□		風化・剥落	
②		九一	四一		寛文二壬寅暦 本誉妙柳信女 六月廿八日 施主正□			図35
③			三〇				剥落欠損	
④		八六	三四				剥落	
⑤		四九	二五	一七	誠誉興道信士	（左面） 潮田景房墓 （右面） 文政十二寅年七月十三日		図35
⑥		五三	二四	一八	転相院教誉立善居士 教誠院善誉思相大姉	（左面） 文化二乙丑年十月初日 潮田兵□衛門景備 （右面） 享和元辛酉年七月廿七日 潮田兵九衛門妻		図35
⑦		三九	一五	一三	早世浄月童女	（左面） 天門五己十一月廿二日 （右面） 潮田兵左衛門景祥娘墓		図35

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑧		五九	二七	一六	□信□		剥落	
⑨		六九	二五	二〇	享保十二丁未年 廓誉融然貞相大姉霊位 八月十四日			図35
⑩			二三	八	□保三□ □□生□□□信女無生 九月□□		上部欠損	
⑪			三〇				上部欠損	
⑫			三		□□□信□覚信士		欠損	
⑬		五三	三	二三	迎雲自接信士 先祖代々一□諸霊 梅嶽清香信女	（左面） 文政二年四月□朔日 □□ （右面） 文化□年十二庚午月□日		
⑭		四〇	二〇		享保四己亥　之 入寂真誉道巡大徳 六月廿八日　□			
⑮		五三	二四	二六	先祖代々 春窓妙戒信女	（右面） 明治四□年九月□之 川上氏		
⑯		五五	二四	一九	覚誉道智信士 接誉蓮迎信女　霊位			

Ⅸ地区

五輪塔この他倒壊しているものが多い。中にも、寛文元年（一六六一）の紀年銘があり、詠誉窓月信女と戒名の刻されている大型の三角頭の角碑が半分に欠けて横たわっているのが目につく。

番号	形状	大いさ 高さ	大いさ 幅	大いさ 厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑰	無縫塔	一五〇（全高）	二三		（蓮台に書かれている。） 椿律師宥盛僧都	（左面） 延宝六戊午年正月十三日 （右面） 横須賀□□霊□□		図35
⑱		一〇二	一五		正保元年 月窓順桂信士 十月八日	（左面） 元禄十五壬午年四月二十七日 （右面） 久野梅庵墓	欠損	図35
⑲		六一	二七	二〇	相誉鉄應信士			図35
⑳							欠損	
㉑						（左面） 正徳五乙未八月十二日 （右面） 正徳四甲午十二月二十六日	欠損	
㉒		三四	一八		幻知童子 正徳五乙未 一蓮法達童子 七月十七日 栄幻童子			図35
㉓							欠損	
㉔		四六	三	二三	正悦受生信士 □山妙雲信女 孤峯霜雲信女			
㉕		二七			延誉□ 南無阿弥陀佛 愛誉道□信士	自然石を利用		
㉖		一五	二五	一三	□家□信士 先祖代々□一家 □花信		剥落 欠損	
㉗		六〇	二六	二〇	精誉求道信士　安永十丑正月廿四日 浄誉清参信女　寛政十午四月廿五日 栄誉貞華信女　安永国丙申三月廿一日 現誉遊道信女　享和二戌三月八日 花屋妙珍信女　天明三卯十二月廿七日			

番号	形状	大いさ 高さ	大いさ 幅	大いさ 厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		四七	二四	一七	浄覚院称誉念清禅定	（左面） 延宝五丁巳年十一月廿日 四方に梵字あり	水風部分欠落	図36
②	五輪塔							
③	五輪塔					四方に梵字あり	倒壊	
④							風空部分が欠落	
⑤	五輪塔					四方に梵字あり		

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
⑥			四一		寛文元辛丑年 詠誉窓月信女 七月十八日		上部欠落	図36
⑦		四六	二三	一三	明治三庚午年 専教院進誉学善居士 十二月二十七日	(左面) 小野氏		
⑧		七四	二五	一六	光誉道威信士	(左面) 延宝六戊午年六月十六 (右面) 石黒平内造立之		図36
⑨		一〇九	三六	二			倒壊	
⑩		一〇八	三五	二			倒壊	図36
⑪		五七	二四	一七	文化三丙寅年 光誉照遍常心居士 六月二十二日	(左面) 阿部勝文墓		図36
⑫		六〇	二四	一六	開雲院修善道遊居士 光雲院至實誠心大姉	(左面) 俗名　勝会 阿部弥五右衛門之墓 (右面) 安永七戊戌年五月十三日 光雲院は『過去帳』に 天明六午歳十一月十三日 阿部伊寄母とあり		図36

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
⑬		六六	二六	一八	光岳院弘誉真心了北居士 自生院大誉法山里慶大姉	(左面) 宝永二乙酉年八月十八日 (右面) 元禄七甲戌年十一月廿四日		図36
⑭		六五	二七	一九	正徳三癸巳年 定照院園誉栄禅大姉 四月朔日	(裏面) 阿部八郎右衛門勝嗣 施主阿部又□助佐治		図36
⑮		五一	二四		享保五庚子年九月十五日 □□露鮮童女 地蔵尊彫刻			図36
⑯							倒壊	
⑰		六七	二七	二五	享保五庚子年 霊光院岳誉了山居士 九月十一日	(右面) 施主男　勝嗣 佐治　建		
⑱		六六	二七	一九	享保十三戊申年 歸本儀誉諦真一学居士霊位			
⑲		六二	二三	一六	先誉冠角哲心居士 八月十日 光誉秋月貞照信女霊位	(左面) 元文三戊午年五月廿九日 (右面) 享保十三戊申八月三日		図36
⑳		六二	二五	一六	元文五庚申年 真念院諦誉妙憶大姉 六月二十八日		剥落あり	図37
㉑		六二	二六	一八	清誉顯明智白信士 信行院義觀禮智居士	(左面) 清宝暦七丁丑三月二十二日		

㉑			春功理轉童子	信安永六丁酉九月十六日 （右面） 延享二乙丑二月十五日	
㉒	五四	二三 一三	明和四丁亥十月朔日 重圓院現誉曜光姉 梅𦬊閉𦬊童女 宝暦八戊寅正月□日		表面剥落あり 図37
㉓	六五	二五 二三	覚明院正誉時休居士 光照院明誉貞鏡大姉	（左面） 弘化二乙巳年五月十三日 俗名阿部弥太夫勝和 光照院は『過去帳』に弘化三丙午十二月七日と記してあり	図37
㉔				自然石を利用	
㉕	六五	二〇 二四	徹誉浄諫居士 赫誉妙顕大姉	（左面） 徹誉は『過去帳』に承應三甲午十月廿三日とあり 袁孝孫	
㉖	九一		赫誉妙顕□女	明治三年八月小島八右衛門尚房 建立ヨ 『過去帳』に赫誉は赫容として寛永十三丙子六月廿八日八右衛門老母とあり	剥落あり
㉗	一〇〇		宝篋印塔	正面に梵字あり	剥落あり
㉘	七三	三一五	諦誉行安信士 蓮誉妙白信女	（左面） 延宝四丙辰年三月廿一日 （右面）	風化あり 図37

㉙	六〇	二七 二〇	極誉照頓居士 安誉惣知信女	延宝六戊午年七月廿五日 （左面） 元禄十六未十月九日 （右面） 享保十五戊八月五日	剥落あり 図37
㉚	六〇	二三 一四	冬室法種童女 生覚還往信士 覚寿全了信士	（左面） 冬元禄五壬申十月五日 生享保五庚子十一月二日 （右面） 享保四己亥九月九日	図37
㉛	五四	二三	地蔵尊彫刻	（左面） 元文三□十月十三日 『過去帳』には幻霜童女とあり （右面） 寛保弐壬戌　十月二十九日 『過去帳』に為源乗霜童子とあり	剥落している 図37
㉜	六三	二五 一八	圓誉了教惣頓信士 一蓮壹誉念教是稱信女霊	（左面） 宝暦六丙子九月朔日 壹誉は『過去帳』に明和九壬辰九月十日とあり	
㉝	六四	二六 一九	察誉法観信士 天誉妙冠信女各位	（左面） 八衛門 問屋 同妻　墓 （右面） 察寛政六寅三月十四日 天安永二己癸巳三月廿二日	
㉞	六四	二六 一九	𑖌𑖼𑖨𑖿 明和五子歳	（左面）	

X地区　新墓も多く、江戸時代の小型の角碑もかなり見受けられる。

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㉟		六五	二九	二五	安誉寿楽正倫居士 真誉浄観大姉	釋尼妙要戊二月十四日 教遊童女午五月二十一日 （右面） 亮雅童女巳明和六己巳十一月二十九日 稚消童女己安永二癸己三月二十七日 （左面） 天保六乙未歳五月二日 （右面） 文化十三丙子年十月廿五日 正倫継母 俗名志□	倒壊	図37
㊱		一〇七	二四	一九			風化あり	
㊲		九一	三〇		寛永廿年	『過去帳』に寛永十癸酉	表面剥	

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㊲		九一	三〇		諦□桂聖信女 □月八日	諦琳桂聖尼とあり 九月八日	落、風化あり	図39
㊳			三		□□妙正信女 四月□□		上部欠損、風化あり	
㊴		八一	二四		明暦四戊戌年 堪林道応信士 三月十九日施主山本長太夫			
㊵		五九	二五	二〇	覚眼院慈光聞道居士 覚本院明光了道大姉			
㊶			三		寛保三癸□ 泰王院理誉智春大姉 二月二十一日			

第9図　X地区

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		七	一七			自然石を利用		
②		二五	一三	六			剥落	
③		六	三〇			自然石を利用		
④		二七	一六	九	□正女		剥落	
⑤		二六	一三	八			剥落	
⑥			一四	七			上部欠損、剥落	
⑦		三〇	一七	一〇	春山映光童女 本覚随遠童子	（左面） 文化十二己亥年正月十二日 （右面） 文化□□□□十一月□□		
⑧		四八	二五	一六	梅誉浄雲信士 □社代□誉妙雲信女	（左面） 天保十二丑歳四月二十一日 梅誉は『過去帳』に明治四未五月十四日とあり		
⑨		五三	二三	一六	圓誉観雪貞生庵尼			
⑩		四八	二三	一四	歓誉一超宜入居士 □董童女 但誉受□妙楽大姉			
⑪		四七	二三	一四	實誉想智理中居士 相誉寿貞栄人大□			

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑫		八九	二六	二三			表面風化	
⑬		四四	二三	二一				
⑭		五九	二四	一七		（右面） 元文五庚申天八月廿一日	他の碑と重なっている	
⑮		五六	二三	一四				
⑯		五一	二五	一四	心誉安□ 閏四月九日			
⑰		六〇	二三	一六	宗室浄□信士位 倶會光学妙保信女	（左面） 正保三戌年八月十九日 （右面） 正保三戌年八月十九日		
⑱		五八	二一	一七	教誉是頓信士 同彼日誉栄春信女會	（左面） 正保二酉年三月廿九日 『過去帳』には晦日とあり （右面） 延宝九酉年七月十三日		図38
⑲		六三	二三	一八	軟誉称憶□讃大徳 讃誉瑞光恵称大姉霊位			
⑳		五五	二七	二三			倒壊し剥落あり	図38
㉑		三九	一七	二三	宝暦六丙子天 孝旭理芳童子 正月十八日			

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㉒		五三	二五	一八	音誉玻月響音流居士	（左面） 享和三癸亥年八月廿一日 （右面） 筆第中造立之		図38
㉓							欠損 一部残存	
㉔		三八	一七	九	成誉秀道学士	（右面） 文政八酉年五月十三日		図38
㉕		五一	二	一六	徳誉功量信士 松誉寿貞信女	（右面） 文政七申七月八日 松誉は『過去帳』に弘化四丁未七月十三日とあり		
㉖		四〇	二〇	一一	即誉是三信士 照誉是心信女			
㉗		五〇	二三	一五	栄顔院松誉寿貞大姉 了性院貞誉玄柳居士 顕圀院玄誉妙貞大姉	（左面） 寿貞元禄七甲戌正月廿七日 □柳享保七壬寅四月七日 妙貞元文五庚申七月廿七日 （右面） 浅野寿三建之		図38
㉘		五一	二三	一八	救療院顕誉寿三居士 榮寿院慈誉貞保大姉	（左面） 延享二乙丑天四月十九日 （右面） 浅野氏 栄寿院は『過去帳』に明和元七月十二日とあり		図38

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㉙		五〇	二五	一五	宝暦元辛未天 想頓院昂是宗奄居士位 十二月十九日			図38
㉚		五九	二七	二〇	本誉顕光南□居士 頓誉善節南□大姉 霜誉善□□□大姉 善誉芳□真常□□	（右面） 明治三十年□□		
㉛		五五	二五	一七	現誉豪道大雄居士 往誉生安貞現大姉	（左面） 現　嘉永五子二月十八日 往　天保十二丑四月廿一日		
㉜		五八	二六	二	攬院顕道南畊居士 長誉顕善貞寿大姉	（左面） 文政十三庚年三月 長誉は『過去帳』に天保十四癸卯十月廿六日とあり		
㉝		二四	一三	一一			剥落あり	
㉞		五二	二三	一四	脱霜智薫童女 覚月理本童女		上部欠損	
㉟		五九	二四	一六	寛政七乙卯年 音誉浄儀清觀信士 十月十四日			
㊱		五二	二四	一五	文政十三寅 春住光生信士 正月十九日			
㊲		四四	二〇	一一	智専慧寶信士			

㊳	四一	二一四	先祖代々諸霊 安屋貞閑信女			
㊴	五三	二四一八	嘉永三戌年 宅誉貞現信女 十一月七日			
㊵			破山見外信士 見宅貞性信女	(左面) 文久三亥年十月十四日		
㊶	五三	二三一三	早世廓然童女 享保八癸卯天正月廿一日	慶応二丑年十月三日 『過去帳』は丑でなく寅 とあり 地蔵尊彫刻	剥落	
㊷	六〇	二六一六	實道相専信士 歴知院觀錯了然居士 聲屋妙音大姉	(左面) □明和元申十二月十八日 聲天明四己九月四日 (右面) 実寛政元酉五月十四日 香含童女明和三戌年二月二十四日		
㊸	四九	二一五	安室貞詳信女 金誉剛山居士 寿誉貞専信女	(左面) 金　文政三庚辰年八月廿九日 安　天保四癸巳年八月廿五日		
㊹	六五	二六一三	桃岸知源信士 知光源明信女	(左面) 桃安政三卯年二月廿四日 知		
㊺		二九二五	春冒童女 宝永五戊子年正月八日	地蔵尊彫刻	上部欠	図38

㊻	無縫塔 吾〇 (全高) 八七	三三	□□律師宥正不生位	(左面) 天和二壬戌年 『過去帳』に 二月三日とあり	欠損	図38
㊼	八二	三〇一三	万治元□戌 法誉清念信女 十一月□日		剥落 風化あり	
㊽	八九	四四一四	□光□	(自然石を利用)		
㊾		一六			欠損	
㊿		三〇二			上部をのこし埋っている	
51	七〇	三三一六	喜誉感光宗悦居士 捜誉幽光妙玄大姉 霊位 十一月十三日	(左面) 延宝四丙辰年 (右面) 享保元丙申年十月十八日 (裏面) 施主住吉屋加兵衛		

XI地区　江戸時代でも、比較的古い三角頭角碑もあるが、倒壊しているものが多い。しかし、そのため、この形式の下底部には枘が突出し、基台の枘穴にさしこんでいることもわかる。五輪塔四基もある。

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
①	五輪塔	一七〇			(地の部分) 慶長十八癸丑年 高源院殿 壁誉義山道鐵居士 九月十二日卒	(左面) 大須賀家建之 小笠原 姓名義頼墓 四方に梵字あり	風化	図39
②	五輪塔	一七一			(地の部分) 寛永八辛未年 清泰院 廣誉歓山善宗居士 三月十六日卒	(右面) 『過去帳』に小笠原惣兵衛とあり 小笠原 實名清廣墓 四方に梵字あり	風化	図39
③	五輪塔	一四二			時寛永十六□巳□月□□ 先□□□定尼□ 信女施主□□□□□没	四方に漢字で空風火水地の刻文あり	風化	図39

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
④	五輪塔	一四七				四方に梵字あり	風化及び欠損	図39
⑤		一〇七	三六	二〇			風化及び剥落	図40
⑥		九八	二四	二〇	□年二月十三日 □		風化及び剥落	
⑦		一〇四	二四	一八	□ □□□□□信女		風化及び剥落	図40
⑧			二〇	二六	□定尼		半分欠損	
⑨		六八	二六	一三			風化	

第10図　IX・XI地区

第11図　XI 地 区

⑩
一〇
三六　一七
倒壊

⑪
四一　三
蓮誉祖由□
厳誉恵□
上部欠損

⑫
三四　一七
風化及び欠損

⑬
三三　一七
歸真露顔妙栄禅定尼
（左面）
寛文十二壬子暦七月十□
（右面）
施主寺西□
下部土中

図40

⑭
三三　一五
寛文七年丁未三月□
男伊□
下部土中

⑮
九九
五七　二
矢部蕃之墓
（裏面）
矢部君己歿将週七襁共次子小幡直彰来
傳兄語請銘其墓余興君同郷里知其行誼尤熟故不辞君
諱勝藩江戸人圖幕臣長井利順第三子天保五年出嗣夫郎氏
平其通称也君性好読書諌通孫史為人朴素不飾淡於名利風絶者
雲之志垂惟教授数十年不来往諸名流間当時諸儒莫知君者亦不
甚意也君兵他書好毎有教授餘暇晴則何竿釣江干雨則圍棋飲酒以
為常文久紀元君歳六十告老於幕府以長子勝暉為嗣明治維新我□君
家連公之就新封也君興勝暉移家枚遠州横須賀新蓿門人来学者数十
人呼唔之聲達干四隣併在江戸之日也可諸教而不倦美明治六年五月
二十二日病歿享年七十有三葬干遠州城東郡小谷田村撰要寺新栄君
姦字佐美氏生二男二女皆嫡千人宇佐美氏先君而歿再娶小長谷
氏亦先君而歿小長谷氏生一男幼字甲子蔵君尤鐘愛士猶記昔年時〃
訪君白山御殿屑爾時甲子蔵猶在襁褓見匍匐於君膝下君摩其頭而撫
愛之甲子蔵今年二十七矢聞為遠州某学校真追想往事憮然久
之銘日教而不倦　後進頼之　学本為己　不要人知
明治十四年五月下浣　内藤正明撰
（明治十年以降のものであるが参考のため記した）

⑯
二四　一五
□□圓喜妙因信女霊位
（左面）
寛文十庚戌年五月八日
上部欠落

⑰
一〇六
三五　一八
倒壊

⑱
三〇　一九
半分土中、剥落

⑲
一〇
四四　二五
萬治元戊戌年
萬香英春信女
施主
十一月四日大久保五左衛門

図40

⑳
二〇
四五
寛文三癸卯年
善誉休意信士
七月四日
倒壊

図40

㉑
一一三
三五　三
倒壊

㉒
一三
三六　二
倒壊

㉓
一三
三四　二〇
南無阿弥陀佛
倒れ風化

㉔
五九
二六　一六
剥落

㉕
七一
三五　一四
正保三丙戌年
光安清心信女
十月朔日
剥落

図40

㉖
一〇五
三七　一三
□
倒れ剥落

㉗
六七
二七　一六
□□念西□子
剥落

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㉘		五三	二〇	一三	覚応清讃信女 堀与三右衛門			
㉙			二三	一六	□□頓覚利相信女	(左面) 延宝七己未年二月廿四日 (右面) 施主石川半三郎	欠損及び剥落	
㉚			二四	一三	宝暦丑年三月廿三日 □室妙清信女 孝子多田源六立		欠損及び剥落	
㉛		七五	二四	一八	圓誉光輪信士	(左面) 池田伊左衛門立 (右面) 寛文八年戊申八月廿一日 (裏面) 池田五郎右衛門之墓	剥落	図40
㉜		一〇〇	四〇	一五	□応九壬辰年九月十二日 月閑浄宗信男 施主池田□進		剥落	
㉝		九一	二七	二	龍氏梅孺人□□	(左面) 寛文元年辛丑七月十日卒 (右面) 喜□　衛門立 (裏面) 香誉誓安信女	剥落	図40
㉞		一三三	四六	二六			倒れ剥落	

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㉟		八九	二一	一四			倒れ風化	
㊱		一一八	五二	二六			倒れ欠落あり	
㊲		一一五	二七	二四	南無阿弥陀佛		剥落	
㊳		一〇八	三〇	二三			倒れ剥落	
㊴		九五	二六	二三			倒れ剥落	
㊵			二四	一三	□正廿二天 量教宗無信士霊□ 十一月十四日		下部土中・風化	
㊶		一一	三三	二〇	□禅定門		風化	
㊷		五五	二三	一五	寛永二乙丑年 麗洞宗竒禅定門 四月十二日	(左面) 文化十五戊寅年四月十二日 七代目赤監帥右衛門勝富 逅立 (右面) 寛永十六己卯年 妙憶禅定尼 正月二日		

Ⅻ地区　新墓も多いが、江戸時代の小型の角碑が多数存する。

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		四三	三		因保十四己卯六月□六日 妙真童女	地蔵尊彫刻		図42
②							欠損	
③		五三	二五	一五	元禄十四辛巳正月三日 上誉空品信士 崇誉妙隆信女 天和三癸亥七月廿日	（右面） 金野氏		図42
④							倒壊	
⑤							倒壊	
⑥		四六	二八	一九	貞享乙丑年正月十九日 性誉梅空信士			図42

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑥					享保十五庚戌年 洞誉安𠮷信士　霊位 七月十九日 明屋光貞信女 宝永六己丑年八月三日			
⑦			三〇				欠損	
⑧		五六	二七	一八	融誉徳光広節信士 花選童女 霜誉融光妙節信女	（右面） 万延二辛酉年二月晦日 霜誉は『過去帳』に元治元十月廿五日とあり		図42
⑨		五七	二四	二〇	梵 聲誉不絶信士 教誉会聲信女	（左面） 明和二乙酉年十月□五日 教誉は『過去帳』に寛政		図42

第12図　Ⅻ 地 区

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑩		六一	二九	一六	飛 学誉教善信士 光誉清寿信女 □	三亥七月十一日とあり （左面） 延宝三乙卯天六月七日 （右面） 宝永元甲申天二月十三日		図42
⑪		六三	二七	一八	暁誉道諌信士 花玉利春信女 一処	（左面） 明暦酉年二月廿五日 （右面） 慶安三寅年三月八日 本町與三右門母 『過去帳』には花玉は玉でなく誉とあり		図42
⑫		五三	二三	一五	直誉寂然信士各位	（左面） 文化六己巳十一月十六日		図42
⑬		五四	二七	一八	法誉恩教信士 早世養仙童子	（左面） 文化四卯年四月五日 （右面） 元禄十六年二月十日		図42
⑭		五六	二七	二〇	𠮟誉誠荘信士 憲誉貞章信女	（左面） 天保十一申九月十日 （右面） 天保十亥八月廿三日		図41
⑮		五六	二〇	二	□信誉徹宗信士		欠損	
⑯		五八	二五		宝永六己丑天 順誉智教信女 霜月十九日	（右面） 安井 『過去帳』には安井吉左		

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑰		四四	三二	二	延享三丙寅年 運誉垂到信士 二月三日	衛門母とあり （右面） 倉野惣次郎		図41
⑱		五〇	一八	二			風化	
⑲		六二	二三	一五	倶會 本誉浄誓信士 願誉妙知信女	（左面） 享保三戊戌十月七日 （右面） 正徳四甲午十月廿二日		
⑳		四九	二四	一四	祐光童子 露光慈雲童子 暁岸童女	（左面） 慶応元丑年四月廿六日 （右面） 文久二戌年七月十九日 暁明治三午年八月廿七日		
㉑		五二	二五	一五	圀誉台道信女	（左面） 文久三亥年五月十九日		
㉒		五〇	二四	一四	乗誉蓮光信女 光誉乗雲信女 蓮□童女	（左面） 乗慶応二寅年七月八日 光明治三午年十一月十六日		
㉓		四七	二四	一四	春窓妙喜信女 寂誉友静信士 静誉友光信女	（左面） 文化十酉年正月十三日 静誉は『過去帳』に安政四丁巳八月八日とあり 寂誉は『過去帳』に嘉永七甲寅正月とあり		

㉔	四九	三一五	釋氏浄円 同蓮　乗宝蓮趣信士 夏猷貞求信女		
㉕	五五	二四二	才誉浄窓信士 澄誉妙岸信女 春誉良全隆道信士 良誉妙涼貞道信女 春誉梅香信女 春誉妙林信女	（左面） 天保五午十一月十七日 文政十子十月　四日 明治十九年三月三日 明治三十年五月廿一日 明治二十八年二月三日 明治三十三年二月十四日 （右面） 松下孫吉　建之	
㉖	五二	二四一五	然誉幽廓信士 鏡誉浄悦信女　蓮　詫生位	（左面） 延享三丙寅六月廿九日 （右面） 宝暦十二午六月十九日	剥落あり
㉗	六〇	二五一三	釣道円上座 風誉蓮高信女同霊 享保六辛丑年八月十一日 起雪童子	（左面） 元禄十四辛巳年十二月廿日 （右面） □禄十五壬午年十二月十二日	剥落あり
㉘	六七	二六一六	性誉幽山實玄浄信士 安誉祐光貞心清信女	（左面） 元文五庚申年十月六日 安誉は『過去帳』に宝暦元未十一月廿日とあり	
㉙	五二	二六二〇	覚誉圓智春明居士 圓誉鏡智慧照大姉	（左面） 天明五己酉二月二日 （右面） 安永三年十二月十七日	
㉚	六二	二七二〇	明誉澄月晴光居士	（左面）	

図41

㉛	五九	三〇三三	神誉通達妙光大姉 齢誉延仙□光居士 長誉遠久貞光大姉	文政七申八月十五日 （右面） 寛政十一未四月十九日 （左面） 天保十一庚子年七月九日 長誉は『過去帳』に嘉永三庚戌六月四日とあり	
㉜	五九	二六三三	徐誉逝光詳安居士　位 詳誉妙光貞安大姉	（左面） 明治四年未十月廿二日 （右面） 嘉永元戊申年八月十二日	
㉝	五五	二四一五	満月童子寛政十一未四月十六日 英□童子享和四子正月十□日 稚夢童子文政三辰□月十□日		
㉞		二〇一三	（剥落部）禅定尼霊位	（剥落部）庚申年	上部欠損
㉟	五一	二三一四	正誉覚明信士 寒誉樹光信女	（左面） 安政五午年十二月廿六日 （右面） 明治七戊年五月十一日	
㊱	六六	二五二五	栄誉□潍信士	（左面） 大正二年九月廿六日建	
㊲	七二	二六二〇	照誉霊應居士　覚位 十一月十二日	（左面） 福田氏仁右衛友武之塔 宝永二乙酉年	剥落
㊳	七〇	二六一八	正徳二壬辰年 信教院誠誉雪心居士　霊位		欠損

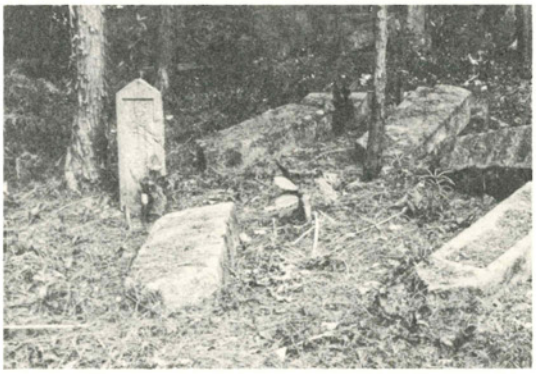
番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㊴		六八	二六	一八	極月廿五日	(左面) 享保十三戊申年十月□九日 『過去帳』に放光院禅誉 栄智大姉とあり	剥落	
㊵		五〇	二〇	一三	延宝四丙辰年 □真勝誉妙超信女 六月八日		剥落	
㊶		五五	二七	一五	祐誉如心信士 然誉生無信士 貫誉□練信女 清誉涼秋信士 皓誉壽清信女			
㊷		四八	二五	一六	根譽善心信士 逸誉妙全信女	(左面) 明治七年十二月三日 逸誉は『過去帳』に明治 廿一年三月廿一日とあり		
㊸		七〇	三〇		天和三癸亥年 帰入行誉源知信士　霊位 三月六日			図41
㊹		八〇	四〇		真誉宗□信士 □誉□清信士		風化	図41
㊺		四八	二四		清誉祐山信士 宝永五戊子六月十八日 日峯恵達信女	(左面) 施主平岩□ 享保十四己酉正月十一日	欠損	図41

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㊻		二四	四六	六	俱會　一□位 學誉了禅信士 享保六辛丑四月十一日 祐誉慈□信女			
㊼		四四	二四	一四	□□□花一□霊 明治三十四年五月七日 俗名平岩寅吉			
㊽		五〇	三二	一六	起誉可悦信士 秋岳□信女			
㊾		五〇	三二	一五	廓誉□壮信士	(左面) 宝永二乙酉年十一月八日 (右面) 享保十八癸丑年六月十五日 施主　雑賀屋想八		
㊿		五〇	三		實誉覚□信士 至誉誠休大徳　旭霜童子 廣誉皆願信士　覚月童子 諸誉妙智信女			
51		四八	三		廓誉了然信士　霊位 真誉智薫善女	(左面) 施主　雑賀屋庄兵衛		図41
					元禄十三辰年十二月九日 慧光空哲信士 蓮　佗生 悦誉妙喜信女 宝永二乙酉年二月十九日			
					元禄四年 春光了道信士 正月廿七日			

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
①					寛文二年□月九日 （正面） 清月妙詠信女 犬塚□□墓施主野崎弥太輔娘密		崩壊し2つに分かれている	

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
②	一重基壇	一〇〇	三五	二〇	寛文九酉年十二月朔日 月秋道白信士 施主		倒れ風化	
③							上部欠	

XIII地区　参道に向って左がわにある。この地区の特色は、四基の大型の五輪塔のあることで、やや奥まったところに、天正十二年四月九日長久手で討死した小笠原半五郎（氏信）の五輪塔が、劔徳院刃誉雄山長久居士の戒名を地輪部と刻して立ち、この向って左には、文禄二年九月十八日死んだ小笠原所左衛門茂次の五輪塔が、養寿院廓誉無聖茂繁居士の戒名を刻して立つ。この他、寛永八年（一六三一）に死去した小笠原惣兵衛尉清広、慶長十八年（一六一三）に死去した小笠原右京進義頼の五輪塔もある。ほかに承應三年（一六五四）の露光秋光童子銘の三角尖頭枚状碑をはじめ江戸時代初期のものも多い。



第13図　XIII 地 区

	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㊷		五一	三三	二八	真誉安喜信士 廓誉了然信士 長誉良遠信女	（左面） 真　享保九辰十二月九日 廓　延享三寅三月廿一日 （右面） 長　安永七戌四月四日	欠損あり	
㊸		五三	三三	二五	梵誉海音信士 海誉衣音信女 逝音　童子	（左面） 寛政十午十月廿七日 逝音童子は『過去帳』に明和九壬辰六月十八日とあり		
㊹		四六	三二	二五	調誉知道信士 誠誉實道信女	（左面） 弘化二乙巳年六月十日		

	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㊺		五七	二六	二七	寛道貞仁信女 顕誉現道信士 □誉妙現信女	（右面） 明治四未年九月二十九日 （左面） 寛嘉永二酉九月廿一日 顕明治二己五月九日		
㊻		四八	三	二六	先祖代々　転寿信女霊	（右面） 寛政十天五月十四日		

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
④		二三	三八	二〇	葉若甚右衛門		倒壊	
⑤		四五	一八	一〇	明治六酉年 清誉寿永妙貞大姉 四月十日	(左面) 俗名□□ 行年六十九才□ (右面) 中嶋氏	倒壊	
⑥		二〇	三六	一七			倒れ風化	
⑦		一〇〇	三〇	二〇			倒れ風化	
⑧		九〇	三一	一七			風化が激しい	
⑨		六二	三〇		承応三甲午年 露光秋光童子 九月廿五日			図43
⑩		七〇	三〇		承応三甲午年 周光月心信女 十月十七日			
⑪		七四	三五	一五	帰真□□具玉禅正尼□位	(左面) □主 彦坂四郎右衛門則應 (右面) 正保二年乙酉十一月 十七日卒	一部剥落	図43

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
⑫		一一〇	三八	一八			倒れ風化	
⑬		一〇六	三一	一八	(裏) □□□□□□		倒れ風化	
⑭		一三三	四二	二六	南無阿弥陀佛□□□通□□ □□□□		倒れ風化	
⑮		一〇〇	三四	一七			倒れ風化	
⑯		五七	四四	三三	□□□□		半分埋まり風化大激しい	
⑰		一一五	四〇	二〇			倒壊	
⑱		九六	三三	一六			倒れ風化が激しい	
⑲					四方に梵字あり。		水地部分欠落	
⑳					四方に梵字あり。		地のみ	
㉑	五輪塔	一三七			□善院圓□尼 (正面) 地　太□新□□ □□□□ 元和七辛酉年九月十八日		風化が激しい	図43

㉒	九二	三九		（正面） （裏面） 慶安四辛卯年九月一日 西誉道雲禅定門 施主田中源左衛門	
㉓	七八	二五	一九	清誉理清女	（左面） （右面） 寛文十三癸丑五月廿二日 施主松本源五左衛門
㉔	一二五	三八	一五		倒壊
㉕		三二	一六		上部欠 剥落大
㉖	一一八	三八	一六		倒れ風 化
㉗		三六	一三		倒れ下 部欠損
㉘	一一八	三八	一六		倒れ風 化、欠 損大
㉙	一二〇	四〇	二四		倒れ風 化、欠 損大
㉚	六四	三一	一三	徳本浄覚信士	（左面） 寛文十二壬子年正月九日

㉛	九五	三四	一六	（右面） 施主　鈴木太郎	倒れ風 化
㉜	一〇〇	三〇	一六	（裏面） 南無阿弥陀仏□□□□□	
㉝	九四	三一	一二		倒れ風 化
㉞	一〇四	四一	二三	萬治三年 帰真春覚光妙意禅定尼霊位 安三月十日	図43
㉟	一〇一	四二	二四	万治二年 帰真報壹了閑禅定門霊位 九月廿三日	上部欠 図43
㊱	一〇四	三六	二七	一誉道也信士	風化 倒壊
㊲		三六	一六		上半欠 損、風 化が激 しい 風化 倒壊
㊳	一〇八	三	二四	□□□□□信士 元和九□□□	
㊴	四二	二〇	一〇	明治五申年 花雲童女 三月朔日	

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
㊵		八三	三二	二四	正保四丁亥十月五日 松月詠感信女			図43
㊶	五輪塔	一四				四方に梵字あり	風化	図43
㊷	五輪塔						倒壊	
㊸	五輪塔						倒壊	
㊹		九四	三三	一七	寛永十年□□ 南無阿弥陀佛		風化激しい	
㊺	五輪塔				（火・風・空の部分現存）	四方に梵字あり	倒壊	
㊻		一〇九	三五	二五			風化	
㊼					□□元□年十一月八日 □□□□禅定門		倒れる 風化	
㊽	五輪塔	一五〇			（地の部分） □□□□ 慶長□年□月	一方には漢字で他は梵字がかかれている。	風化が激しい	
㊾	五輪塔						倒壊	
㊿		九三	四〇	二六			表面が剥落	
(51)	五輪塔						倒壊	
(52)		六五	二四	一六	證誉自入信士	（左面） 延宝九辛酉年六月廿四日 （右面）	上部欠損	図43

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
(53)		五三	三	一四	明治四未年 良雄院温誉英俊信士 九月十一日			
(54)		七〇	三	一七			風化が激しい 後ろ向きに倒れる	
(55)		四三	二〇	二	詠月知秋童女 玉光知恵童女	（左面） 明治三午年九月十四日 （右面） 明治四未年三月廿九日 川前氏	剥落あり	
(56)		四一	一九	一〇	明治八亥年 西岸院方誉妙入大姉 三月十九日	（右面） 川前氏		
(57)			二六				前向きに倒れる	
(58)		七三	三〇		慶安二己丑五月十一日 是□了性信士 □□尾山□助		風化及び剥落 倒壊	
(59)		四三	一八	一〇	心光浄圓信士	（左面）	風化が	

⑥⓪	五輪塔				寛文十三癸丑年 （右面） 施主佐藤小太□	
⑥⓫	五輪塔	一六二	四八	四八	（地の部分） 天正十二甲年 劔徳院及誉雄山長久居士 四月初六日討死	四方に梵字あり 『過去帳』には 四月九日討死とあり
⑥⓬	五輪塔	一七四			（地の部分）（正面） 文禄二癸己年 養寿院廓誉無聖茂繁居士 九月十八日卒□	（地の部分左面） 小笠原 實名茂次墓 四方に梵字あり

⑥⓪	五輪塔					風の部分のみ残存
⑥⓫	五輪塔	一六二	四八	四八	（地の部分）	
⑥⓬	五輪塔	一七四			（地の部分）（正面）	

⑥⓪	五輪塔					欠損、風化大
⑥⓫	五輪塔	一六二	四八	四八	（地の部分）	風化大
⑥⓬	五輪塔	一七四			（地の部分）（正面）	

図44

図44

⑥⓭		一〇二	三八		慶安己丑年 還去松岳柏心信士霊位 十一月晦日	倒壊 一部欠
⑥⓮		二一〇	三五	三三		前向きに倒れる風化が激しい
⑥⓯		七九	二四	一七	□勝剛存殊信士	剥落

⑥⓭						
⑥⓮					（裏面） 南無阿弥陀佛	
⑥⓯					（左面） 延寶二甲寅年七月十一日 （右面） 施主大野瀬兵衛	

XIV地区　参道に沿った右がわの拡い地区に東西にならんで存する。この南の方は、傾斜面をなし竹藪となる。新墓としては、昭和十四年銘の「先祖代々之墓」の一基の角碑があるのみで、他は江戸時代のものである。この中に、9例は笠付角碑があるが、一種の位牌型の形式をもっていて特殊である。

第14図　XIV 地 区

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		五七	二六	一五	浄屋廓心信士 空月了照浄信士 霊位	(左面) 延享三寅六月十三日 (右面) 寛保元酉九月五日		
②			二八	一九			欠損	
③		五四	二四	一六	享保十二丁未年 常誉諦圓貞智大姉 十一月初五日			図45
④		四三	二一	一五	天保四癸巳年 法月良樹童女 十二月八日	(左面) 町野紋左衛門庸次 三女		図45
⑤		四九	二三	一六	天保四癸巳年 朗月詠笑貞吟童女 十二月八日			図45
⑥		四六	二三	一四	享和三亥年 英光秀林童子 霜月和九日	(右面) 町野文右衛門憲次二男 俗名 町野文吉		
⑦		二六	二九	一七	〔元〕禄十一戊〔寅〕 光全院準誉一済居士 十二月十五日			
⑧		六八	二七	二〇	享保十乙巳年 浄誉清〔了〕到岸大姉霊位 十一月十七日	(右面) 施主 町野氏 『過去帳』には 清涼院浄誉雪光到岸大 姉とあり		

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑨		七三	二八	一九	享保十六辛亥年 〔梵〕直致院精誉一起浄進居士 二月十五日	(右面) 町野氏安次墓		
⑩		九九	三九	二五	観義院洗蓮社清誉一水居士 宣光院白誉明融大姉	(左面) 俗名町野友右衛門英次墓 明和二酉年九月六日 (右面) 宣安永四乙未年十月廿八日 英次後妻		図45
⑪		九一	三九	二六	仁得院義誉礼智一言居士 仁光院礼誉智貞信敬大姉	(左面) 俗名町野紋左衛門隆次墓 文化十一甲戌年五月十八日 (右面) 文政十一戊子年二月初六日 隆次後妻		図45
⑫		七〇	二九	二四	容好院正相妙殊大姉	(左面) 町野紋左衛門妻 (右面) 明和五戊子十月十四日		
⑬		四〇	一六	一五	寛政二戊年 〔梵〕月窓暁夢善童子 二月初日	(右面) 於江戸赤坂法安寺葬 町野紋左衛門隆次男		
⑭		六九	二六	一八	寛政四壬子年 〔梵〕光照院遍室明秋大姉 九月初三日	(左面) 義父町野紋左衛門隆次娘 町野虎吉憲次妻		
⑮		四一	三二	一五	天保十四癸卯年 瑤現良笑童子			

⑮

十一月二十三日

⑯

九三

元三 三

純明院満誉錦秋廣園居士
松仙院廣誉寿永貞信大姉

（左面）
俗名町野紋左衛門庸次墓
弘化三丙午年六月十五日
（右面）
弘化四丁未年五月十八日
庸次妻

⑰

一〇〇

四〇 二五

日新院孝誉行全一道居士
長寿院繁誉量昌榮保大姉

（左面）
俗名町野文右衛門憲次墓
文政六癸未年八月十五日
（右面）
弘化三丙午年六月九日
憲次後妻

⑱

五五

二五 一六

□院郷□誉了□
□誉知□

（左面）
『過去帳』に三月十一日
として栄華院香誉知白
大姉とあり
宝暦十庚辰三月
『過去帳』に享保元丙申
十一月十一日に徳池院
誉了波居士とあり
（右面）
□国三河俗名
鳥居□市□門
生国駿河田中□治墓

欠落
表面風化あり

⑲

七五

三〇 二四

寂真院静岳實應居士
乗智院最誉貞應大姉

（左面）
宝暦十二歳壬午十一月廿六日卒
葬武州江戸麹町心法寺
先祖三河国俗名
鳥居弥市左衛門景寛

図45

⑳

七七

三一 一六

□元晴岸快山信士
元禄十三庚辰年五月廿八日
地蔵尊彫刻

（右面）
信孫生駿孫卒俗名
鳥居伴右衛門景平

㉑

七一

元三 三

華香院厳誉珍荘居士
妙真院智眼恵光大姉

（左面）
文化四丁卯年正月廿九日
俗名鳥居弥市左衛門景共
（右面）
天明六己酉年九月九日
景共妻

㉒

七三

三〇 三

崇善院徳誉興仁居士
量光院寿誉栄秀大姉

（左面）
崇文政元戊寅年十一月三日
俗名
鳥居弥一兵衛景明
景光院は『過去帳』に
安政二乙卯十一月三日
とあり

㉓

五三

六 一五

享保六辛丑天二月六日
還本清岳浄感信烹位

地蔵尊彫刻

㉔

地蔵尊彫刻

欠落

㉕

七四

三〇 二四

正徳元辛卯□年五月廿八日
永稱院元誉徳翁居士
霊安院応誉恵聲大姉
享保□□年正月□三日

（右面）
本国三カカ
俗名鳥居儀右門景富碑
生国常カカ

生国横須賀
（右面）
安永九歳庚子正月初八日先
鳥居弥市左衛門景寛
後妻

図45

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
㉖		五四	二五	一六	恵道智空信女	(左面) 寛政九年丁巳三月晦日 (右面) 鳥居紋兵衛景明妻		
㉗		五三	二五	一五	天保十二辛丑年 珠光院念誉貞傳信女 四月十四日			
㉘		五四	二五	一六		(左面) 江戸？町心法寺葬	表面剥落	
㉙			二四	一五	□次郎之□	(左面) 施主　岡村喜 (右面) 杞須賀六二歳	欠損	
㉚		一七	一三	一五	□誉祐意信士霊位 □月十六日	(右面) 延宝九辛酉暦四月十八日 (左面) 施主 漢人三七郎 親之□□	剥落	
㉛		六六	二七	一三	享保己亥四年 正誉直道？信士 六月十三日	(右面) 笠松喜平次墓		
㉜		七三	二八	一九	正徳六丙申年 寂心院昇誉圏雲居士霊位 正月廿一日	(右面) 笠松□庸静碑		
㉝			二六	一九	白法院□		下部欠損	

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
㉞		七三	二六	二〇	宝永二乙酉年 宝池院澄誉晴心大姉霊位 後四月初七日			
㉟			二五	一八	宝永五戊子年 照涼院信窓實栄大姉 六月七日			
㊱		七三	二八	二〇	享保七壬寅年 道源院圏誉浄心居士 十一月三日			
㊲				一八			剥落	
㊳		六八	三	一七	明治廿七年 寛量院光誉龍道居士 十月初四日	(右面) 俗名板倉龍蔵		
㊴							破片のみ	
㊵		三五	一七	八	明治廿六年 泡散孜子 七月廿日		上部一部欠損	
㊶		三四	一七	八	明治廿五年 泡玉□子 十月□四		剥落あり	
㊷		五五	二四	三	弘安院忠□□居士 板倉家先祖□□ 智光□忠□□大姉	(左面) 弘天保十二年丑□□□六日 智明治廿六年□□□ (右面) 俗名　板倉□□□	剥落あり	図45

㊸	六〇	一九 二三	清涼院一誉精道法士		同人妻葛山平□□娘 寿世八十六歳
				(右面)	
				明治廿八年八月三日 俗名葛山精一郎	
㊹	五七	二五 二〇	瑞光院相誉實應圓済居士 善久院調誉実永貞圓大姉		
				(左面)	
				天保十五甲辰年四月廿九日 善久院は『過去帳』に嘉 永六癸丑九月三日とあり	
㊺	四五	一九 一四	安永八己亥年 五月朔日 秀映童女 松山氏		
				地蔵尊彫刻	
㊻	五六	二四 一六	春光院千誉蕗心停一居士 至得院芳誉誠心映光大姉		
				(右面)	
				施主　松山氏	
㊼	五三	二三 一三	延享元甲子七月十五日 達誉秋演了通居士 本誉願哲智應大姉 寛保三癸亥三月廿五日		
					欠損
㊽	五四	二四 一四	三誉諦山道喜居士　霊 法誉智諦恵忍大姉 暎誉春顔智馨清信女　位		
				(左面)	
				三享保十一丙午五月十一日 法延享三丙寅二月上四日 暎延享二乙丑年二月二日	
				(右面)	
				施主松山氏	
㊾	径一五				
				自然石を利用	
㊿	径一七				
				自然石を利用	

(51)	径二一 径一三				
				自然石を利用	
(52)	二〇				
				自然石を利用	
(53)	一九				
				自然石を利用	
(54)	五四	二四 一六	浚精院常誉一睡左禅居士 摂心院禅誉耀山穐光大姉		
				(左面)	
				文政元戊寅年六月十三日 俗名松山犬右衛門清正 清正妻	
				(右面)	
				文政元戊寅年八月十三日	
(55)	五三	二四 一五	正屋仙浩信士王堂梅英信女 無到自著信士天産精貴信女 聖室智賢信女諶海方然信士		
				(左面)	
				正七月七日　王二月十三日 無二月廿八日	
(56)	五二	三 一五	笑外霊橋信士 先祖代々霊位 為説種□信女		
				(左面)	
				文化六壬申四月十八日	
				(右面)	
				文化八辛未閏二月二日	
(57)	五五	二五 一七	徳山道発信士 報屋貞恩信女		
				(左面)	
				天保六乙未閏七月十八日	
				(右面)	
				天保五甲午年十月五日	
(58)	五一	二四 一五	柏堂紅樹信士 徳蔭貞昌信女		
				(左面)	
				天保十亥年十二月十三日	
				(右面)	
				徳十月二日	
(59)	四一	三 一五	為妙喜 小谷田市右衛門娘		
				(地蔵尊彫刻)	

二つあり

剥落あり

図45

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑥⓪		四七	三	九	浄安玄清禅定門 本覚了道禅定尼			

XV地区

参道の左わきに東西に長く、参道に面して存する。江戸時代でも、貞享・宝永年の紀年銘のある比較的古いものが多い。

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		七四	二九	一五	寛永十六己卯年三月九日 妙祐禅定尼 吉見六左衛門利重 内室		上部欠	
②		一〇八	三四	一八	南無阿弥陀佛 往諦教譽浄國信□ □□□□ 吉見六□□		風化が激しい	
③		一一三	四六	二四	寛文五丑年□ 巳 掩□應誉浄感信士□□ 正月廿日俗名□□見六左衛門 綻世			
④		七四	四六	二八			剥落	

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑤						(左面) 年九月 年七月	倒壊	
⑥		一三	三五	一九			風化	図46
⑦	無縫塔	(全) 一三 (身) 八二			当山 開基 衆譽 上人			図46
⑧		六九	三七	三	宝暦七丁丑天 到誉月㊙好圓善女	(左面) 町野氏		

第15図 XV 地 区

⑨	六四	二七	八	寛延三庚午六月上六日 顕療院往誉宗俊居士 深松院□梅真節大姉 元文二丁巳十二月十七日	(右面) 俗名 町野宗俊	
⑩	五一	二六		雲光幻棲童女 寛保三癸亥天五月廿七日	地蔵尊彫刻	
⑪	四一	二〇	一三	寛保壬戌年 種興院明誉貞圓大姉 九月二日		
⑫	五八	二四	一七	元文四己未年 興仁院徳誉崇務居士 六月朔日	(左面) 俗名　大塚儀兵衛尚貞 行年七十七	
⑬	五三	二三	一六			剥落
⑭					地蔵尊彫刻	上部欠損
⑮	四四	三		享保四己亥五月廿一日	地蔵尊彫刻 『過去帳』に 徹山童子とあり	図46
⑯	四七	三	一四	享保十三戊申歳 浄心院即往是念居士霊位 三月十三日		
⑰	四四	二七	一九	享保五庚子年 超誓院本譽常通居士 十二月廿九日		図46

⑱	九一	三一	一五	貞享丙寅年 探誉高岸覚春信士 正月初五日	『過去帳』には高岸院 深誉覚春大姉とあり	図46
⑲	七一	二八	二	宝永四丁亥年 了浄院安譽不窮居士 七月廿二日		図46
⑳	四〇	二三	一〇	見生知徹童子 拂知　童女 知霊　童子 地蔵尊彫刻付き		図46
㉑	五〇	二一	一八	雪峯秀白信女	(右面) 天明二寅十二月十二日 中田喜作妻	
㉒		二五	一六			倒壊 剥落
㉓	五七	二六	一八	法性院顕譽大道五霊居士 佛光院天譽冠中大姉	(左面) 文政十二己丑年八月廿一日 俗名 福田喜兵衛	
㉔					(右面) 文政三庚辰年六月十三日 福田氏友僚妻 美屋	台座のみ
㉕	五八	二七	二	廓状院大誉福生五来居士 瑤光院明誉貞清大姉	(右面) 天保十二丑年十二月十四日 俗名福田喜兵衛友信 享年五十有九歳	図46

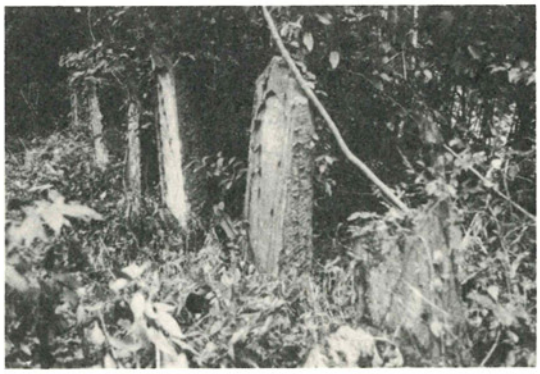
番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㉖		五三	二六	一八	顕光院徳誉功善居士	（左面）天保十四年正月五日 源友信妻 仲		
㉗		三三	一五	一三	蓮光童女	（左面）天保四癸巳年三月十一日 俗名福田俵蔵友延		
㉘		五五	二六	一三	哀願院愍誉智光大姉	（左面）文政十三庚亥年七月初五日 福田氏		
㉙		八八	三一	一六		（右面）文久三癸亥年七月二十日 福田氏友義妻	倒壊	
㉚		四三	三三	一三	正法院慈照信士 正善院妙入信女 正願院妙智信女	（左面）法天保九戊戌十月十二日 善文政元戊寅八月二日		
㉛		五二	二六	一六	諦聴院温誉□道居士	（右面）文久三癸亥年七月廿日 施主 谷□		
						（左面）明治元年戊辰九月廿一日		
						（右面）谷源之丞精用		

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㉜		六八	二四	一六	光顔院照誉貞影大姉	（左面）宝暦十二壬午四月上五日		
㉝		六一	二五	二〇	圓昇院儀遺善慶居士	（右面）谷源之丞精用		
㉞		七八	二六	一九	諸根院雄誉行業悦居士	（左面）明和三丙戌年六月十九日	剥落	
					顕曜院浄誉清鏡（剥落）	（右面）俗名谷源兵衛（剥落）		
						（左面）『過去帳』には諸根院雄誉行業悦雄居士とあり 清 宝暦三癸酉年六月六日		
						（右面）『過去帳』には顕曜院浄誉清鏡妙悦大姉とあり 顕 宝暦十一辛巳年六月十二日		
㉟		六〇	二七	一八	英光院試誉芳心大姉	（左面）宝暦七丁丑歳	上部欠	
						（右面）六月七日		
						俗名谷源之丞（剥落） 同妻		
㊱		六二					倒壊	
㊲		四六	二一	一六	延享四丁卯年 智圓院明誉樗光大姉 十月十六日			図46

XVI地区　参道に面して細長い東西の地区にある。天保・宝永前後の角碑が多いが、登った奥の一区画内に七基の墓標が北面して並列している。元禄十六年（一六一一）の紀年銘のある三角頭板状碑のような一群もある。

また18は位牌形の形式を伝えており、多くの墓標の中でも特殊である。

番号	形状	大いさ 高さ	大いさ 幅	大いさ 厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		五五	二八	二一	天保七丙申年八月十三日 現光院在誉智道居士 浄智院光誉明映大姉 天保九戊戌年三月廿日	（左面） 俗名 町野嘉衛門延次 （右面） 延次妻		図47
②		五九	二七	二三	寿心院林誉真光大姉	（左面） 天保五午歳七月三日 （右面） 町野嘉左衛門整次妻 墓		
㊳		六一	二九	八			欠	
㊴		七三	二七	三	□保二丁酉年 卍實相院念誉道専居士 正月初三日		欠損が激しい	
㊵							欠損	
㊶		七〇	二六	一九			剥落	
㊷		四五	二一	一三	光顔影夢童子 真慧院□山實道居士 術誉貫道綜練信士	（左面） 俗名富永巾良右衛門義雄 （右面） 俗名富永巾良右衛門兼文		
㊸			三	一七	（欠損）士霊位		欠損	



第16図　XVI 地 区

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
③		四六	一七	一七	桃齋院發誉武陵信士 理想院最誉妙勝大姉 誠厳院高誉儀順居士	(左面) 桃　安政六巳未年正月八日 理　弘化四丁未年正月廿九日 誠　明治十丁丑年八月廿三日		
④		五七	二五	一六	理想院最誉妙勝大姉	(左面) 弘化四丁未歳 正月廿九日 町野某室墓 (右面) 掛川藩 小崎門三郎恰成 建石		
⑤		五九	二七	一七	寛保二壬戌天六月六日 卍 即生院済誉直往居士 花生院蓮誉智往大姉 宝暦九己卯天四月十一日			図47
⑥		六九	二七	二〇	元文二丁巳年 卍 梅顔院輭誉聲光恵柔大姉 壬霜月十三日			
⑦		五四	二五	一六	真光院誠月貞心信女	(右面) 文久二壬戌年四月十七日 次興妻		図47
⑧		五一	二三	一五	順誉西往信士 春法往安信士	(左面) 元禄十六癸未年六月晦日 俗名町野仁兵衛頼定 (右面) 俗名町野六左衛門信次 天保三壬辰年正月十日		

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
⑨		六七	二三	一五	(欠損) 諸岸随□往信士	(左面) 延宝五丁巳年　俗名 九月八日山口半兵衛		図47
⑩							倒壊	
⑪		六〇	二六	一四	嘉永三庚戌年 了□院永誉□貞大姉 八月十八日	(左面) 江村氏仲墓		図47
⑫			二七	一六	(剥落) □信士 鳥居四郎兵衛		上部欠損	
⑬		七九	二九	二七	(剥落) 文化元子□ 皆令院得誉□ 十一月□二日	(右面)(剥落) 俗名□ 『過去帳』に神山又兵衛 勝孝とあり 『過去帳』には皆令院得 誉道遊居士とあり	剥落 笠欠損	
⑭		九五	二九	二六	文化十三丙子年 皆全院令誉満足大姉 六月初日	(左面) 土屋相模守殿家中 本間吉左衛門女 (右面) 神山又兵衛勝芳妻		図47
⑮							倒壊	
⑯		九五	二六	二六	興徳院法誉性善居士 味休院運誉寿徳居士 念光院称誉法寿大姉 載誉真岸到運信士	(左面) 生国武州川越 元禄六癸酉年十月廿四日 神山氏重勝石塔		

⑰				二代神山又兵衛嫡子生 国遠州横須賀 享保七己卯年壬三月九日 神山藤九郎勝和墓 （右面） 生国遠州横須賀 神山又兵衛勝喜 生国同州日坂戸塚□□娘 『過去帳』に味休院は寶 暦十三癸未六月十日神山 又兵衛養父述翁とあり 念光院は寶暦十一辛巳十一月廿日 載誉は享保二十己卯壬三 月九日とあり	倒壊
⑱	八五	二五	三	普照院端誉正顔大姉 （右面） 堀口善六娘 俗名　茂勢 （左面） □卯子年□□二日	欠損が激しい剥落あり
⑲	六一	二五	二〇	慶応元丑年 庸徳院行誉之謹居士 八月廿六日 （右面） 神山又兵衛長男 俗名 神山条吉勝成 廿九歳	
⑳	六六	二九	二四	慶応二丙寅年 重願院誓誉妙困大姉 七月四日 （右面） 神山又兵衛勝□妻 享年五六没	
㉑				顔照童女	上部欠損

図47

㉒	六九	三〇	二四	清心院静誉徳門了翁居士 恭心院温誉良順真光大姉 （左面） 明治三庚午歳二月二十四日 源屋代吉徳号了翁 干時六十有四歳 同人後妻恭心尼 （右面） 明治己巳春君候徒封地千房州時 父病雅牟不能 共暗従乃□撰要寺借偶一室以有 護父病□庚午春病 益加二月二十四日竟不起而卒於 是奉父□幷当山先 栄之次母日吾従行死千房州且□ □合□干並乃乞得 明治三庚午歳三月二十八日 房州花房藩屋□男馬吉享衛	
㉓	七七	二八	二〇	元禄十六癸未年 浄性院覚誉宝厳心居士 正月廿五日 （左面） 顕考常晶土浦之生 屋代善八吉長	欠落
㉔					崩壊
㉕	六七	三	二四	宝永三丙戌歳 即覚院捜誉玄乗居士 九月十九日 （左面） 屋代□右衛門善昌 干時五十有八歳 （右面） 甲州武田家臣馬□美濃守信房 玄孫奥州白川之産 明治三庚午歳三月吉享再□之	
㉖	六五	二八	二四	法心院得悟勇哉居士 蓮心院妙悟善哉大姉 （左面） 屋代己心吉介 天保三壬辰年三月晦日	

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
㉗		六三	二九	一三	天保七丙申年 常聞院法真現大姉 正月十八日	(左面) 屋代佐右衛門吉徳妻		
㉘			二四	一三	(欠損) □元禄三庚午年 □心信士霊位 □日		上部欠損	
㉙		九〇	二四	一五	元禄元戊辰年 卍光照院妙誉清心女 十二月三日			図47
㉚		九七	二四	一六	元禄十丁丑年 卍信海院覚誉浄正居位霊位 十月朔日			

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
㉛		七二	二〇		元文丁巳年三月十日 了達院根誉一桂善入居士 蓮光院昌誉□繁大姉 享保十六辛亥年九月十六日			
㉜		七三	二〇		宝暦七丁丑年七月廿五日 □心院品誉休意居士 亮音院称誉貞雅大姉 明和五戊子年三月十七日	『過去帳』には品誉でなく即誉とあり 『過去帳』には称誉でなく聲誉とあり	剥落	
㉝		五五	二〇		(風化) □居士□年 □大姉寛政四年 □大姉寛政十一年 □大姉寛政三年 □大姉寛政八年	(右面) 撰要寺御山内 真如院 體誉千花養院□ 理性院	表面風化	図47

XVII地区　墓地の最も奥の地区にあるものであり、東の崖に近い。墓地の区画としては、新しく設けられたようである。したがって新墓も多く、また先祖代々の墓も多い。この地区には、自然石による一種の配石遺構のものや自然石の墓石などもある。

しかし、寛文・延宝・元和の年号を刻し、古い形式の三角頭類のものを復原して、追善供養した墓標もあり、ほかに自然石による神職にあった人の墓標も見られる。なお、この地区は「百姓墓」ともいわれており、土地の当時の百姓の墓地であったという。

第17図　XVII 地 区

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		五〇	二六	一八	精誓勇進信士 勇誓楾進信女 𑖨 廓誓大然信士 大誓悟然信女			図48
②		四九	二四	一六	恵笑童女 先祖代々諸精霊 奇顔童女			
③		五一	二三	一六	徳誓浄功信士 功誓徳永信女	(左面) 弘化四丁未年八月廿六日 『過去帳』に功誓は明治 十四年八月五日とあり		
④		四三	二	一九	松誓貞亮信女 顕誓意現信士 大誓秋覚信士	(左面) 松寛延四未年四月十四日 顕宝暦十二午年十二月九日 (右面) 大宝暦十二午年九月五日		
⑤		五六	二四	二〇	光誓明山信士 含誓珠光信女 寒誓徹道信士			
⑥		四七	二三	一五	来誓成願誓迎信士 観誓光願立音信女 願誓成本誓順信士 𑖨 誓誓智本妙音信女			
⑦		四三	二	一七	正誓宣光信 先祖代々精霊 宣誓融光信女	(右面) 文化八未七月廿日 『過去帳』に正誓は文化		

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑧		四四	三	一六	𑖨 冬誓順枯信女	七庚午三月十九日とあり (右面) 文久元酉年十二月二日		
⑨							剥落	
⑩		五三	三	一三	廣岳慈門信士 先祖代々悉会得脱信士 久安貞楽信女	(左面) 広文化十一戌正月十二日 悉文化十三子六月十五日 『過去帳』に久安は天保 三壬辰十一月朔日とあり		図48
⑪		五七	四	二五		自然石を利用		
⑫					保泉禅牙和尚 戒光道本善女 観寅浄智信男 有縁無縁等 戒観密定信士	(左面) 本文政十戌四月四日 智文化十一辰六月朔日 戒天保元寅九月廿一日		
⑬		四七	三	二三		自然石を利用		
⑭		二六	一七	一八		自然石を利用		
⑮		四三	二	二	大供智海尼上座 天霖祐光信女		一部欠	
⑯		四八	二三	一八	山誓貞嶂信女 教宣童子	(左面) 天保七丙申年十二月朔日 (右面) 寛政九丁巳年六月廿一日		

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
⑰		五三	二四	一五	晴誉明雲信士 明誉□月信女	(右面) 天保六乙未歳閏七月十三日		
⑱		四八	二三		天明八申六月十日 意誉究性信士 蓮 究誉意性信女 寛政五丑正月三日			
⑲		五七	二五		惣心信士享保十三申二月廿八日 念道信士□□元申五月十四日 先祖代々精霊 涼夢清□信女□□三亥六月十一日 是心相□信士□永□□九月十三日			
⑳		六四	二四	一九	明誉照雲信士 照誉貞雲信女	(左面) 文久二年戌八月十八日 (右面) 高間市郎兵衛 『過去帳』に照誉は慶応元八月十八日とあり		
㉑		三一	二一		真艶童女墓			
㉒						明治二四年〜四一年と新しいので記載せず		
㉓		四九	二三	一三	至善行道信士 至□成運信士行運禅定門 先祖代々一家精霊秋日信女 唯頭意説信士日了童子			
㉔		五四	二三	一四	宗誉源道信士	(右面)		

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
㉕		五九	二六	二	説誉實言志誠信士 實誉貞誠信女	(右面) 慶応四辰四月十三日 俗名 土屋文右衛門		
㉖		四六	二三	一〇	消幼童子 春泡童子　離笑童子 広田童子 寿保童女			
㉗		四五	二四	一六	蘭誉幽洞信士 幽誉智洞信士	(　面) 安政二乙卯年八月朔日 『過去帳』に幽誉は明治四未九月十日とあり		
㉘		五五	二四	一六	松誉浤願信士 寿誉貞願信女	(左面) 天保四癸巳歳□月廿三日 『過去帳』に寿誉は天保七丙申六月廿六日とあり		
㉙		五三	二五	二	嘉誉秋岸智道信士 感誉妙秋貞道信女	(左面) 嘉明治十八年八月廿二日 感文久三年九月十二日		
㉚		五四	二四	一四	常誉可善信士直月露交信女 先祖代々　精霊 通善妙性信女栖可童子	(左面) 常安永二巳五月七日 通明和元申十二月三日 (右面) 『過去帳』には真誉露交信女とあり		
						高誉貞尚信女 嘉永元申十月廿五日 『過去帳』に宗誉は萬延元五月朔日とあり		図48

㉛	五六	二四	一五	真誉露交信女 泡性童女	直寛政六寅三月□日 栖天明五巳二月八日 『過去帳』には天明四甲辰二月八日とあり
㉜	九	一七	一〇		自然石を利用
㉝	二〇	一五	九		自然石を利用
㉞	四九	二四	一六	但誉受楽信士 正誉貞覚信女	
㉟	二四	一六	五		自然石を利用
㊱	一	一三	一三		自然石を利用
㊲	四七	二三	一三	享誉意元信士 利誉貞林信女	(左面) 明治九年五月十三日
㊳	五〇	二五	一六	寂誉了圓信士 道岩空全庵主合位 演誉妙法信女	(右面) 道寛永三寅年四月九日 『過去帳』には道岩常全士とあり
㊴	四七	二四	一六	圓誉智覚信士 演誉是教信士霊 詠誉是證信女	
㊵	五四	二七	一七	闡誉妙光信女 寒誉遷稔信士霊 光室知秋信女	

図48

㊶	五三	二三	一五	浄誉清□信士 到誉浄生信女	(左面) 到天保二辛卯年八月十三日
㊷	五六	二五	一六	即誉還道信士 還誉妙輝信女	(左面) 文久四子年七月廿六日
㊸	四〇	二	一三	即誉得生信士 先祖代々諸精等 即覚貞生信女	(左面) 往文政辰歳七月十一日 『過去帳』には天保三壬辰十一月六日とあり
㊹	四七	二三	一五	瑤顔妙光信女	
㊺	四五	二三	一三	万岳良秋信士	
㊻	四三	二二		清誉浄雲法子 紫光妙雲信女	(左面) 安政六未十月廿二日 (右面) 文政九戌七月廿五日
㊼	一七	一六	一〇		自然石を利用
㊽	一五	一五	一〇		自然石を利用
㊾	四八	二三	一四	現誉西翁信士 先祖代々精霊 春相妙現信女	(左面) 天明四辰八月十七日 (右面) 明和四亥正月二十六日
㊿	五〇	二四	一五	心屋林正信士 光屋[illegible]英信女一会 春誓[illegible]本信女	(左面) 心文化五辰六月十七日 光寛政十午十月十三日 (右面) 春文政五午正月十七日

図46

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㊶		五四	二四	一五	照誉源道信士 法誉貞道信女	(左面) 弘化四丁未年九月十六日 『過去帳』に法誉は文久 三癸亥八月十日他蓮降院 とあり		
㊷		五一	二三	一七	本誉源道信士 蓮月妙花信女	(左面) 明治九子年七月四日		
㊸		五一	二六	一四	施主 晴誉良雲信士 筆子中	(右面) 天保十己亥歳八月六日		
㊹		四六	三	一五	荘誉妙厳信女 卍本誉圓成信士位 普光明照信女		剥落	
㊺		五五	二五	一八	浄誉妙清信女夏誉浄晴信士 地家先祖代々有縁無縁志精霊 妙厳信女長誉清保信女			
㊻		四七	三	一四	圓誉成□信士 成誉妙圓信女 松誉清光信士 秋誉妙清信女	(左面) 嘉永三年十二月十二日 安政五年八月十一日 (右面) 明治廿一年六月二日 文久二年九月九日		
㊼		四一	一九	一四	寛政九年丁巳 卍教善信女 二月廿九日			
㊽		一五	二			自然石を利用		

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	側面	現状	写真
㊾		四七	三	一四	宝暦七丁丑四月二十六日 開住還導信士 水月清廻信尼 寛延三庚午六月五日		剥落	
㊿		五一	三	一四	大誉空山信士 南無阿弥陀佛 空誉慧□信士	(右面) 空文化十一甲戌年 霜月□九日		
(61)		四一	二	一三	享和二壬戌年 卍浄蓮信士 四月廿二日			
(62)		四六	三	一五	圓月秋光信士 幽岳玄明信士 光誉妙圓信女	(左面) 圓弘化三丙午九月十五日 幽安政五午十一月六日 (右面) 明治三十一年四月廿一日		
(63)		四六	二四	一四	本誉源信士 卍芳誉妙蓮信女	(右面) 天明四甲辰二月十七日		
(64)		五一	二四	一四	安誉浄洪信士 普誉寂心信士	(左面) 安天保壬辰年七月廿日 (右面) 普文政十丁亥十一月十八日		
(65)		四〇	三		享保十四己酉二月十七日 早世八宗童子□位	地蔵尊の彫刻		
(66)		五〇	三	一五	享保四己亥 明誉光屋貞珠信女 八月廿七日	(右面) 施主紫田氏		

⑥⑦	四五	三	一四	春譽花月信女 霖譽怐天信女 秋顔涼月信女	(左面) 春文化十酉正月五日 (右面) 霖文化十酉六月八日 秋文化十一戌九月二日
⑥⑧	五七	二六	一五	圓譽秋覺信士 位 性譽妙覺信女	(左面) 円宝暦九卯年壬七月廿四日 (右面) 性安永二巳年四月廿九日
⑥⑨	四四	二	一五	光室明照信女 先祖代々一切精霊塔 徳寶樹林信士	(左面) 文政七甲申年三月廿八日 (右面) 天保十己亥年九月八日
⑦⓪	四九	二四	一六	新花臺深屋去高信士 新蓮生深臺玅心信女	(左面) 寛政二戊庚年七月十七日 (右面) 寛政四壬子年十二月十四日
⑦①	四四	三	一四	宝暦六丙子 猶旭童子 二月廿五日	
⑦②	五六	二四	一六	大誉慈正居士露覚童子 教誉普現大姉 秀誉英材居士普照童子 光誉英春大姉	(左面) 大寛政十午年十一月廿三日 教同　年七月廿八日 (左面) 光享和二戌年七月廿七日 露寛政四子年二月十日 普寛政九巳年十月十日
⑦③	四九	三	一五	深誉諦翁居士 歸元	(左面) 明和七寅九月朔日

剥落

⑦④	四八	三	一四	證誉速住大姉	(左面) 寛政六寅十二月十一日 (左面) 天保十一庚子年正月十日
⑦⑤	五九	二五	一七	宝厳院覚誉元道居士 誓昌院厚誉元妙大姉	(左面) 安政六己未年六月十九日 (右面) 明治十年旧十一月五日 安常 妻 松村氏
⑦⑥	五三	二四	一七	先祖代々 霜誉貞林知道信女	(左面) 慶応元乙丑十月朔日 高間氏
⑦⑦	五〇	二五	一四	慈教法雲信士 先祖代々一切精霊 慈雲貞明信女	上部欠落
⑦⑧	五〇	三	一七	得法道念信士 念戒悟貞信女 蓮[illegible]卒入信士	(左面) 得嘉永三戌年二月八日 蓮弘化四未年十二月十三日

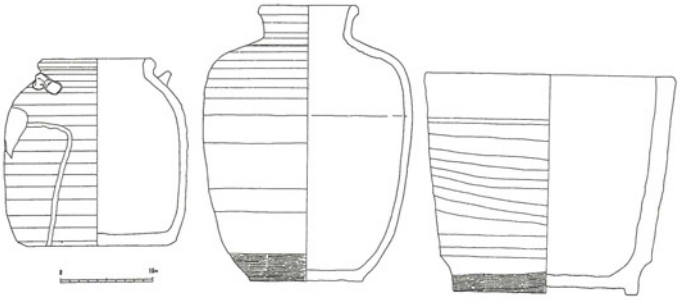
念誉鏡善大姉

番号	形状	大いさ 高さ	幅	厚さ	銘文 表面	銘文 側面	現状	写真
①		四八	三八	一三			風化 欠損	図48
②		五三	三一	一六	西田口 先祖代々一切精霊 兵衛墓			
③		五五	二四	一七	清誉浄舜信士 閑室貞舜信女	(左面) 元治二年十一月廿八日 (右面) 五十嵐氏 『過去帳』に閑室は元治 二丑十一月廿八日とあり		図48
④		五三	二六	一七	閑室繡寿信女	(左面) 安政三丙辰二月十二日		
⑤		五六	二六	一七	正圓覚圓信士	(左面) 天保十四癸卯四月六日 (右面) 五十嵐	剥落	図48
⑥		六四	二九	二四	善岳光雲信士	(左面) 文久二年戌四月朔日 (右面) 五十嵐俗名卯吉		

注　寺院に墓地整理中発見された骨壷が四個ほど保存されている。これらは、雑器を骨壷に利用したとみなされるものであり、茶褐色又は黒褐色の釉薬がほどこされており、ことに下頸部に三耳をとりつけたものもある。いずれも、常滑系統のものとみなされる。参考のため、写真（19）及び図（20）を掲げておく。

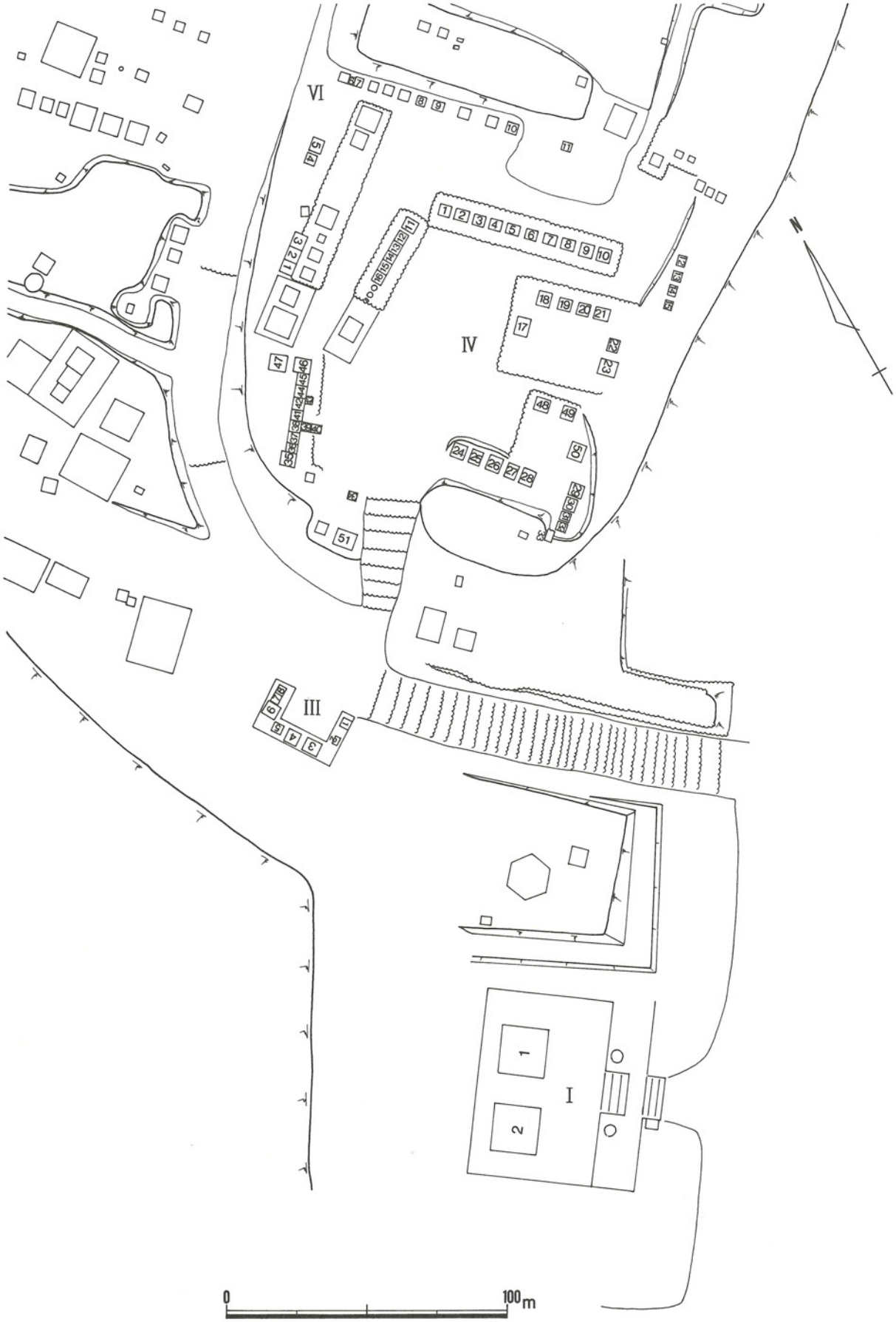
XVIII地区　II地区とXVII地区との中間に七基ぐらいの墓標があり、このほか、自然石による簡素なものもある。墓標は、江戸時代の終りのものが多い。

第19図　墓地発見の骨壷写真

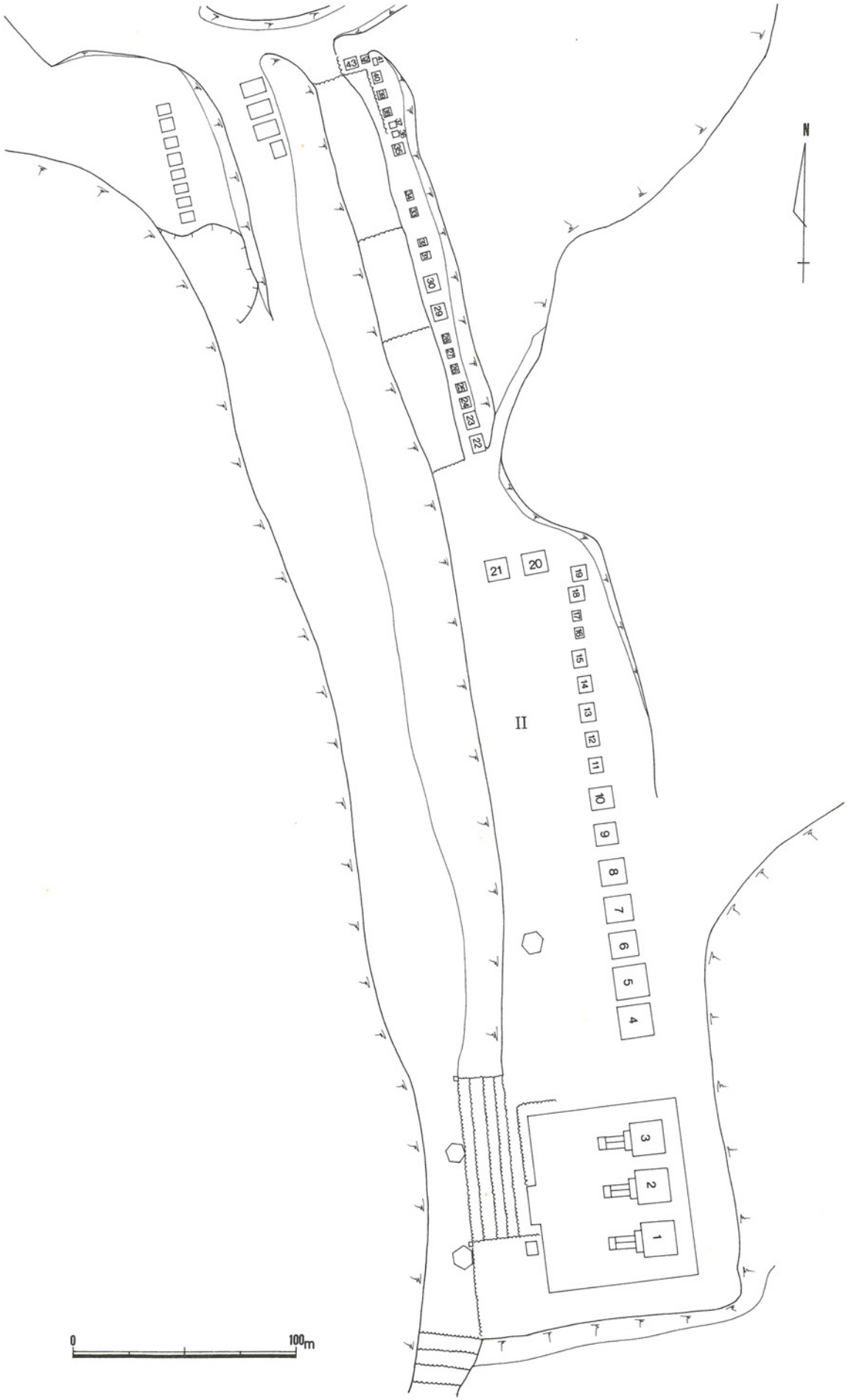


第20図　墓地発見の骨壷図

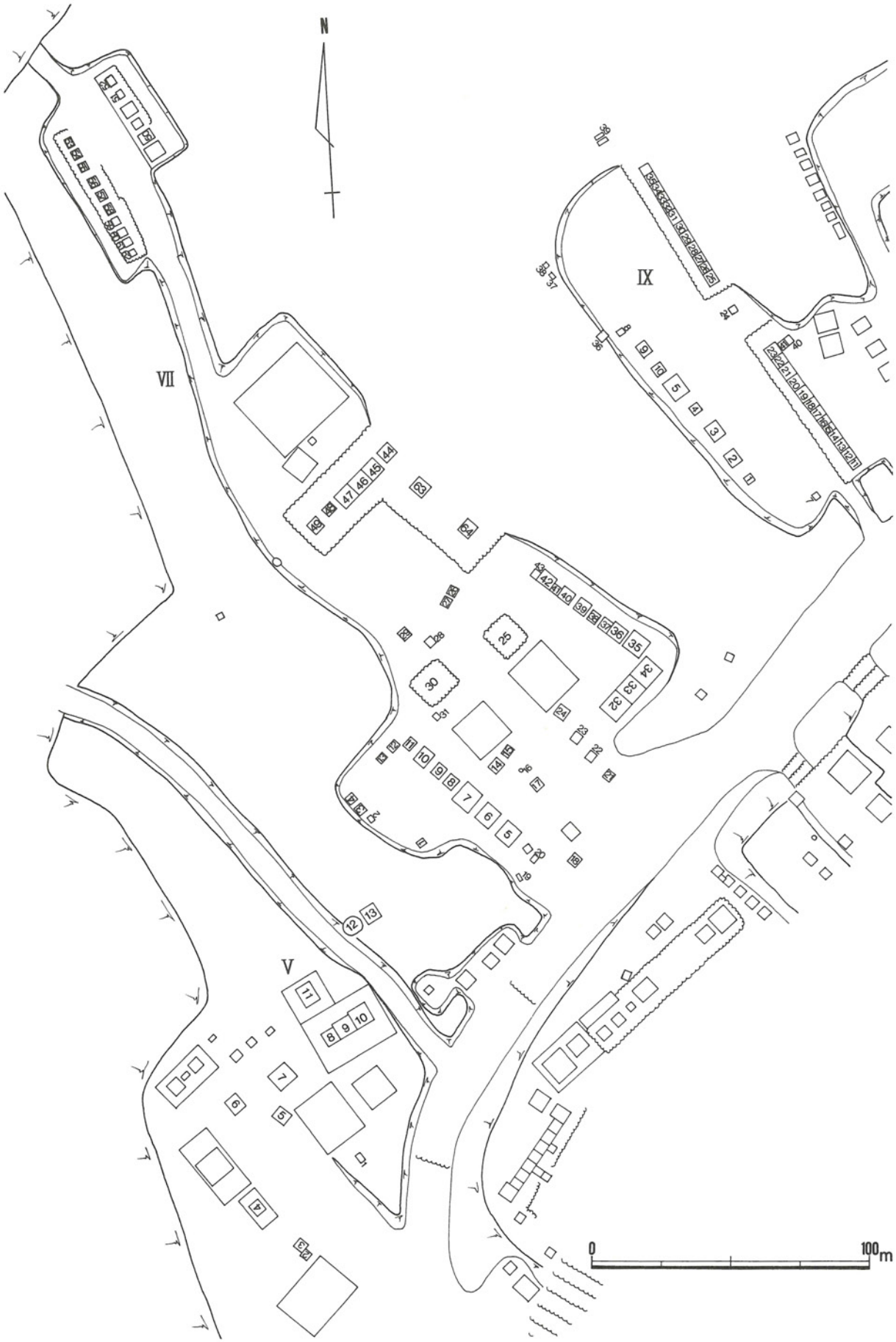
第18図　XVIII 地 区



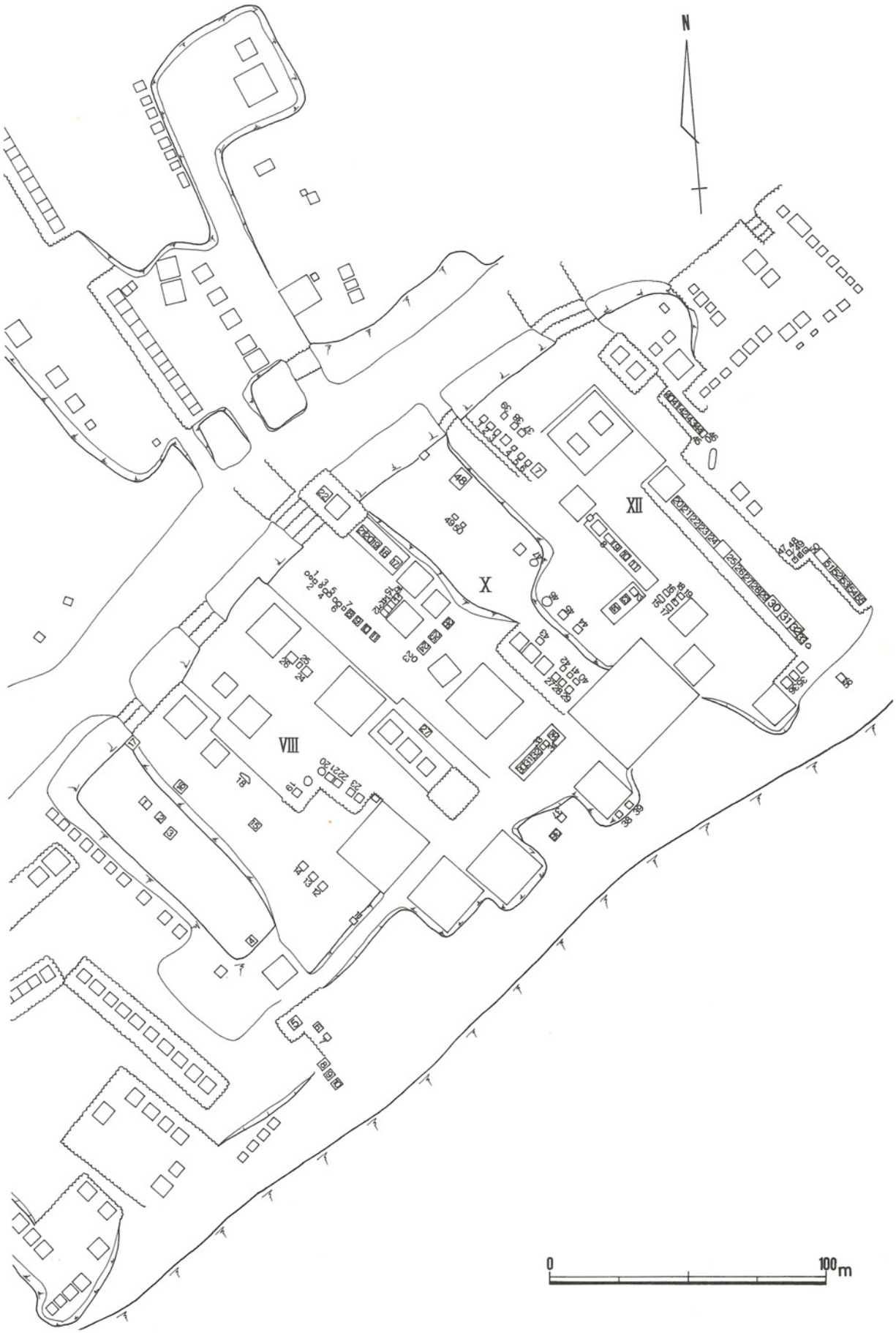
第21図　墓標群分布図（Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ地区）



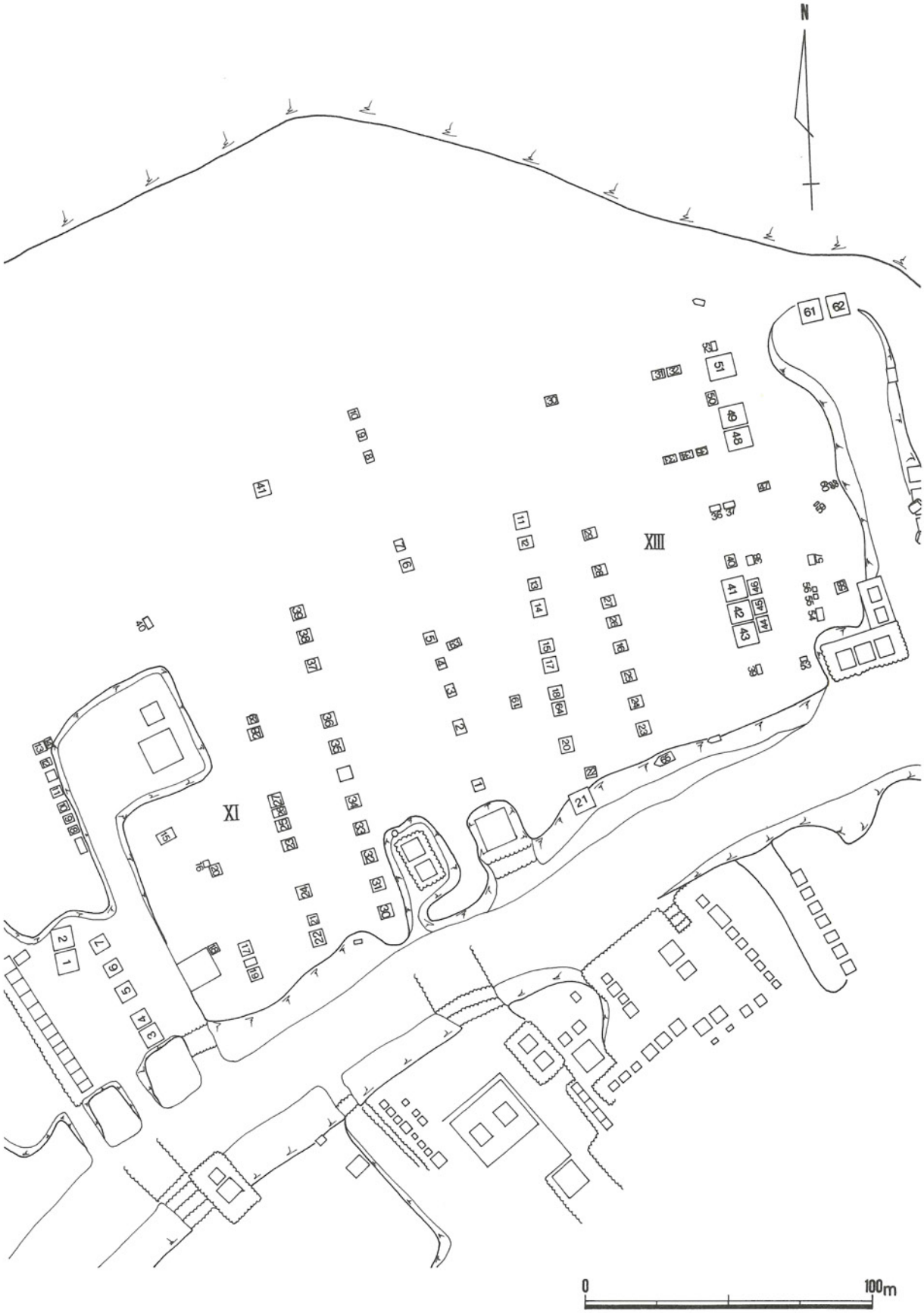
第22図　墓標群分布図（Ⅱ地区）



第23図　墓標群分布図（Ⅴ・Ⅶ・Ⅸ地区）

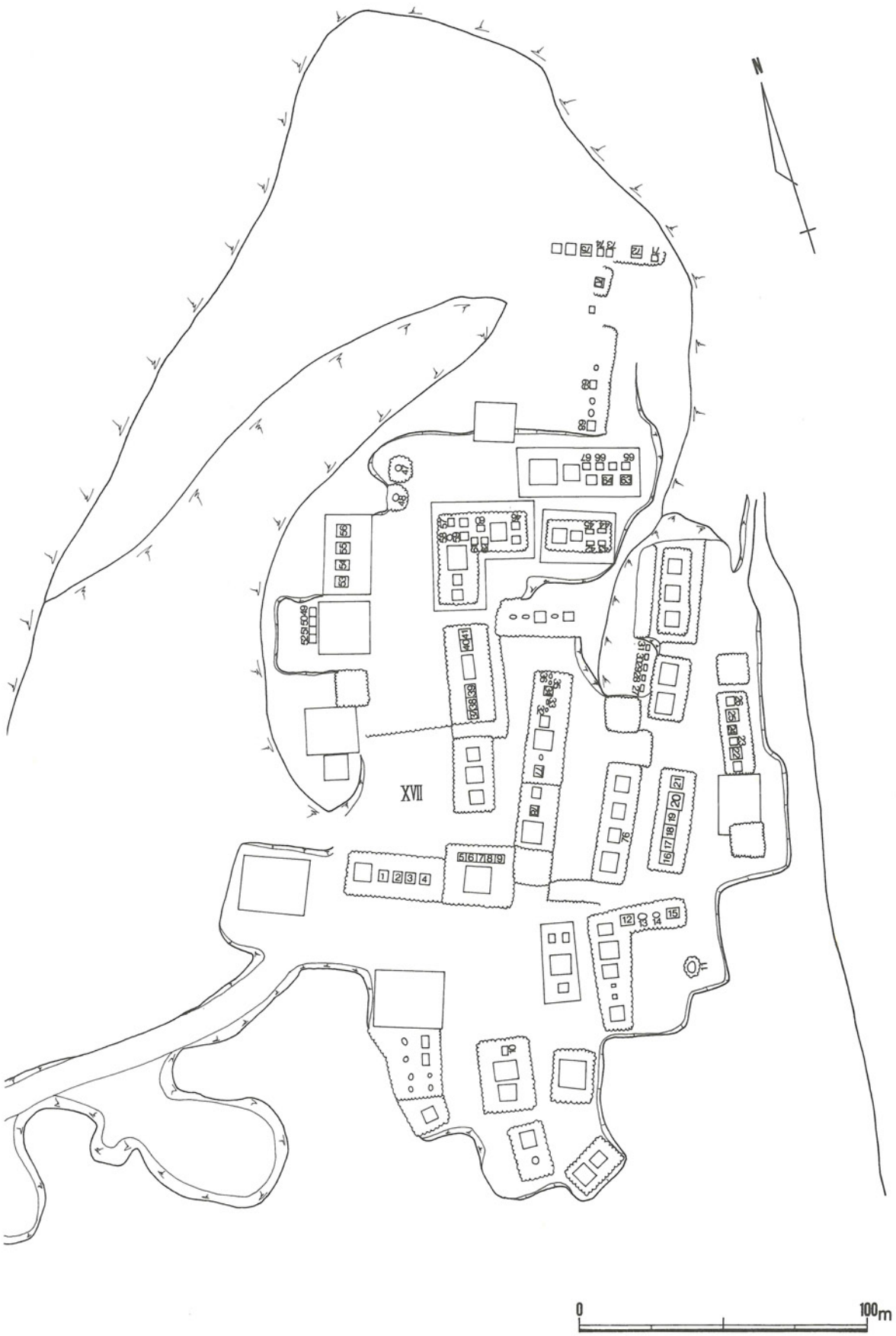


第24図　墓標群分布図（Ⅷ・Ⅹ・Ⅻ地区）

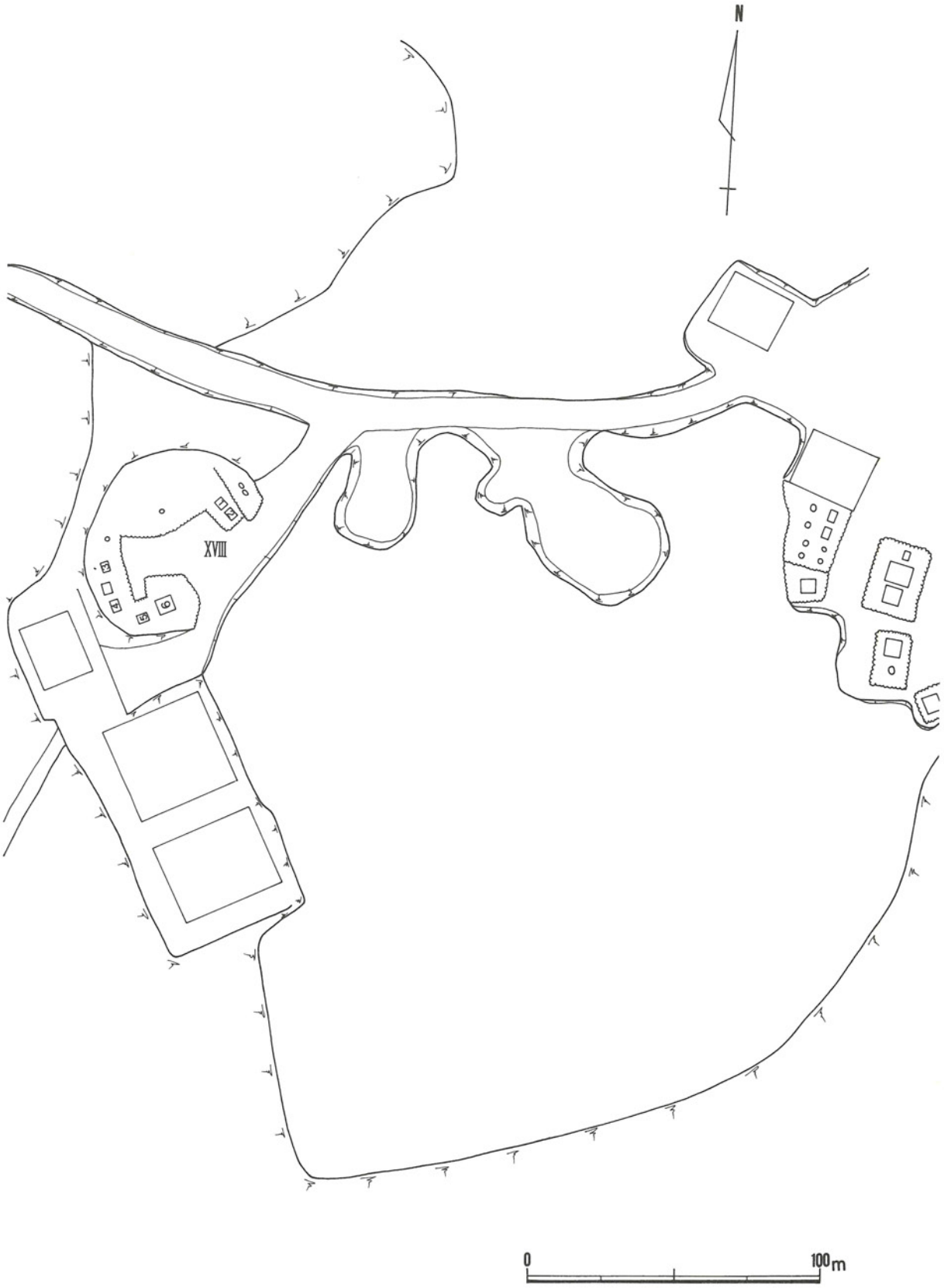


第25図　墓標群分布図（XI・XIII地区）

第26図　墓標群分布図（XIV・XVI・XV地区）



第27図　墓標群分布図（XVII地区）



第28図　墓標群分布図（XVIII地区）

三、墓標の種類

前章のように、地区別に墓標を整理したのであるが、ここでは、これらの性格や形態から種類わけにしたい。

これらの墓標の石質は、花崗岩・安山岩の類であるが、およそ三種類にわけられる。すなわち、塔の名で用いられている墓塔の類と、墓碑又は墓石といわれる類と、墓そのものでなく、供養塔或いは供養碑の性格をもつものである。

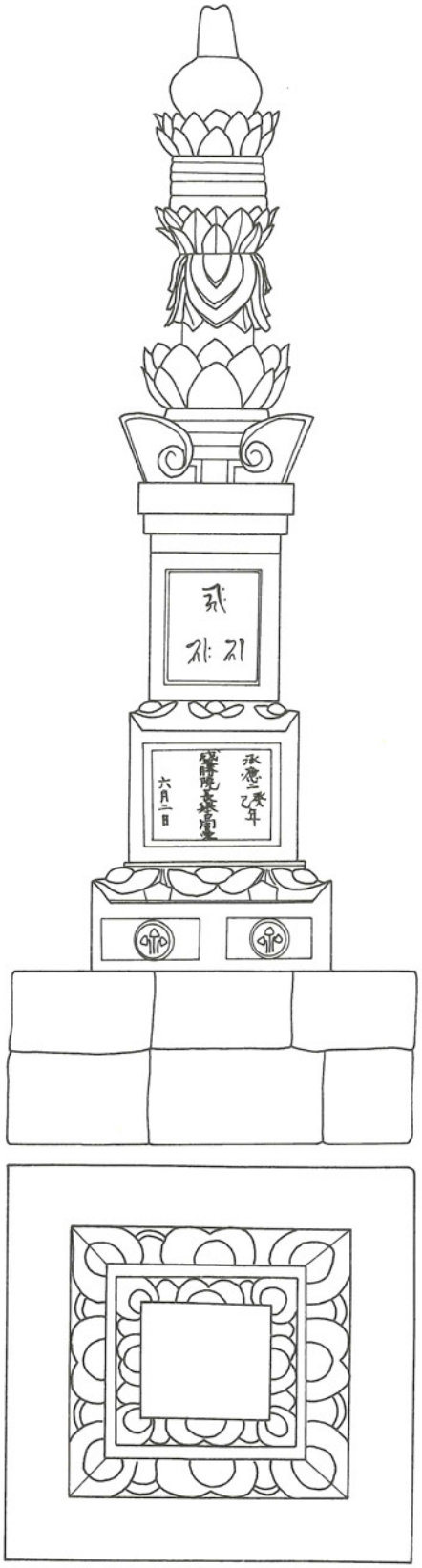
Ⅰ　墓　塔

墓塔の類は、宝篋印塔・五輪塔及び無縫塔である。

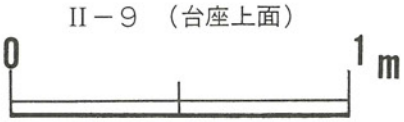
宝篋印塔　横須賀城初代の城主大須賀康高及び二代忠政の墓標二基をはじめ、本多利長が城主になるに及び移置され、又は営造された本多家の家中の墓標その他がある。天正十六年の大須賀康高のものが初現であり、各地の古式の例に比すると、かなり装飾的な要素が加わっている。すなわち、塔身には開き蓮花を高彫りに浮きださせたり、優麗な書体で梵字が彫られている。また笠部の四隅の隅飾りも、十五度前後外方に反り、渦文を配するが、中に蓮蕾を入れるものもある。相輪部も又、蓮弁・俯せ蓮弁をくりかえして配し、上に宝珠をおく長身のもので、中には、Ⅱ地区分のように、その各部に、妙・法・蓮・華の文字を刻したものもある。大須賀康高のものは、総長四〇〇センチの高さであり、その他Ⅱ地区4・6・10の諸例も三一〇～三四六センチぐらいであり、相輪部の華褥な意匠のくりかえしをもつ特色とともに、撰要寺式ともいうべき一特色をそなえる。なお、川勝政太郎博士は宝篋印塔の形式に関西形式と関東形式との大きい二つの主流のあることを説いている(1)が、中世の古式宝篋印塔に指摘されるものであり、天正以降の撰要寺の諸例には指摘されない。しかし、岡崎方面からの石造技術の影響も考えられるので、強いていえば関西式のあらわれといってよい。

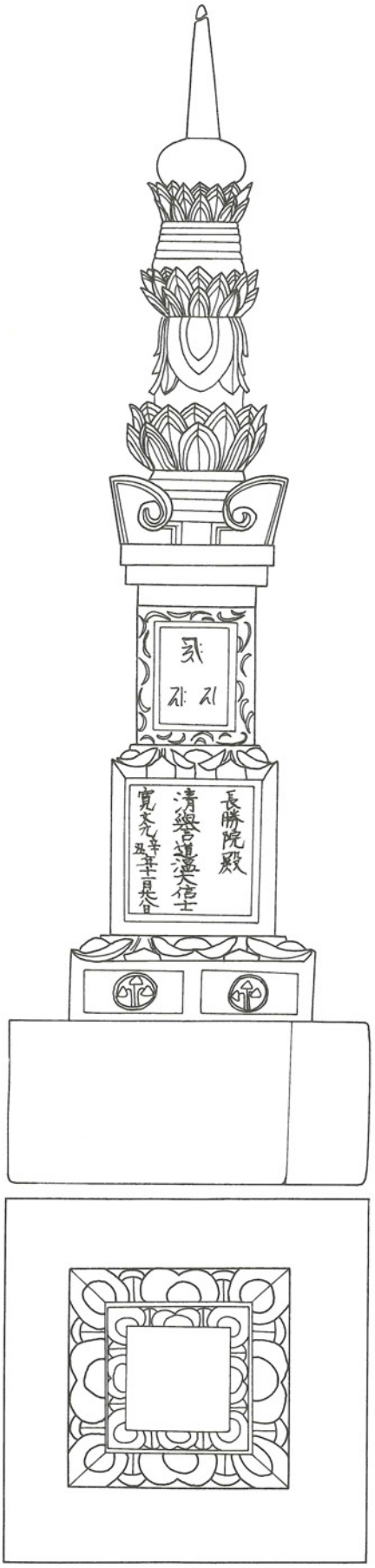
五輪塔　五輪塔は、基礎・塔身・笠・請花・宝珠、すなわち下から数えてその基礎・球形の塔身・宝形造りの屋根の笠・半球形の請花・宝珠の五部をあらわし、地・水・火・風・空の五輪とする通有の形式であるが、他の地域に小型のものもあるのに比して、撰要寺の場合は概して大型である。中でも、Ⅱ地区にある本多康重・康紀・忠利の三代の五輪塔をはじめ、この地区のは岡崎から船で矢作川を下り横須賀港にはこばれ、さらに撰要寺の西の浦河に入り、門前下で陸上げされたと寺伝にいうもので、総じて十一基ある。本多康重のものは、総高三二〇センチである。他に高天神城主小笠原家一族の五輪塔が四基Ⅺ地区1・2、Ⅻ地区61・62にある。またⅫ地区には、倒壊しているものも見られる。

大型なので、一石五輪塔はなく、空輪と風輪が一石、火輪が一石、地輪が一輪と水輪も一石で基壇を含めると五石の組み合せのものが多い。しかしⅡ地区



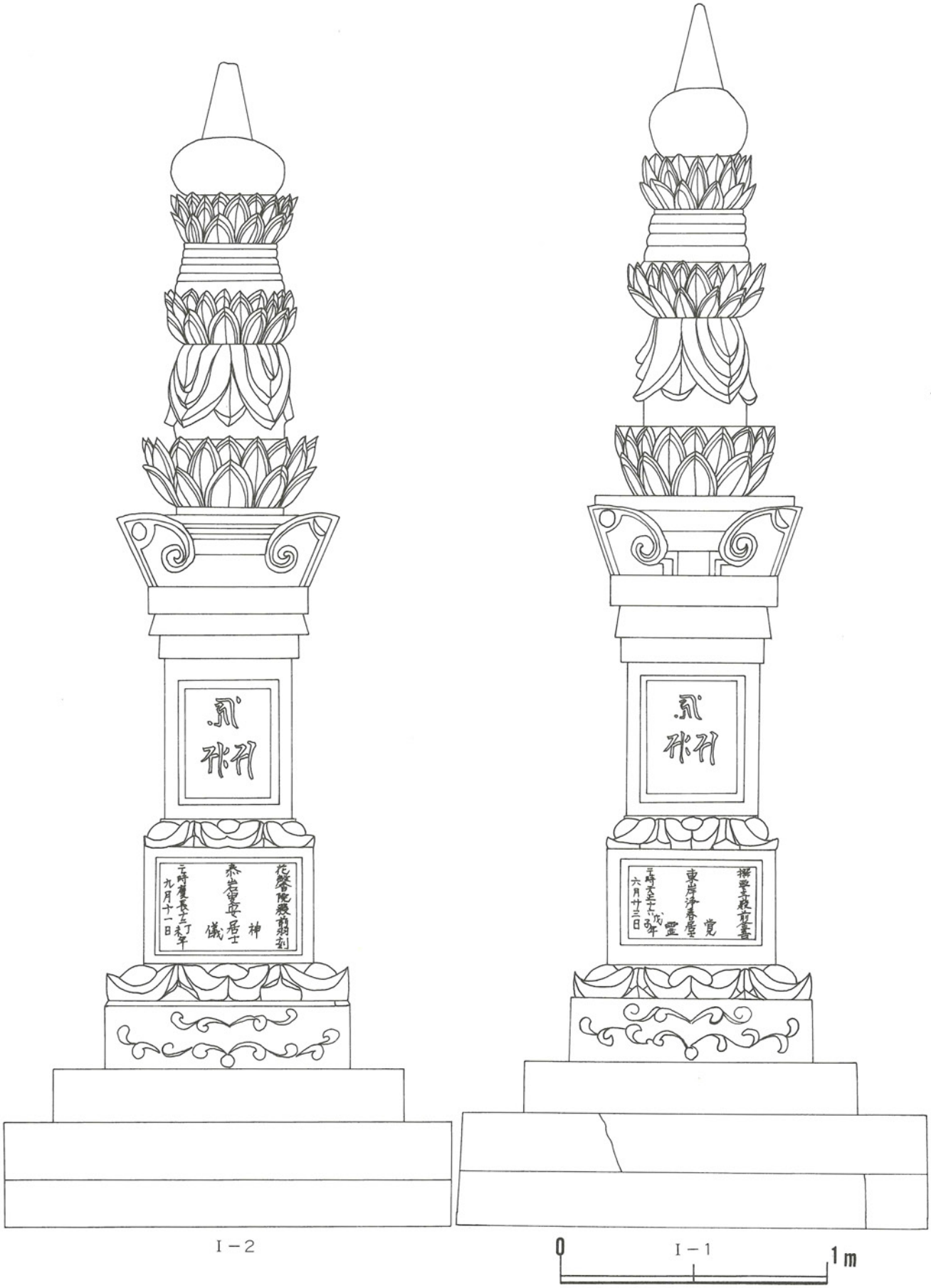
II－9　（台座上面）



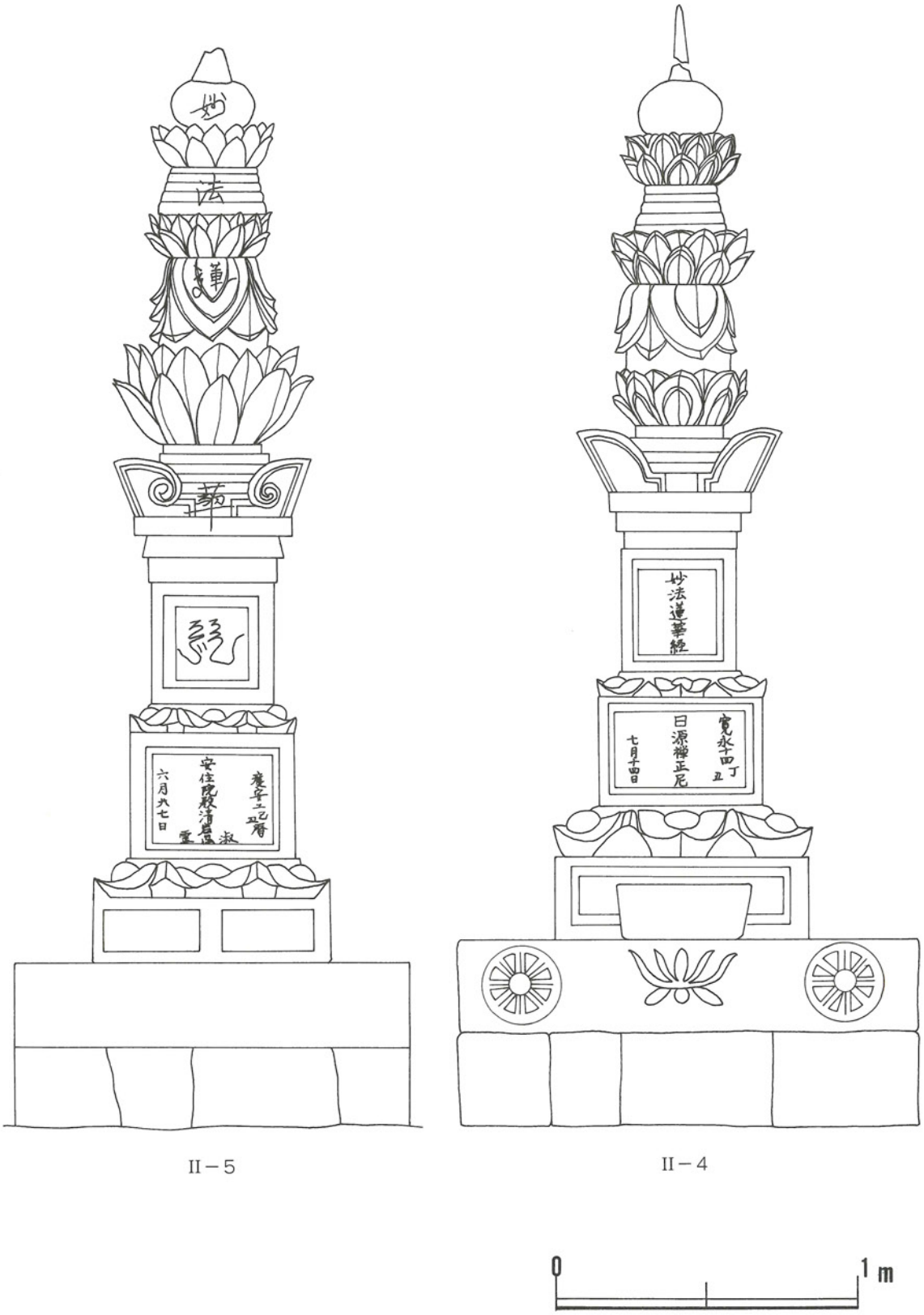


II－10　（台座上面）

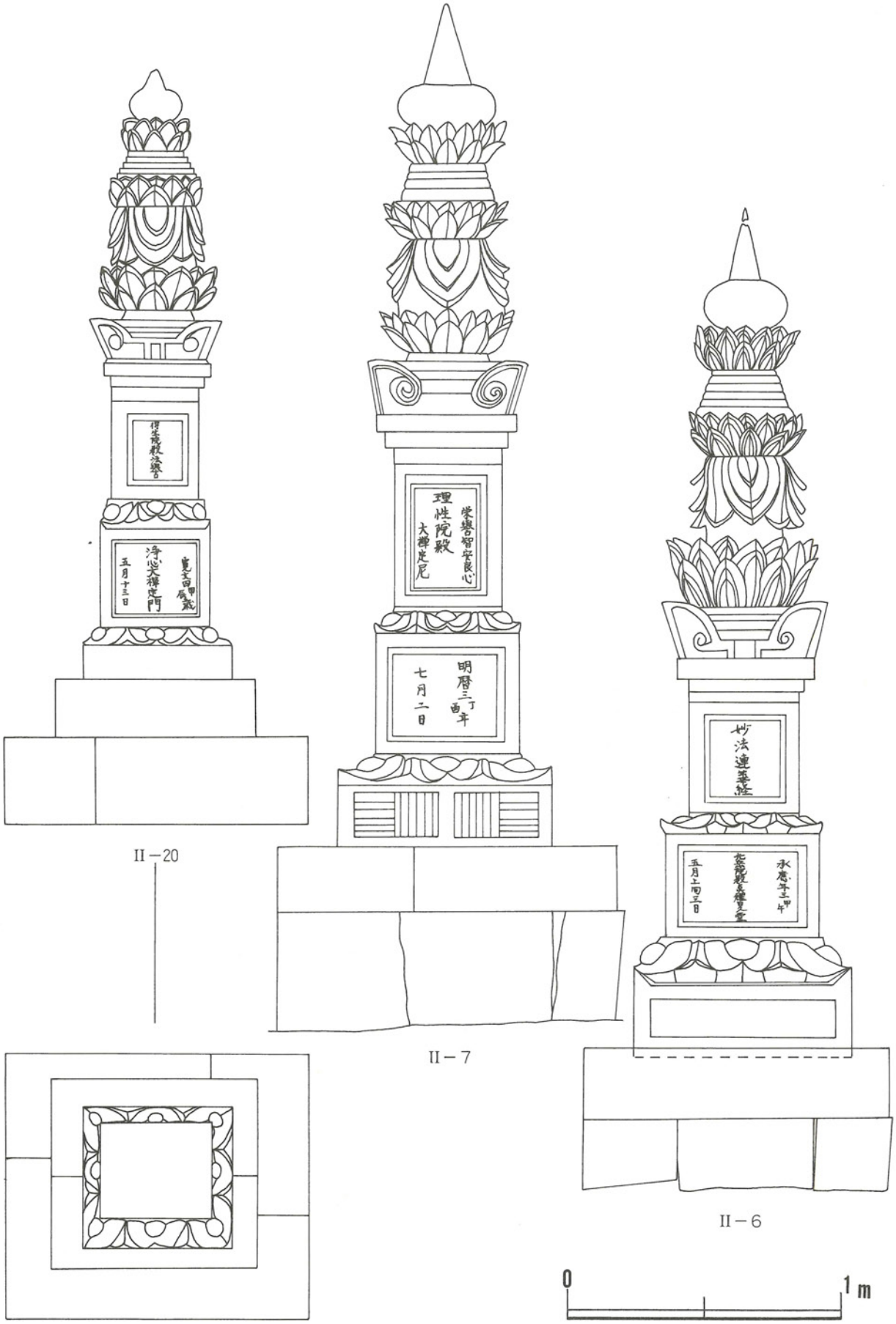
第29図　墓塔実測図（Ⅱ地区－9・10）



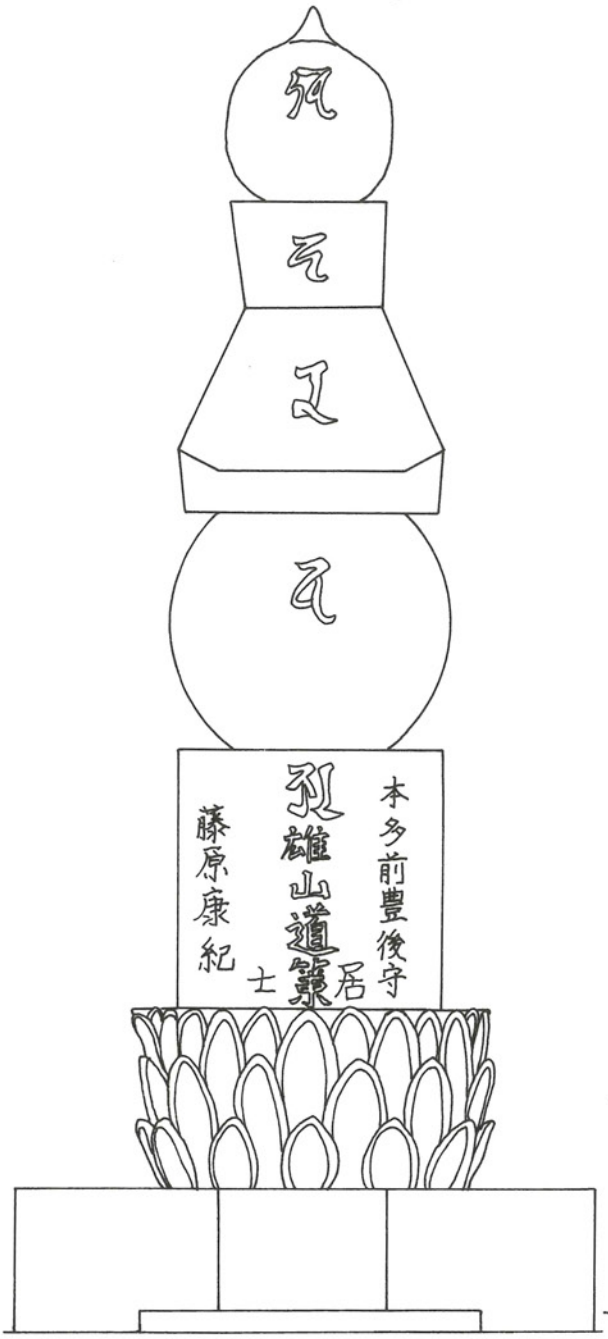
第30図　墓塔実測図（Ⅰ地区―１・２）



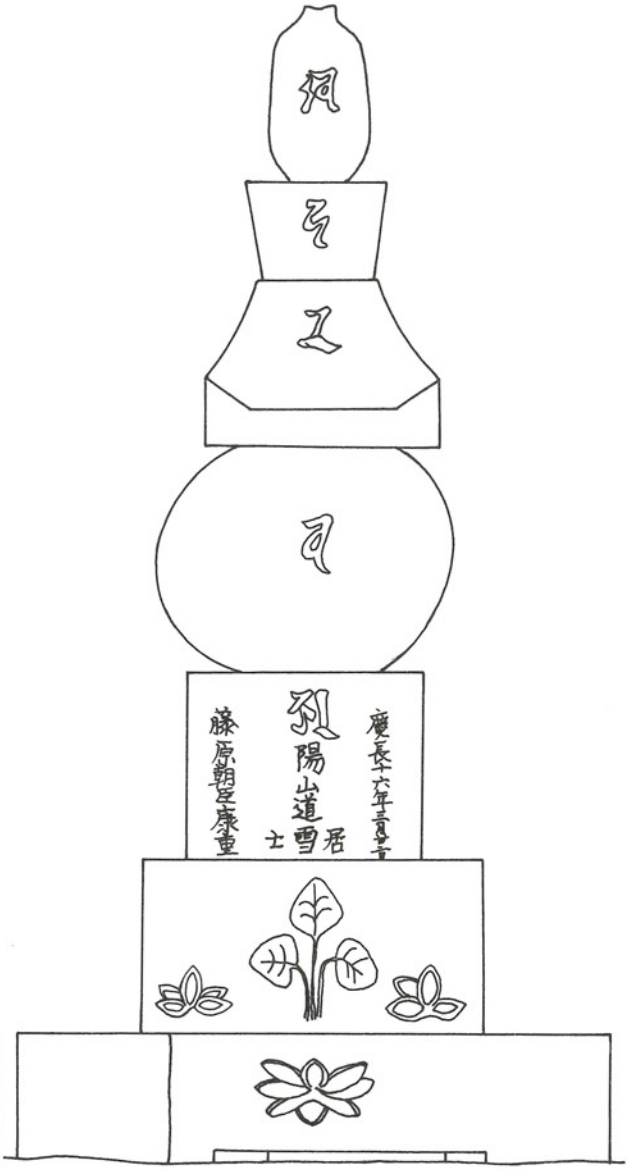
第31図　墓塔実測図（Ⅱ地区―４・５）



第32図　墓塔実測図（Ⅱ地区―6・7・20）

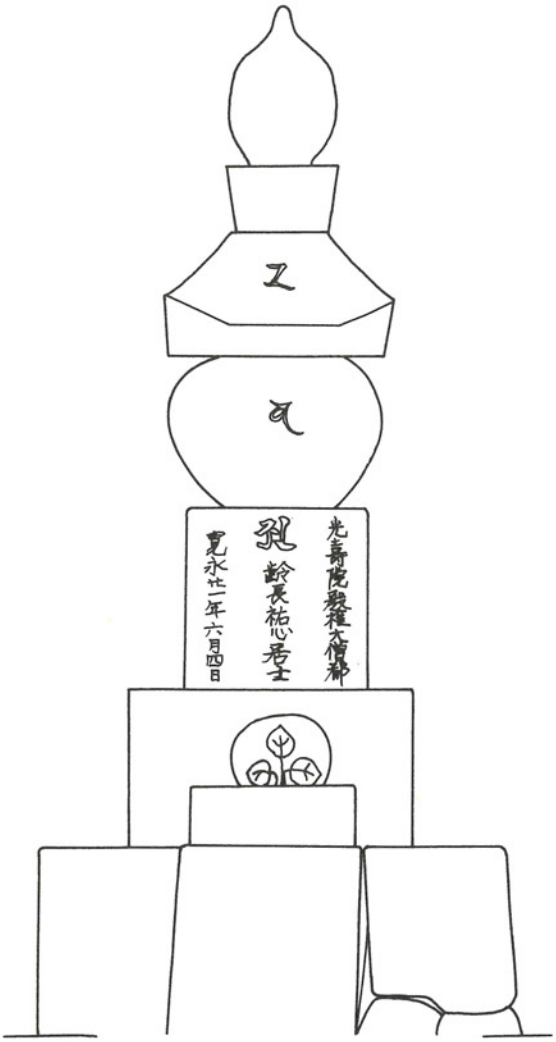


II－2

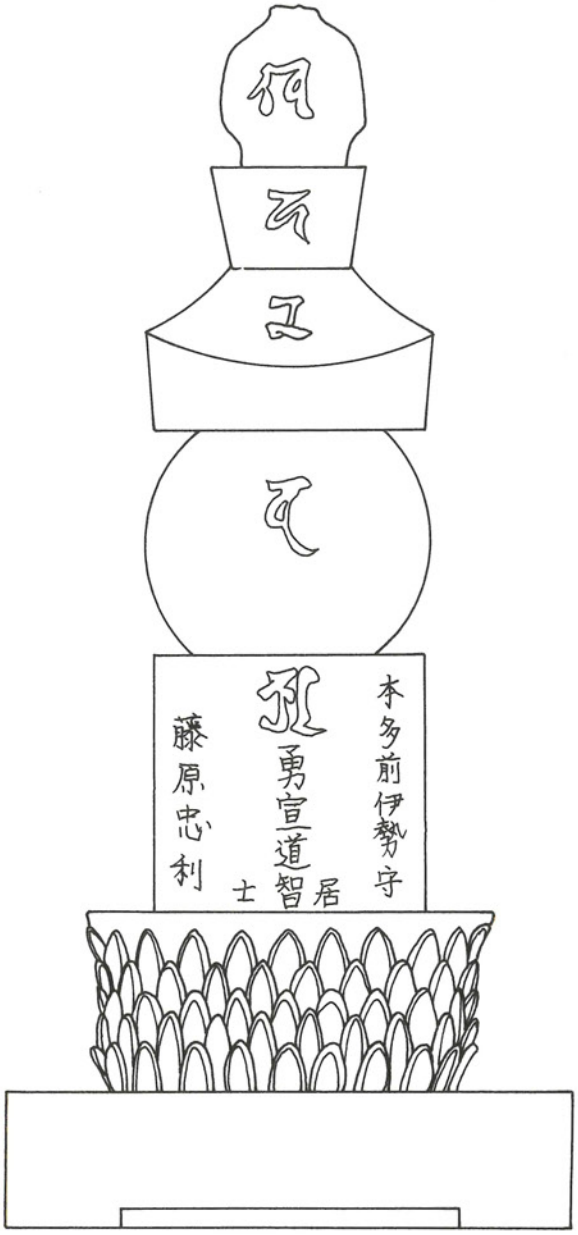


II－1

第33図　墓塔実測図（II地区－1・2）

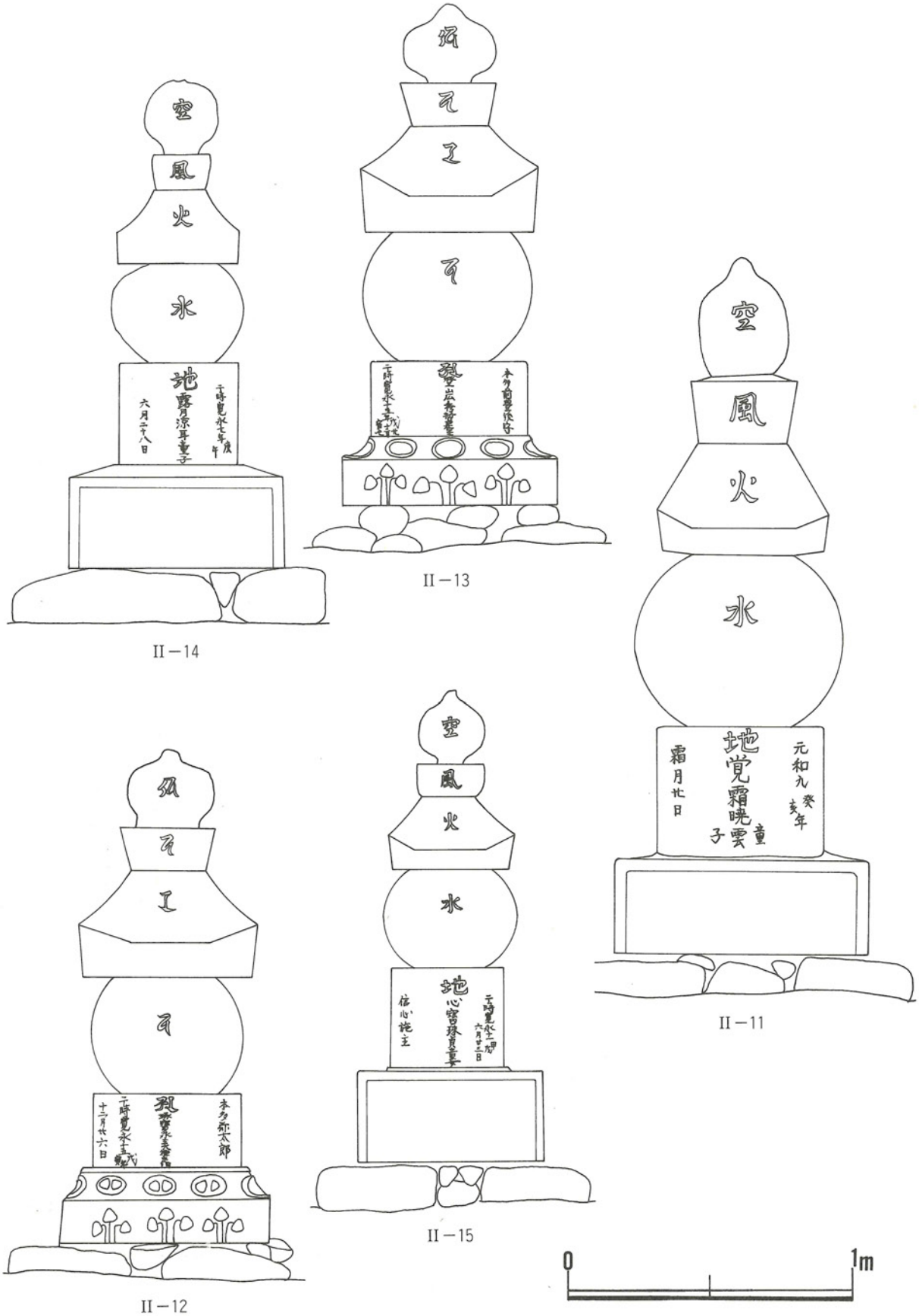


II－8

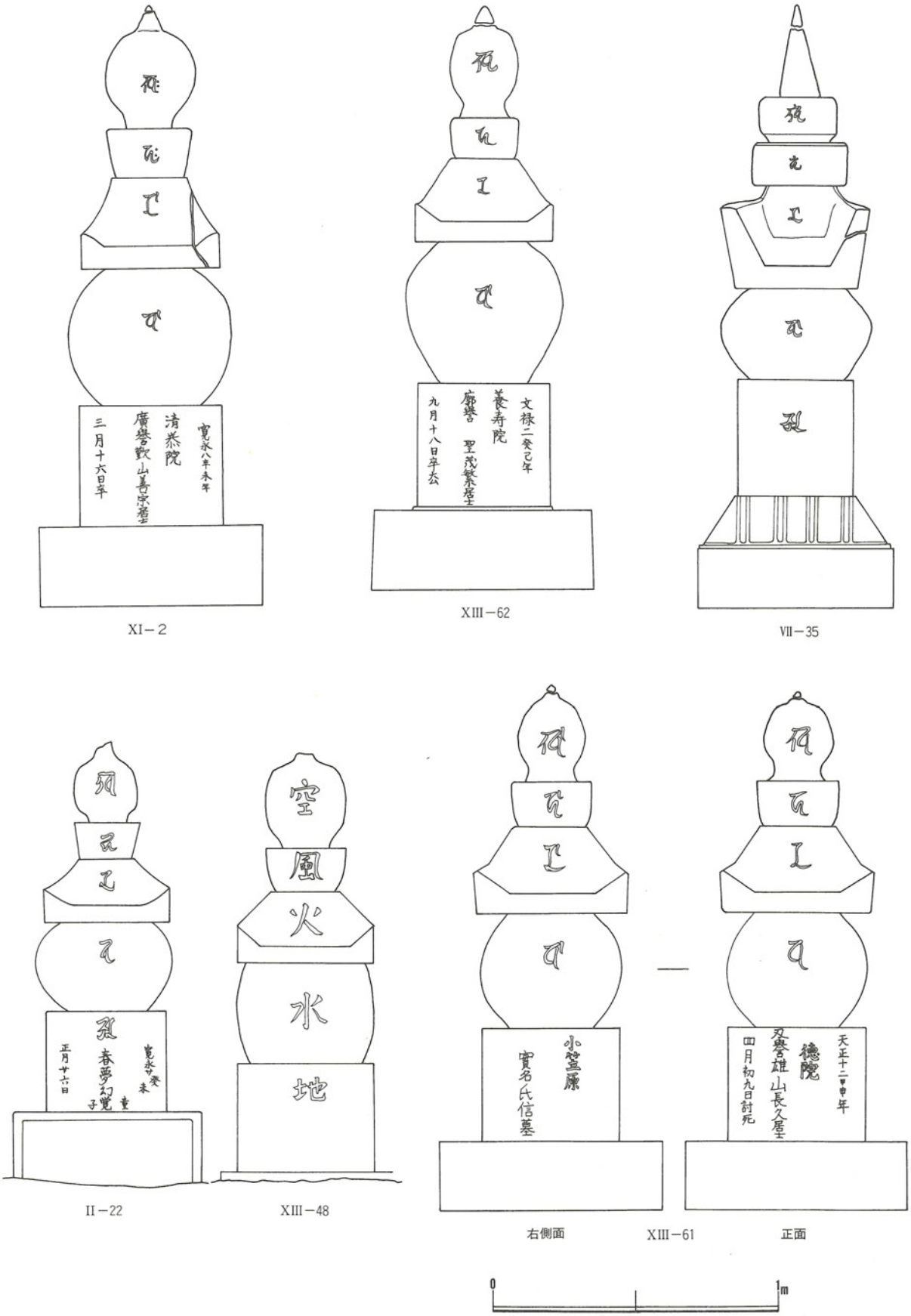


II－3

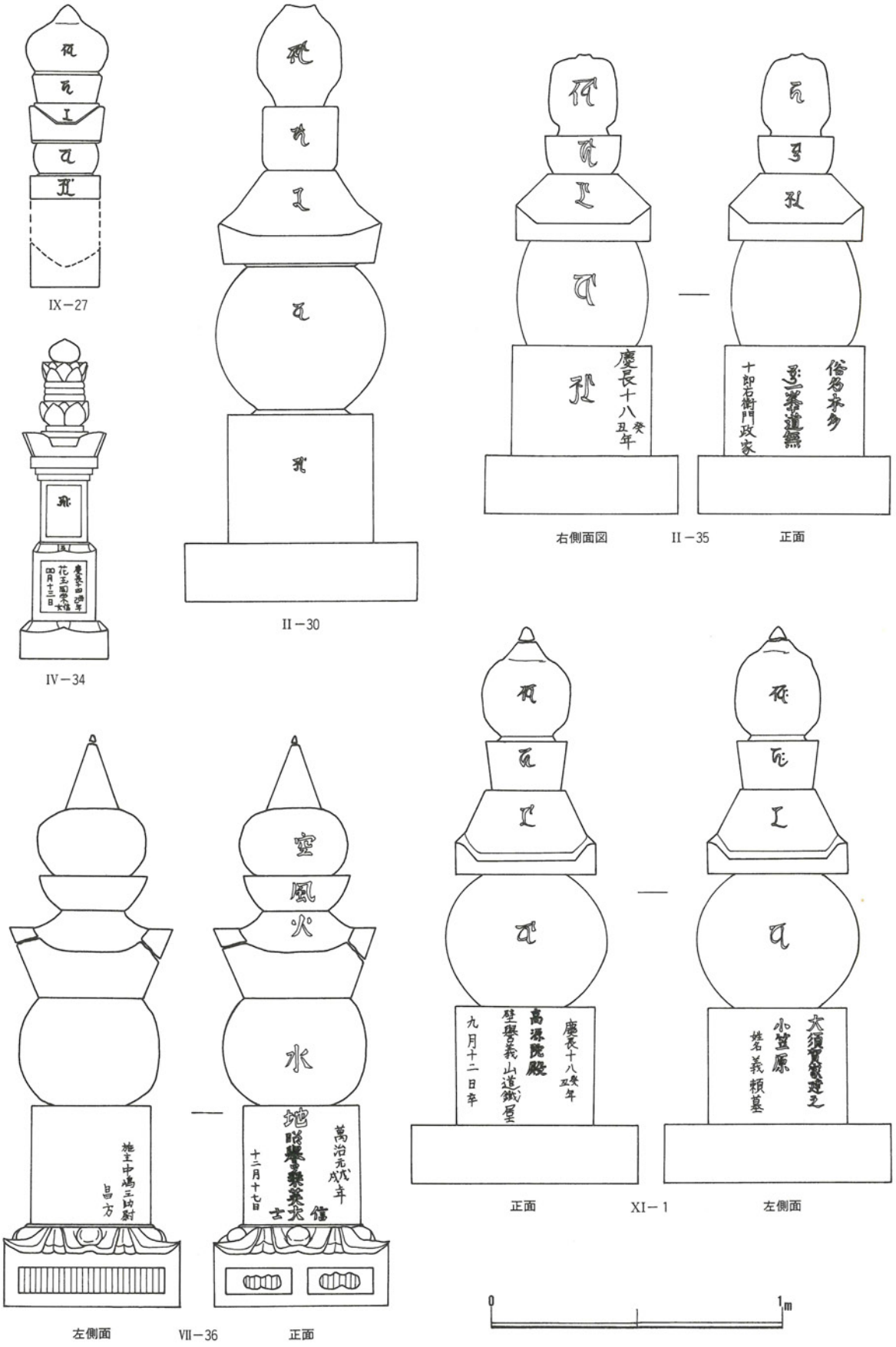
第34図　墓塔実測図（II地区―3・8）



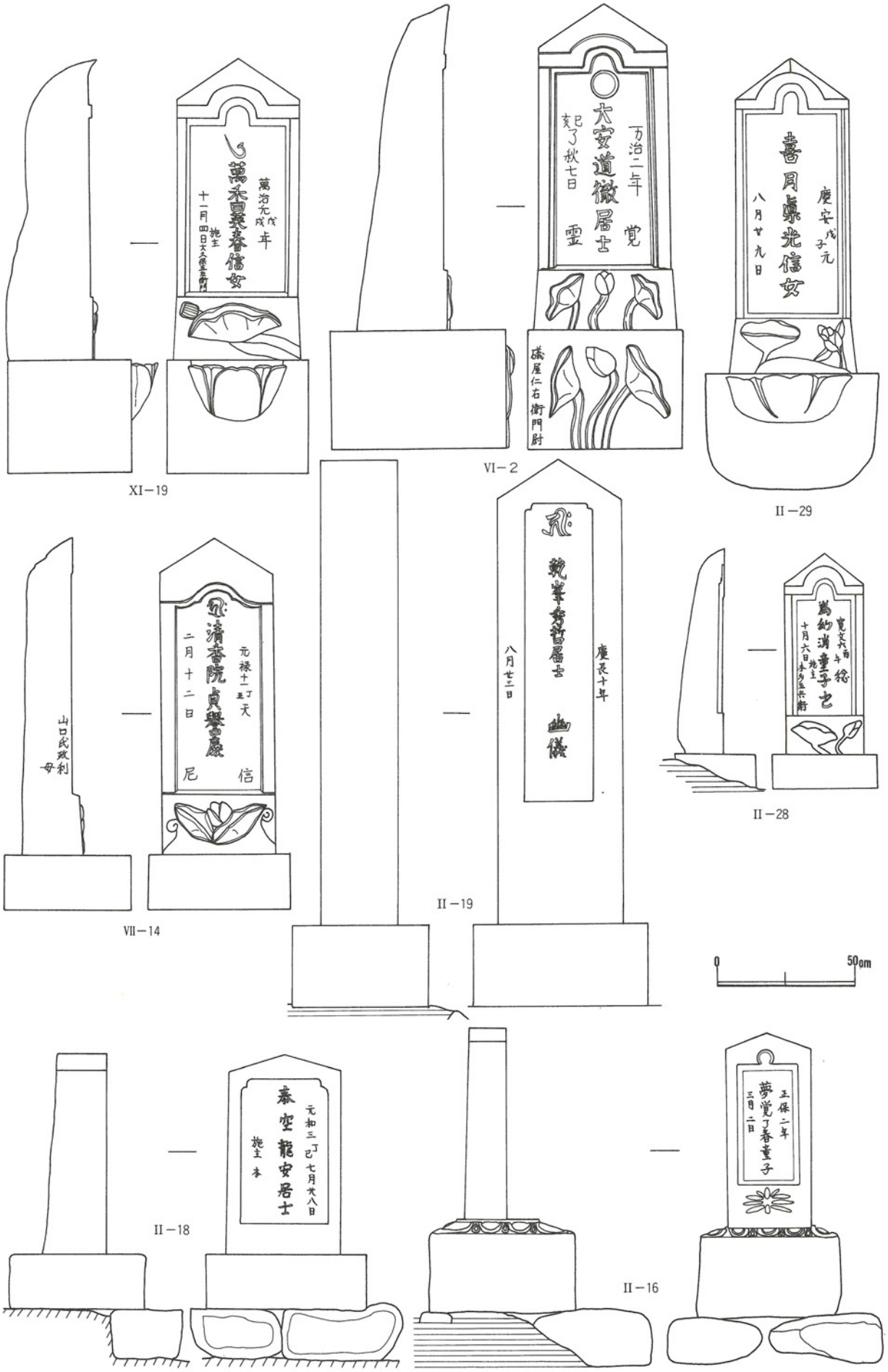
第35図　墓塔実測図（Ⅱ地区―11・12・13・14・15）



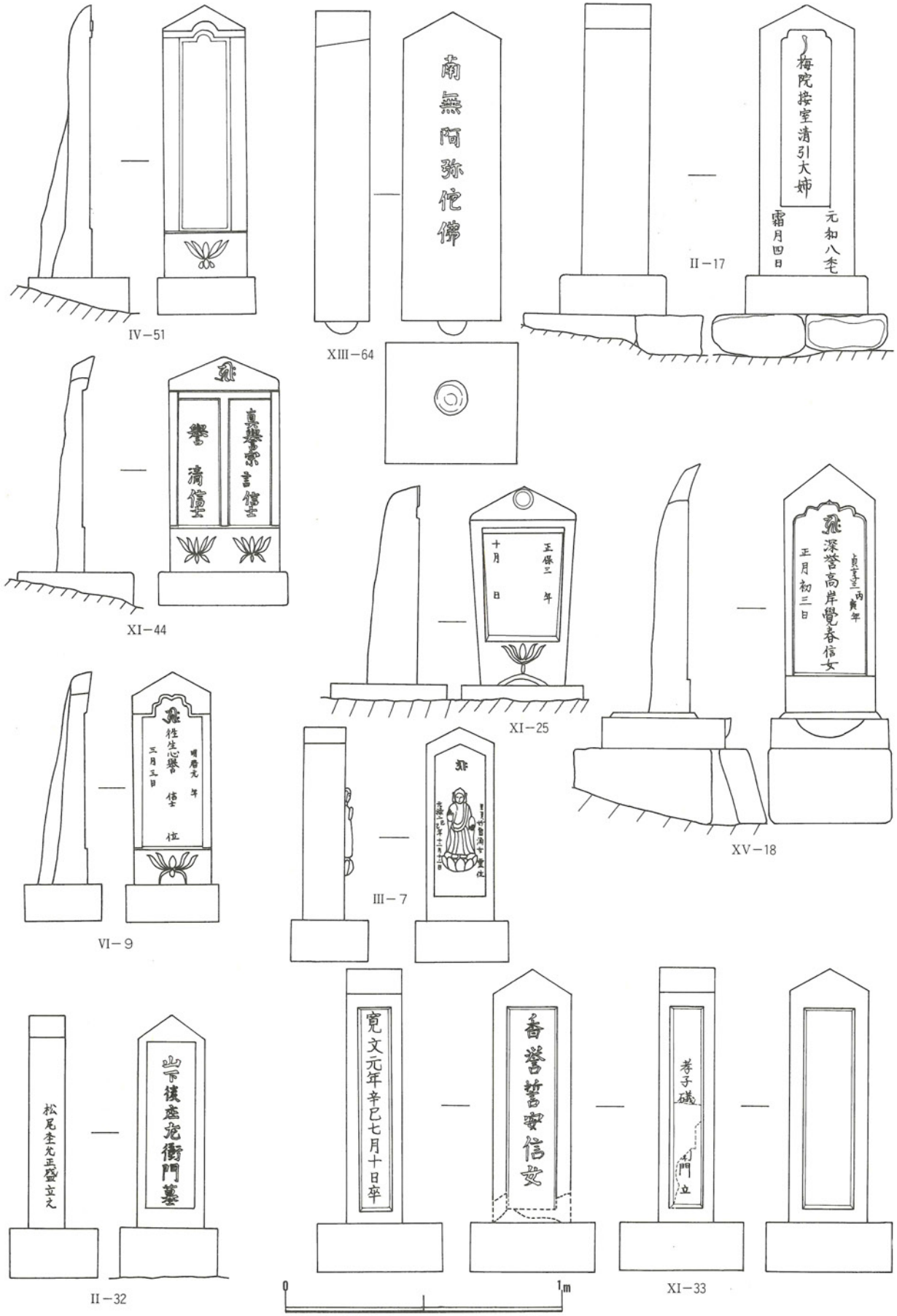
第36図　墓塔実測図（Ⅱ地区―22、Ⅶ地区―35、Ⅺ地区―２、Ⅻ地区―48・61・62）



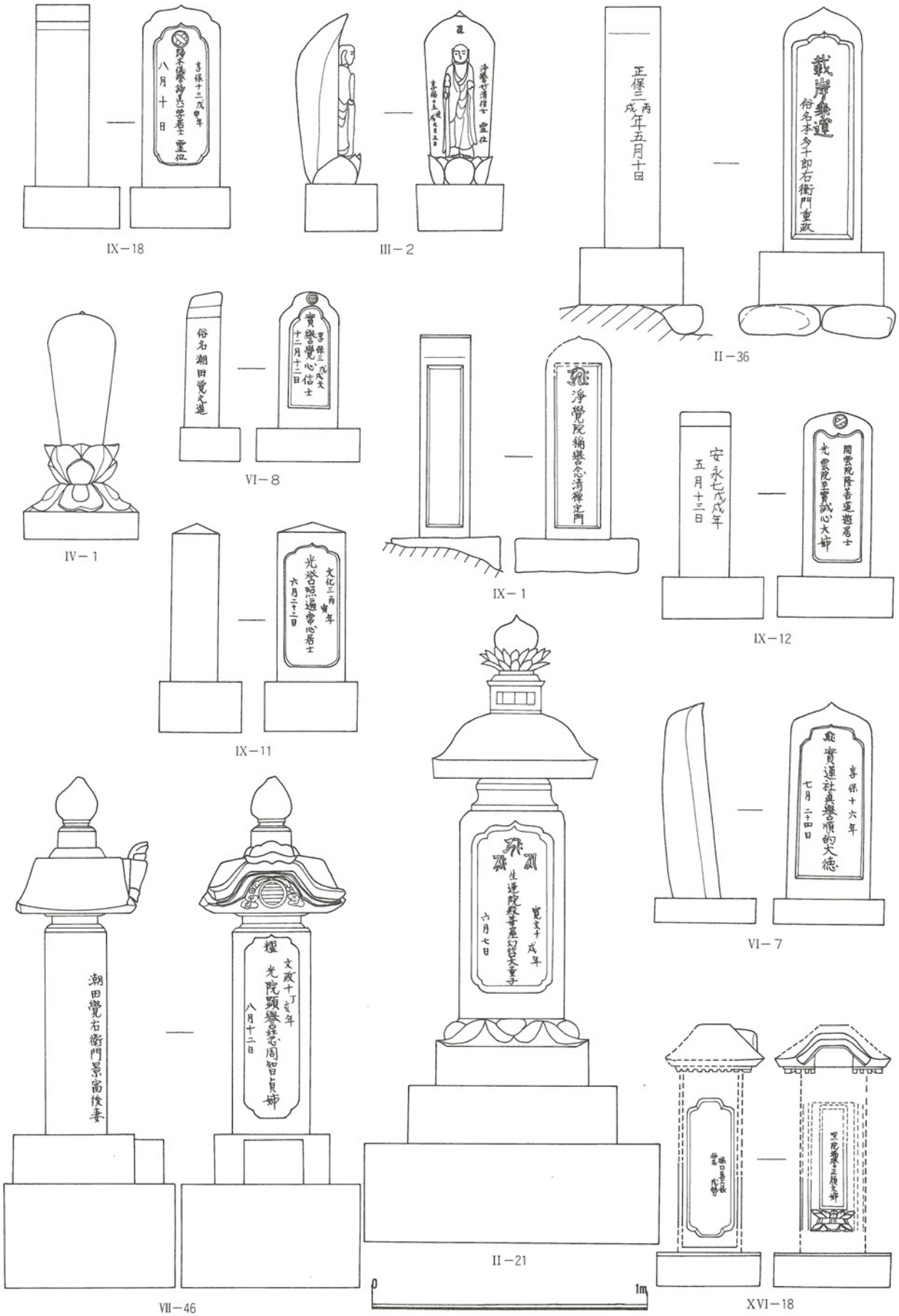
第37図　墓塔実測図（Ⅱ地区―30・35、Ⅳ地区―34、Ⅶ地区―36、XI地区―1）



第38図　墓塔実測図（Ⅱ地区―16・18・19・28・29、Ⅵ地区－２、Ⅶ地区―14、Ⅺ地区―19）



第39図　墓塔実測図（Ⅱ地区―17・32、Ⅲ地区―７、Ⅳ地区―51、Ⅵ地区―９、Ⅺ地区―25・33・34、XIII地区―64、XV地区―18）



第40図　墓塔実測図（Ⅱ地区―21・36、Ⅲ地区―２、Ⅳ地区―１、Ⅵ地区―７・８、Ⅶ地区―46、Ⅸ地区―１・11・12・18、XVI地区―18）

35とXIII地区21とは地・水・火の三輪が一石、風・空輪が一石で、基壇を別にすると二石から成っている。

また、正面に梵字を彫り、他の三側面は素面のもののほかに、四面に梵字があるもの、四面に地・水・火・風・空の文字をほりこんだものもある。この区別は次のようである。

四面に梵字のあるもの　II地区—1・2・3・8・12・13・22・30、VII地区—35、VIII地区—61、XI地区—2、XIII地区—62

正面にのみ梵字のあるもの　VII地区—36

正面に文字、他の三面は梵字のもの　XIII地区—48、XIII地区—21

四面に文字あるもの　II地区—14・15

無縫塔　塔身は、丸長で先端は卵形の尖り又は円頂をなすいわゆる卵塔の類である。基礎の上に垂れ蓮弁をそなえる六角の中台と変り蓮華をもつ請花部とを配し、上に塔身をもつものが多いが、最も古いのは開山の春阿大和尚のもので、総高一一六センチである。IV地区にあるものであるが、この地区には寺院の歴代の僧の無縫塔が並列している。無縫塔は、このIV地区のほかにV地区等に若干見られる。

II　墓　碑

宝篋印塔・五輪塔及び無縫塔のような墓塔の類のほかに、墓地を構成する大部分のものは、板状及び方柱状の墓碑である。もっとも、この区別は便宜的なもので、明確に区別することのできないものもある。一応ここにいう板状碑は、側面の厚さは、正面の幅に比していちじるしくなく、しかも背面は荒削のままで整美されない租面をなすものを基準としたい。方柱状のものは、正面の幅と側面の厚さ（第41図）が大体同じくらいのもの、すなわち断面正方形のもの、又はこれに近いものを基準とするが、断面が長方状をなすものでも、背面が磨かれ整美されているものも方柱碑となしたい。

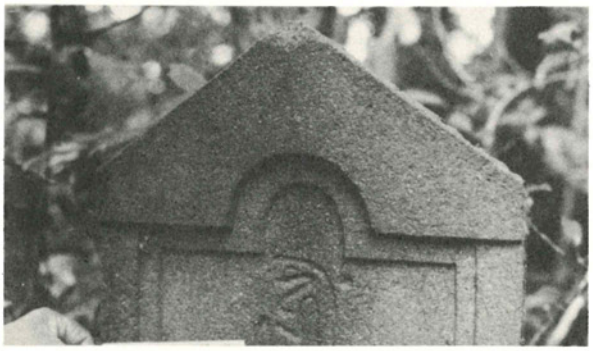
板状墓標　上頂部が、三角に尖るものがほとんどである。三角状の場合も鈍角又は鋭角をなすもの、まっすぐな線をなすもの、やや丸みのあるカーブをなすものなどもある。一応三角頭（第42図）と三角状弧頂（第42図1—3）とに区別する。またこれらには、頂部の三角と碑身との間に段を設けて碑身の方が低くなり、その段の中央に丸い刳りこみを設けるものもある。また三角頂がやや前に傾斜する反りを見せ、頂点からたてに稜線をおろすものもある。

方柱状墓標　現在の墓石にも共通しているいわゆる角碑であるが、正面の幅に比して側面の厚さが、二分の一に満たないものでも、背面が正面・側面と同じく平滑になっているものもこの類に含めた。頂

第41図　板状碑の正面と側面（II地区—29）

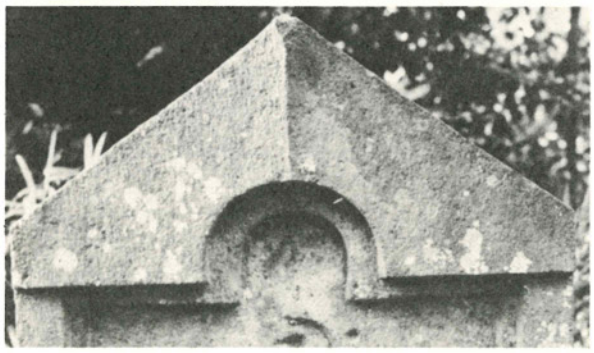
XV
18

VI
9

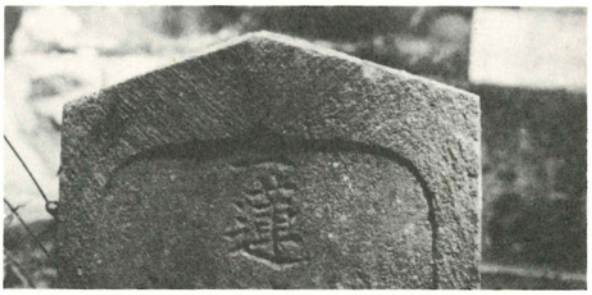


IX
39

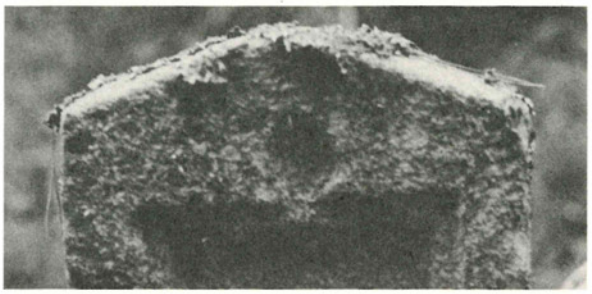
II
29



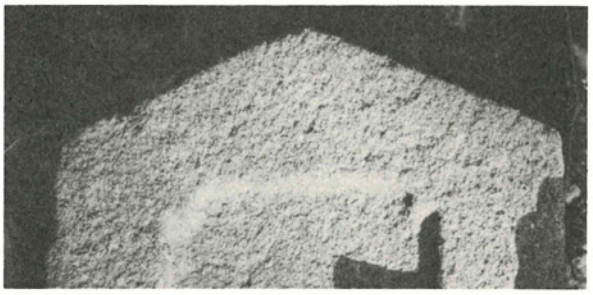
III
4



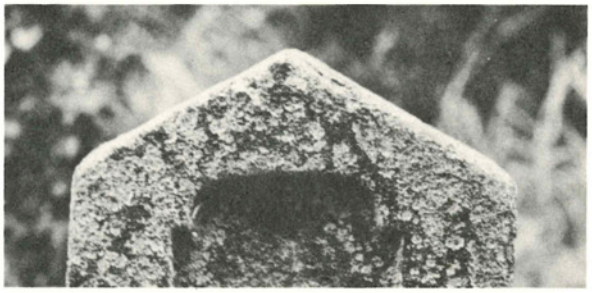
VIII
32



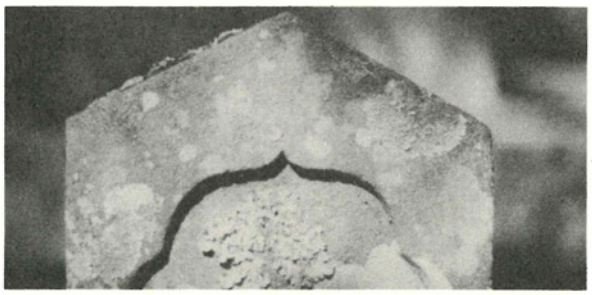
II
16



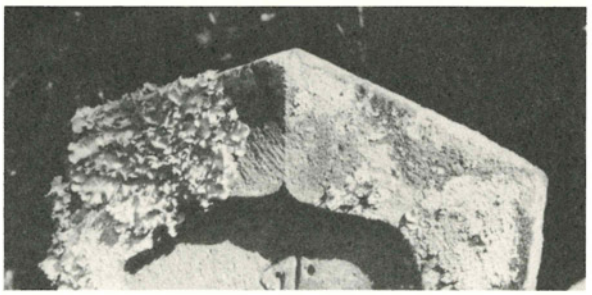
IX
10



II
17



VII
15



VII
52

第42図　三角頭墓標の諸型式

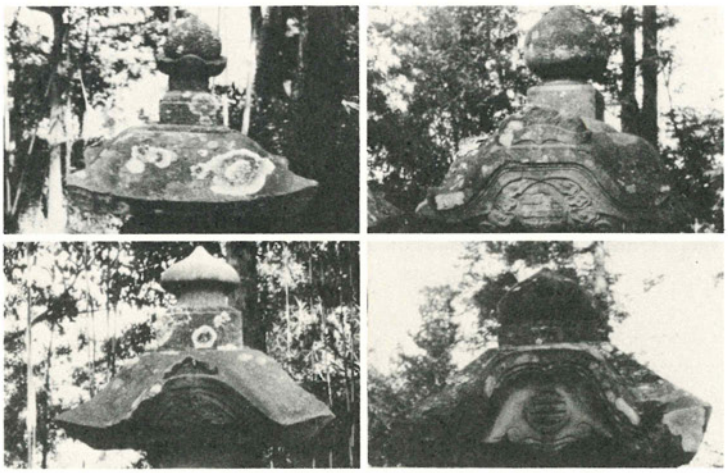
第43図　三角状弧頭・弧頭・二重弧頭・隅丸方頭・隅丸・二重方頭・盛り上げ方頭・三角錐方頭

部の形式によって、三角頭、三角状弧頭、弧頭、二垂弧頭、方頭、隅丸方頭、盛り上げ方頭、三角錐方頭等にわけたが、これらの区別は挿図第42図（4—12）に掲げたのでこの説明を省きたい。なお、たとえば方頭を打切形石碑、三角錐方頭を兜巾形石碑、孤頭の一形式を香匣形石碑となしている名称もあるが（たとえば後藤守一「郷土考古学—墳墓を中心として」（郷土史研究講座七）わかり易い名を採用した。

笠付方柱状墓標　高い方柱の上に笠をおく形式である。方柱の断面には長方形のものもあるが背面も平滑になっている。笠も破風付きの複雑な意匠を示すものもある。特殊なものとしてXVI地区の18のものは、正面もわくをとりつけ一種の位牌形を示している。なお、笠でなく宝珠をあらわしたものもある。

第44図　各面の隅取りのある三角頭角碑（XI地区—33）

第46図　位牌形笠付方柱状墓標



第45図　笠付方柱状墓標の笠部

Ⅲ　仏像付光背状墓標

仏像を主体にすれば、仏像に光背をとりつけた形式であるが、むしろ船形の板状光背に仏像を高肉彫りに造りつけたとみた方がよい。各地区にわずかな例がある。これらには供養碑としての性格をもつものも考えられるが、童男・童女の墓標にも見られる。

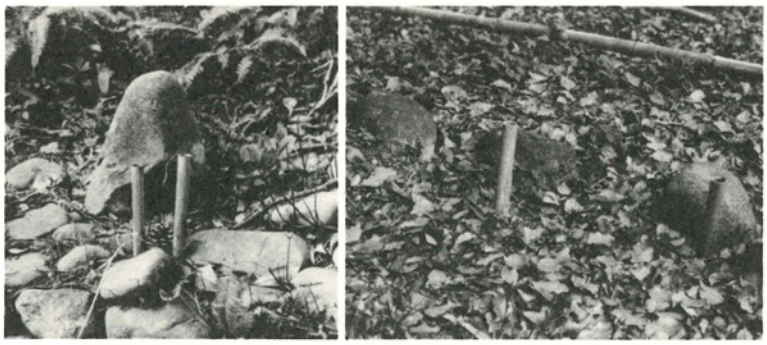
Ⅳ　その他の墓標

これらのほかに、自然石のものも若干ある。新しいものもあるようであるが、大型の面の平らかな扁平の自然石を用いたもののほかに、自然丸石の小型のものを墓石にしたものもある。

なお、以上述べたような墓標とみなされる例のほかに、供養塔或いは供養碑と考えられるものもある。さきに述べた来家夫妻の石仏像も、一種の供養的なものと考えたいがこのほか、方柱の上に石仏を配したもの、又は、方柱碑で表面に南無阿弥陀仏の名号を刻したものなどこの類であろう。

注

1　川勝政太郎「日本石材工芸史」昭和三十二年



第48図　自然石の墓標

第47図　仏像付背光状墓標（Ⅳ地区―15）

四、墓標の編年的序列

前述のように、種類によって分類し、また地区別に整理した墓標群はそれぞれの個々において、どのような編年的な序列に編成されるであろうか。次に、紀年銘の明らかなおよそ二五〇基について、編年的な序列を表によって整理したものを掲げることにする。

十九	〃	十六	十五	十四	十一	十	〃	八	七	五	〃	寛永二	九	八	七	六	元和三	〃	十八	十六	十四	十二	〃	十	慶長七	文禄元	十六	〃	天正十二		
一六四二	〃	一六三九	一六三八	一六三七	一六三四	一六三三	〃	一六三一	一六三〇	一六二八	〃	一六二五	一六二三	一六二二	一六二一	一六二〇	一六一七	〃	一六一三	一六一一	一六〇九	一六〇七	〃	一六〇五	一六〇三	一五九一	一五八八	〃	一五八四		
				○																	○	○					○			宝篋印塔	
	○		○		○			○	○			○	○		○			○	○	○					○	○			○	五輪塔	
							○																	○				○		無縫塔	
○		○				○					○			○		○	○						○							三角頭	板状碑
																														三角状弧頭	
																														弧頭	角柱碑
																														二重弧頭	
																														隅丸方頭	
																														二重隅丸方頭	
																														盛り上げ方頭	
																														三角錐頭	
																														笠付方柱	
																														仏像付光背型	
																														その他	
II 37	XI 3	XV 1	II 13	II 4	II 15	XIII 44	IV 3	XI 2	II 14	VII 7	XI 42	VII 7	II 2	II 17	XIII 21	XIII 38	II 28	XI 1	II 35	II 1	IV 34	I 2	II 29	IV 2	VIII 34	VIII 62	I 1	IV 1	XIII 61		

〃	〃	〃	三	承應二	五	〃	四	〃	〃	三	〃	〃	〃	二	慶安元	四	〃	〃	〃	三	〃	〃	二	正保元	二一	〃	〃	二十	寛永十九		
〃	〃	〃	一六五四	一六五三	一六五二	〃	一六五一	〃	〃	一六五〇	〃	〃	〃	一六四九	一六四八	一六四七	〃	〃	〃	一六四六	〃	〃	一六四五	一六四四	一六四四	〃	〃	一六四三	一六四二		
		○		○									○																	宝篋印塔	
			○					○		○															○	○	○			五輪塔	
																				○										無縫塔	
○	○				○	○	○				○	○		○	○		○	○			○	○	○	○				○	○	三角頭	板状碑
									○							○			○											三角状弧頭	
																														弧頭	角柱碑
																														二重弧頭	
																														隅丸方頭	
																														二重隅丸方頭	
																														盛り上げ方頭	
																														三角錐頭	
																														笠付方柱	
																														仏像付光背型	
																														その他	
XIII 10	XIII 10	II 6	II 6	II 9	VI 3	XIII 22	XIII 36	VII	II 38	VII 35	XIII 58	XIII 63	II 5	II 32	II 29	XIII 40	XI 25	X 17	II 36	IV 5	II 16	VIII 11	VI 1	VIII 18	II 8	II 22	II 23	IX 37	IV 51		

明暦	元	一六五五				○											VI 9
	三	一六五七				○											XII 11
	〃	〃	○														II 7
	四	一六五八				○											IX 39
万治	元	一六五八				○											VII 8
	〃	〃	○														VII 36
	〃	〃				○											VII 39
	〃	〃				○											III 4
	〃	〃				○											X 47
	二	一六五九				○											VI 2
	〃	〃				○											XIII 35
	三	一六六〇				○											XIII 34
	〃	〃					○										VI 4
寛文	元	一六六一				○											XI 33
	〃	〃				○											IX 6
	〃	〃	○														II 10
	二	一六六二				○											XIII 1
	〃	〃				○											VIII 2
	三	一六六三				○											XI 20
	〃	〃				○											VII 13
	四	一六六四	○														II 20
	五	一六六五				○											VII 2
	〃	〃				○											XV 3, XV 3, XII 2
	〃	〃			○												IV 4
	〃	〃															VII 1
	六	一六六六				○											VII 28
	〃	〃				○											II 27
	〃	〃				○											II 25
	七	一六六七			○												IV 6
	〃	〃															XI 14
	八	一六六八															XI 31
	〃	〃				○											VII 43
	九	一六六九				○											VII 12
	十	一六七〇				○											XI 16
	〃	〃				○											VII 41

寛文	十	一六七〇															II 21
	〃	〃				○											II 24
	〃	〃															VII 41
	十一	一六七一				○											VI 6
	十二	一六七二															XI 13
	〃	〃				○											VIII 30
	十三	一六七三				○											XIII 23
	〃	〃				○											XIII 59
延宝	二	一六七四				○											II 33
	〃	〃				○											XIII 66
	三	一六七五															II 34
	四	一六七六				○											XII 40
	五	一六七七				○											XIV 9
	〃	〃				○											XVI 9
	〃	〃															IX 1
	六	一六七八				○											IX 28
	〃	〃				○											IX 8
	〃	〃			○												VIII 17
	〃	〃															II 40
	〃	〃				○											II 42
	七	一六七九				○											XI 29
	九	一六八一															XIII 52
	〃	〃															XIII 52
	〃	〃				○											XIV 30
	〃	〃				○											X 18
天和	二	一六八二															IV 41
	〃	〃			○												X 46
	三	一六八三				○											XII 43
貞享	元	一六八四				○											VII 57
	三	一六八六				○											XV 18
	四	一六八七			○												IV 7
元禄	元	一六八八															VI 15
	〃	〃				○											XVI 29
	二	一六八九				○											III 7

年号	西暦	宝篋印塔	五輪塔	無縫塔	板状碑 三角頭	板状碑 三角状弧頭	角柱碑 弧頭	角柱碑 二重弧頭	角柱碑 隅丸方頭	角柱碑 二重隅丸方頭	角柱碑 盛り上げ方頭	角柱碑 三角錐頭	笠付方柱	仏像付光背型	その他	
元禄二	一六八九			○												V 12
三	一六九〇				○											XVI 28
四	一六九一				○											XII 51
十	一六九七				○											XVI 30
〃	〃															VI 10
〃	〃				○											VII 14
〃	〃				○											XIV 7
十一	一六九八													○		XIV 20
十三	一七〇〇														○	XIV 20
十五	一七〇二				○											XII 27
〃	〃							○								VIII 19
〃	〃				○											VII 52
〃	〃												○			XVI 23
宝永元	一七〇四				○											XII 10
二	一七〇五				○											XII 50
〃	〃							○								XII 37
〃	〃							○								III 5
三	一七〇六													○		IV 31
四	一七〇七							○								XV 19
〃	〃												○			IV 49
五	一七〇八							○								XIV 35
〃	〃					○										X 44
六	一七〇九				○											XII 16
〃	〃							○								IV 29
正徳元	一七一一							○								IV 38
二	一七一二							○								XII 38
三	一七一三														○	IV 42
〃	〃				○											IX 14
五	一七一五				○											VIII 22
六	一七一六					○										XIV 32

年号	西暦	宝篋印塔	五輪塔	無縫塔	板状碑 三角頭	板状碑 三角状弧頭	角柱碑 弧頭	角柱碑 二重弧頭	角柱碑 隅丸方頭	角柱碑 二重隅丸方頭	角柱碑 盛り上げ方頭	角柱碑 三角錐頭	笠付方柱	仏像付光背型	その他	
享保元	一七一六					○										X 51
二	一七一七							○								XV 39
三	一七一八							○								VI 8
〃	〃			○												IV 9
〃	〃							○								XII 19
四	一七一九							○								XIV 31
〃	〃				○											VII 56
〃	〃				○											VIII 14
〃	〃				○									○		XVII 66
〃	〃															XV 50
五	一七二〇					○										XV 15
〃	〃							○								IX 17
〃	〃				○											VII 15
〃	〃							○								XV 17
六	一七二一												○			IV 19
〃	〃							○								XIV 23
七	一七二二													○		XIV 36
八	一七二三															X 40
〃	〃				○											XIII 16
十	一七二五															XIV 8
〃	〃				○											IV 50
十二	一七二七															XIV 3
〃	〃				○											IV 36
〃	〃												○			VIII 9
〃	〃														○	IV 36
十三	一七二八							○								IX 18
〃	〃				○											XV 16
〃	〃															XII 39
十四	一七二九													○		XVIII 65
十五	一七三〇						○									IX 29

享保十五	一七三〇		○													IX 10
〃	〃					○										XII 6
十六	一七三一						○									IX 21
〃	〃						○									VII 26
〃	〃					○										VI 7
〃	〃							○								XIV 9
十七	一七三二						○									IV 20
十八	一七三三				○											XII 49
十九	一七三四				○											VII 51
二十	一七三五													○		XVI 16
	一七一六～一七三六				○											XIV 25
元文二	一七三七				○											XVI 31
〃	〃							○								IV 37
〃	〃				○											XVI 6
〃	〃				○											XVI 31
三	一七三八													○		IX 31
〃	〃				○											IX 19
四	一七三九							○								XV 12
五	一七四〇						○									IX 20
〃	〃						○									XII 28
〃	〃															X 27
寛保元	一七四一													○		IV 43
二	一七四二				○											XV 11
三	一七四三				○											IX 41
〃	〃													○		XV 10
延享元	一七四四								○							XIV 47
二	一七四五													○		X 28
〃	〃								○							XIV 1
〃	〃														○	XIV 48
三	一七四六						○									XII 17
四	一七四七						○									XV 37
寛延三	一七五〇				○											XV 9
〃	〃			○												IV 11
宝暦元	一七五一															X 29
三	一七五三															IV 39

宝暦六	一七五六						○									IX 32
〃	〃				○											X 21
〃	〃				○											XVIII 71
〃	〃				○											XV 8
〃	〃				○											XVI 32
七	一七五七						○									XVIII 59
〃	〃						○									XV 35
九	一七五九						○									XVI 5
安永二	一七七三						○									XVIII 68
宝暦十	一七六〇															IV 48
〃	〃				○											XIV 16
十一	一七六一															XV 34
〃	〃			○												IV 12
十二	一七六二						○									XII 26
〃	〃				○											XVIII 14
〃	〃						○									XV 32
明和二	一七六五						○									XII 9
〃	〃						○									IV 35
三	一七六六						○									IV 37
四	一七六七				○											IX 22
五	一七六八						○									IX 34
〃	〃						○									XIV 12
七	一七七〇															IV 30
〃	〃						○									XVIII 73
	一七六四～一七七二							○								XV 33
安永二	一七七三						○									IV 28
三	一七七四						○									XII 29
四	一七七五						○									XIV 10
六	一七七七							○								IX 21
七	一七七八						○									XII 5
〃	〃						○									IX 12
八	一七七九													○		XIV 45
九	一七八〇			○												XIV 19
天明二	一七八二						○									IV 27
〃	〃						○									XV 21

〃	四	〃	三	〃	〃	〃	文化元	〃	三	〃	〃	享和二	〃	十	〃	九	八	七	〃	六	五	〃	〃	四	二	寛政元	五	〃	四		
〃	一八〇六	〃	一八〇五	〃	〃	〃	一八〇四	〃	一八〇三	〃	〃	一八〇二	〃	一七九八	〃	一七九七	一七九六	一七九五	〃	一七九四	一七九三	〃	〃	一七九二	一七九〇	一七八九	一七八五	〃	一七八四		
																														宝篋印塔	
																														五輪塔	
																														無縫塔	
														○	○															三角頭	板状碑
												○	○																	三角状弧頭	
	○	○	○				○				○	○				○		○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	弧頭	角柱碑
							○	○	○																					二重弧頭	
																			○											隅丸方頭	
																														二重隅丸方頭	
○																														盛り上げ方頭	
				○	○		○										○													三角錐頭	
																														笠付方柱	
																														仏像付光背型	
																														その他	
IX 11	X 26	X 7	VIII 6	XVI 13	VII 47	IV 23	VII 47	X 22	XIV 6	XVII 61	XVII 72	VIII 27	XII 53	XII 56	XIV 26	XVII 57	IV 17	X 35	IX 33	XVII 30	XVII 18	VII 60	XVII 70	XIV 14	XIV 13	X 41	VIII 7	XVII 63	XVII 49		

〃	〃	天保元	十三	十二	十一	十	九	八	〃	七	五	三	二	〃	文政元	〃	十三	〃	十一	十	九	〃	〃	八		〃	六	〃	文化五		
〃	〃	一八三〇	一八三〇	一八二九	一八二八	一八二七	一八二六	一八二五	〃	一八二四	一八二三	一八二〇	一八一九	〃	一八一八	〃	一八一六	〃	一八一四	一八一三	一八一二	〃	〃	一八一一	一八〇九	〃	一八〇八	〃	一八〇七		
																														宝篋印塔	
																														五輪塔	
																														無縫塔	
														○																三角頭	板状碑
																														三角状弧頭	
				○											○													○		弧頭	角柱碑
																														二重弧頭	
○	○	○	○		○				○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			隅丸方頭	
																														二重隅丸方頭	
																														盛り上げ方頭	
						○																				○			○	三角錐頭	
																○														笠付方柱	
																														仏像付光背型	
																														その他	
X 27	X 36	VIII 5	X 32	XV 23	XIV 11	VII 46	VII 28	X 24	X 25	XII 30	XVII 50	XVII 43	VIII 13	XIV 22	XIV 54	XVI 14	XVII 10	XVII 67	XVI 60	XII 23	VII 48	XVII 7	XIV 56	VII 21	XII 12	IV 18	VII 22	XII 13	IV 22		

〃	〃	〃	〃	十四	十三	〃	〃	〃	十一	〃	〃	十	九	〃	八	〃	〃	〃	〃	七	〃	六	〃	五	〃	〃	〃	〃	四	〃	〃	〃	三	天保元
〃	〃	〃	〃	一八四三	一八四二	〃	〃	〃	一八四〇	〃	〃	一八三九	一八三八	〃	一八三七	〃	〃	〃	〃	一八三六	〃	一八三五	〃	一八三四	〃	〃	〃	〃	一八三三	〃	〃	〃	一八三二	一八三〇
	○	○	○				○	○											○					○	○	○								
				○		○			○	○	○	○					○	○		○	○	○	○					○	○	○	○			○	○	○
					○																														
															○																				
														○																	○	○			
○																																			
XII 1	XV 25	XVIII 5	XV 25	XIV 15	V 13	XIV 27	X 8	XVII 74	XII 31	XVII 53	XVII 69	XIV 58	IV 44	IV 45	VII 50	XVII 16	XVI 27	XII 14	IX 35	XVI 1	XIV 57	XVII 17	XVI 2	VII 53	XVII 28	XV 26	XIV 5	XIV 4	X 42	IX 46	VII 45	XVII 64	XV 26	XVII 12

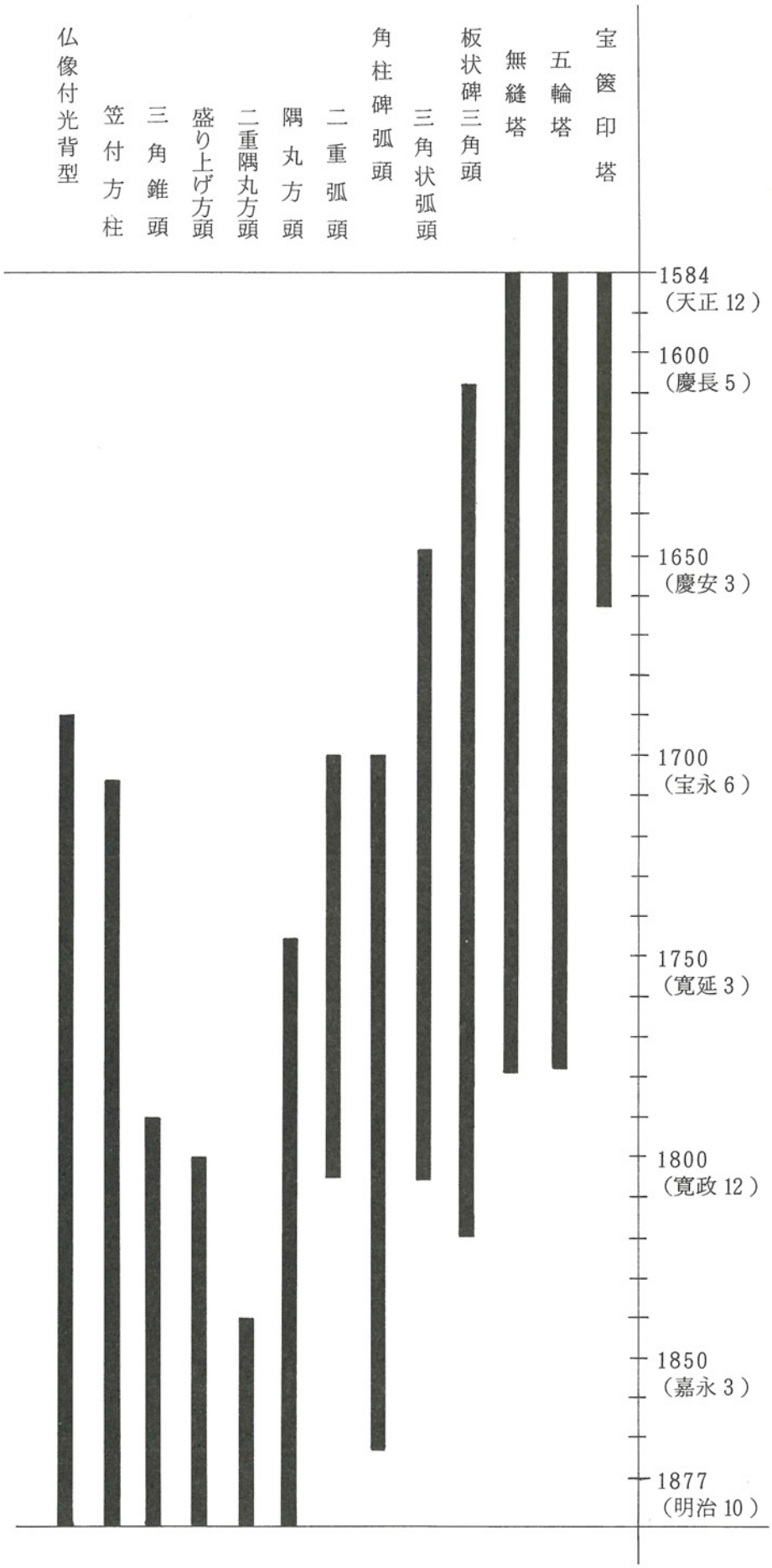
〃	〃	〃	〃	二	文久元	〃	万延二	六	四	三	〃	安政二	〃	七	〃	六	五	四	〃	〃	三	〃	嘉永元	五	〃	〃	〃	〃	〃	四	三	〃	弘化二	天保十五
〃	〃	〃	〃	一八六二	一八六一	〃	一八六一	一八五九	一八五七	一八五六	〃	一八五五	〃	一八五四	〃	一八五三	一八五二	一八五一	〃	〃	一八五〇	〃	一八四八	一八四八	〃	〃	〃	〃	〃	一八四七	一八四六	〃	一八四五	一八四四
						○					○							○						○	○										
○				○	○			○	○	○		○		○		○	○		○			○	○		○		○	○	○	○	○			○
																				○															
							○						○		○																				
XII 21	XVII 20	XVIII 6	XVI 7	IV 52	XVII 8	XII 8	VII 63	XVII 46	IV 24	XVIII 4	XVII 27	X 43	V 9	VII 49	V 10	IV 40	X 31	IV 25	XVII 78	XVI 11	X 38	XVII 24	VII 44	V 8	XVII 3	XVII 51	XVI 4	XIV 16	VII 18	VII 10	XIV 17	V 6	IX 23	XIV 44

	文久三	〃	四	慶應元	〃	〃	〃	〃	二	四	明治元	二	三	〃	〃	〃	〃	四	〃	〃
	一八六三	〃	一八六四	一八六五	〃	〃	〃	〃	一八六六	一八六八	一八六八	一八六九	一八七〇	〃	〃	〃	〃	一八七一	〃	〃
宝篋印塔																				
五輪塔																				
無縫塔																				
板状碑 三角頭																				
板状碑 三角状弧頭																				
角柱碑 弧頭																				
角柱碑 二重弧頭																				
角柱碑 隅丸方頭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○
角柱碑 二重隅丸方頭																				
角柱碑 盛り上げ方頭																				
角柱碑 三角錐頭																				
笠付方柱												○								
仏像付光背型																				
その他																				
	XV	XII	XVII	X	XVI	X	XVII	XVI	XVI	XVII	XV	VII	XII	XII	IX	IX	XVI	XII	XII	XIII
	28	30	42	39	19	39	76	19	20	25	31	64	22	20	7	25	22	54	32	53

	明治四	五	〃	六	〃	七	〃	〃	〃	〃	〃	八	〃	九	〃	〃	十	〃
	一八七一	一八七二	〃	一八七三	〃	一八七四	〃	〃	〃	〃	〃	一八七五	〃	一八七六	〃	〃	一八七七	〃
宝篋印塔																		
五輪塔																		
無縫塔																		
板状碑 三角頭																		
板状碑 三角状弧頭																		
角柱碑 弧頭									○									
角柱碑 二重弧頭																		
角柱碑 隅丸方頭	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○		○
角柱碑 二重隅丸方頭																		
角柱碑 盛り上げ方頭																	○	
角柱碑 三角錐頭																		
笠付方柱																		
仏像付光背型																		
その他																		
	XIII	VII	XIII	VII	XIII	V	VII	V	V	XII	XII	XIII	VII	III	XVIII	XVIII	XVI	XVII
	55	31	39	24	5	2	30	3	4	35	42	56	25	8	37	52	3	75

五、墓標の変遷

以上の表のように、編年的な序列にしたがって整理してみると、宝篋印塔・五輪塔又は板状・方柱状の墓標のそれぞれの形式をもったものが、その初現の天正十六年のものから、一応便宜的に区切った明治十年の終末のときまで、およそ三百年の間にわたって、互いに消長があり推移があったことが知られるのである。この消長変遷は、大まかにみると次のような図の如くである。



この表でも知られるように、それぞれの墓標は、時期の経過とともに変化を呈している。宝篋印塔は、初現の天正年間からあらわれて発達しているが、寛文元年（一六六四）のものをもって絶えている。五輪塔は、紀年銘の明らかなものを例にとれば、天正十二年（一五八四）のものが初現であり、万治元年（一六五八）の例をもって終っている。紀年銘の明らかでないものも、恐らくほぼその間のものに位置づけられるであろう。これらに対して、無縫塔は、はじめ開山の僧の墓塔として天正十二年（一五八四）のものを初現とし、しかも、この後も歴代の僧の墓塔としてその形式を伝えている。

板状墓標は、慶長十年（一六〇五）の例からはじまるが、特に万治年間のものには、大型で、碑身下部に蓮の蕾と葉とを配し、水受けを台座にほりつけ、あたかも水槽から蓮が派生しているような技巧をこらしたものもあり、この頃の石工の一つの風格もあらわれている如くである。板状墓標は寛政・文化の頃から少なくなり、一方、断面は長方形であるが、背面も平滑にした方柱状墓標に近いものも発達してくる。しかし、この種のものも、その初現的なものは頭部は三角状をなし、三角頭が深い伝統をつたえていることがわかる。

弧頭の方柱状墓標は、享保の頃からあらわれ、二重弧頭もほぼ時を同じくして発達したようである。また隅丸方頭は、延享の頃すなわち十八世紀の中葉の頃からあらわれ、盛り上げ方頭や三角錐方頭も、これにつづいて出現し、おくれて二重隅丸方頭の形式が発達する。しかし、いずれにせよ、弧頭・二重弧頭・隅丸方頭・二重隅丸方頭・盛り上げ方頭・三角錐頭の方柱状墓標は、十八世紀の初頭から江戸時代の終末まで広く行われ、墓標としての定型をなしていたことが考えられる。

しかも、これらは明治の十年までもつづいているが、特に盛り上げ方頭や三角錐方頭はやがて平頭へと発達し、この平頭は、明治・大正に及んで現代にもつづいている。

笠付方柱状墓標や背光型の板状墓標に仏像を彫刻した例は、特に時期的な関係がなく江戸時代を通じてあらわれているが、ことに笠付方柱状墓標は寛保から安永・文化の頃のものに多く、また、この頃のこの形式のものは全国的にも広汎な範囲にわたって分布しており、この頃の墓標として、特に贅沢な最高の水準にあるものとして、一部の間に採用された如くである。なお、笠付方柱状墓標の中でXVI地区の18の例は、正面に隅取りを見せ、一種の位牌型を示しており特殊である（第46図）。また、三角頭の方柱状墓標の中でもXI地区の33などのように、表面はもとより、側面・背面にも隅取りをなし周孤を高くする例があり、これらは一六六一年の頃のものであるが、或る限られた時期に発達したものとみなされる。

以上は、墓標の各種類の大きい推移であるが、それぞれの墓標の形態や構造や装飾的意匠を見ても、その変化のあとがたどられる。

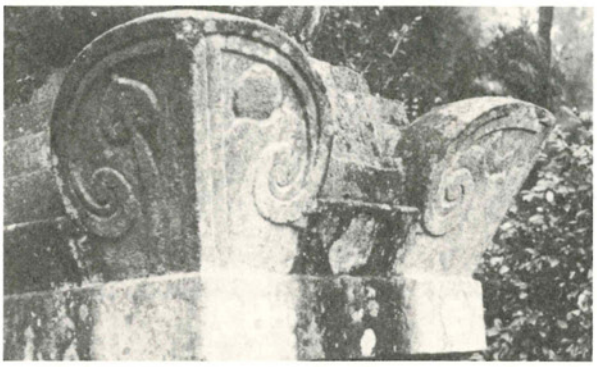
まず宝篋印塔についてみると、その構成する塔身や上頂部又は隅飾り等においても変化があり、これにほどこされている開き蓮弁文や垂れ蓮弁文の彫刻においても同様である。ことに宝篋印塔の構成要素として特色をもつ隅飾りは、それぞれの例を第26図のように集成してみると、その変化の工合がよくあらわれている。

宝篋印塔は、本来金剛界の大日如来の三昧耶形である。小野塚幾澄博士の示教によれば東向が「隨方」で本来の向きである。もっとも「運心」で、その

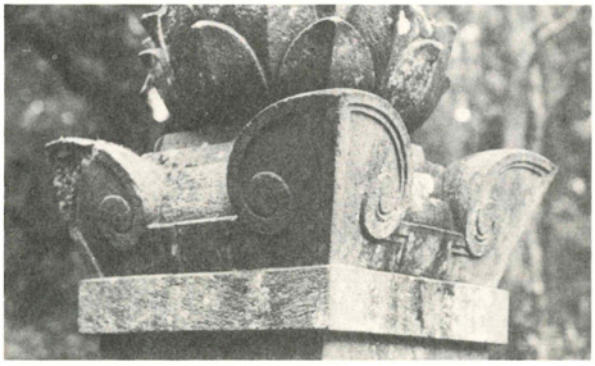
II
6

I
1

II
7



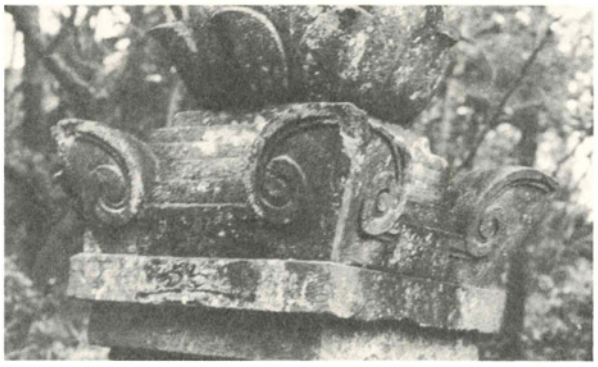
I
2



II
9

II
4

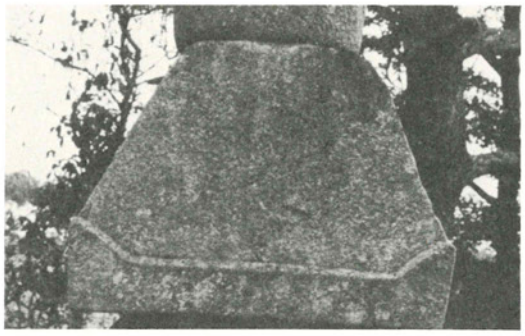
II
10



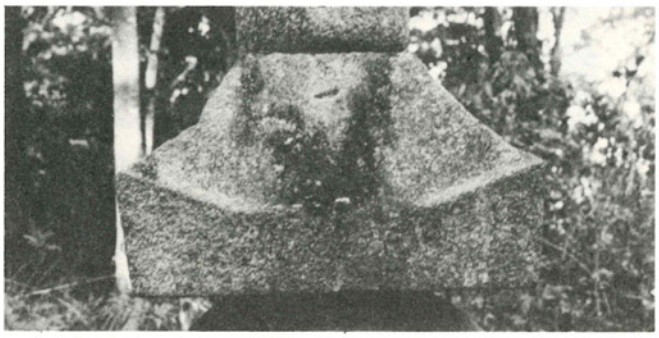
II
5

第49図　宝篋印塔隅飾の各種形式

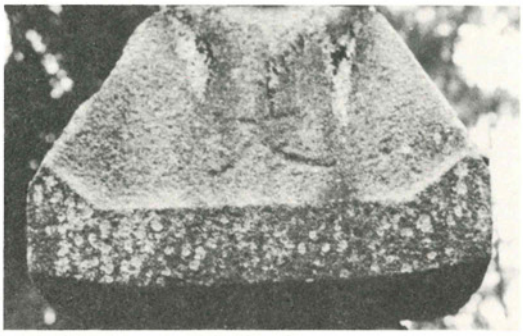
II
8



II
2

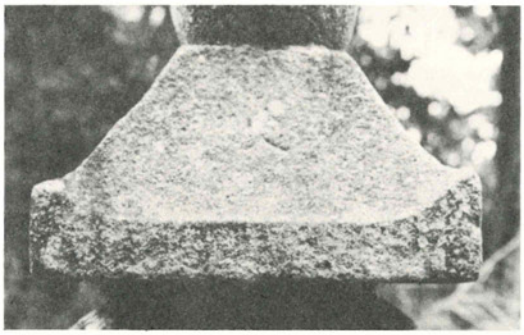


II
12

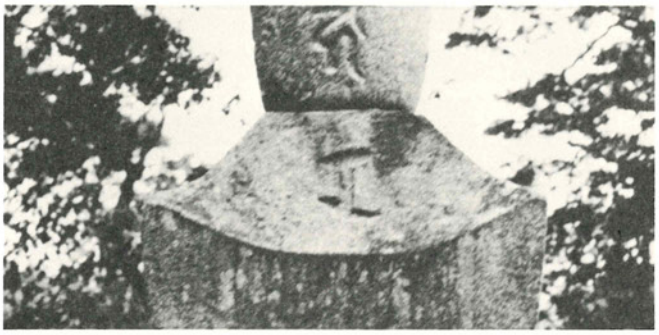


II
11

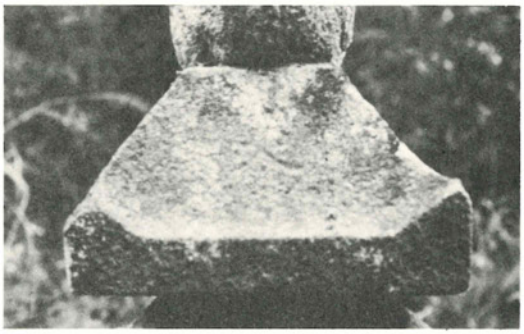
II
30



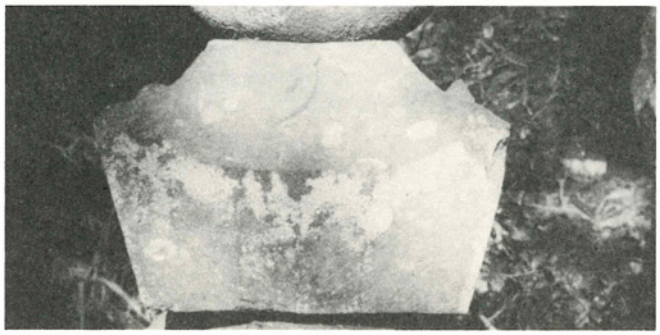
II
14



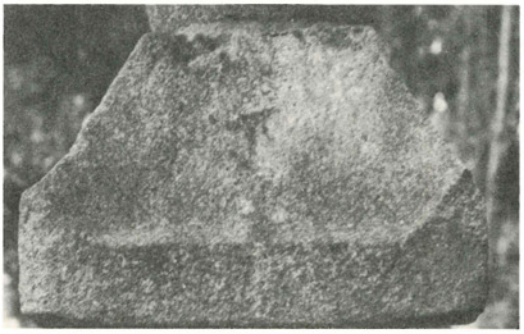
II
3



II
15



VII
36



XII
7

第50図　五輪塔　火輪部の屋根形式

方向も桉配できるという。本寺院に最初に建立されたとみなされるこの二基の宝篋印塔は東向きであり、本来の「隨方」によったものであることが知られる。また向きの違うものは「運心」によったものである。

また五輪塔になっても、その技法において風輪部と空輪部とを一石にし、地輪・水輪・火輪を別石にしたものと、地・水・火輪部と一石に、風・空輪部とをそれぞれ一石にしたものとがあるが、後者のものは古い例に多い。また、火輪すなわち笠状の構造の屋根の軒部の形式も、第27図に示したように変化がたどられる。

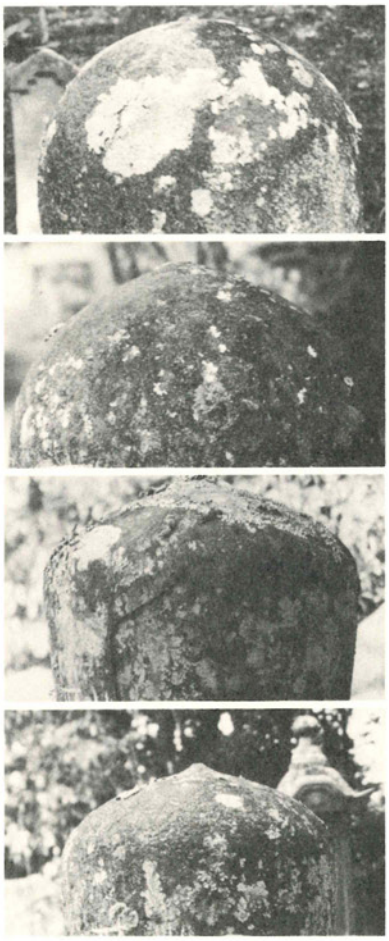
五輪塔は胎蔵界の大日如来の三昧耶形であり、各輪部の梵字は東・南・西・北の四方にしたがって、それぞれ五大の種子の四転をあらわしており、小野塚幾澄博士の示教によれば、次のようである。

空		
風	キャ・カ・ラ・ヴァ・ア	(東)
火	キャー・カー・ラー・ヴァー・アー	(南)
水	キャン・カン・ラン・ヴァン・アン	(西)
地	キャク・カク・ラク・ヴァク・アク	(北)
発心		
修行		
菩提		
涅槃		

そして、本来、宝篋印塔と同じく東面であり「隨方」である。XIII地区の二基の五輪塔（61・62）が東面しているのは、その本来の向きにしたがったものである。もっとも墓地等の関係で「運心」にあることもできるし、この場合、この向きは関係ないという。

本寺院の五輪塔の場合、移置した本多家関係のものは、いずれもこの「運心」として向きがかわっている。また、五輪塔の中には、輪部の様子が、発心・修行・菩提・涅槃による方式とあわないものもある。或いは各輪部の積み重ねの場合のミスによるものかも知れない。

無縫塔の場合は、初現の天正十二年（一五八四）のものと、江戸時代末期の例をその頭部において比較すると、あとのものは円頂部に尖りをあらわしていることがわかり、これは、無縫塔の形



第51図　無縫塔上部の各形式

式の一般的な変化と同様である。

板状墓標の三角状頭部も変化がある。頂点が前に屈むように反りを見せている形式は古いものに見られる。また、これには表面に頂点から割線まで上下に直線があらわされている。

上部の横線の区割の中央が、半円形にくいこみを見せているものは、万治年間の頃のものの共通した形式である。

舟形背光状の板状墓標に仏像を半円刻したものも、Ⅲ地区―7の元禄二年の例のように、比較的古いものも見られる。

方柱状墓標は、板状墓標の頂部の三角形のものから伝統をひいた三角頭が古いものにあらわれるが、弧頭が三角状弧頭から発達する。特に方柱状墓標の中で、家紋を正面中央上部に刻する傾向は、文化・文政の頃にあらわれ、これより以前は梵字である。この変化も重要であろう。これについては別に後章にも述べたい。

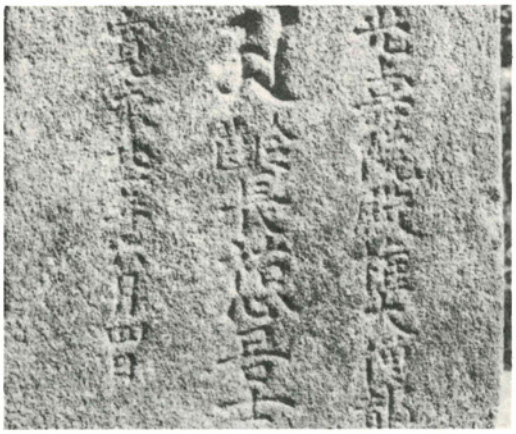
結――撰要寺墓標に関する二、三の問題

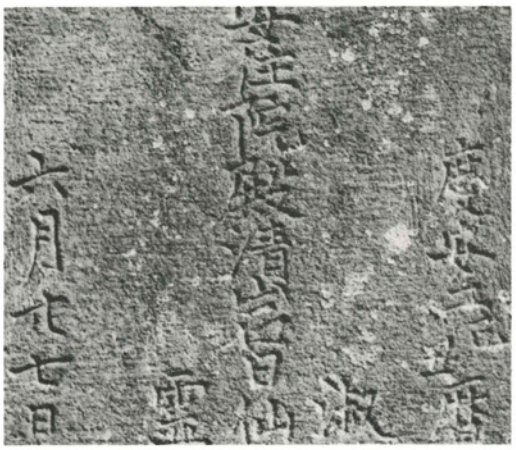
前章まで、墓塔・墓碑に関して地区別及び編年別の表を掲げながら、特に種類の推移と形式の変遷を中心として述べた。

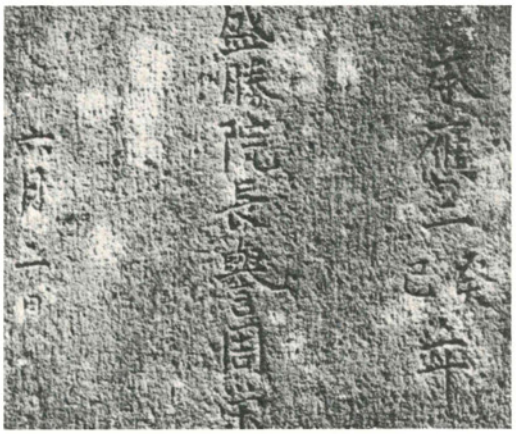
ここに終章として、若干の問題に触れてまとめとしたい。

文字の記載

文字は、楷書で端正な筆法で刻まれており、格調の高いものもある。ことに、天正から江戸時代初期の藩主や家中の人々の墓標である宝篋印塔や五輪塔に見られるものには謹厳正硬な趣が見られる。なお墓標における記載用例においては、正面の中央の上に梵字を刻し、その下に戒名を記し、向って右に死亡の年、左に月日をあらわすものもある。また、向って左に本多豊後守などの官位、左に藤原康紀などの姓名を刻するもの、右に死亡の年月、左に姓名を刻するものなど、いろいろの場合が見られる。


II 8

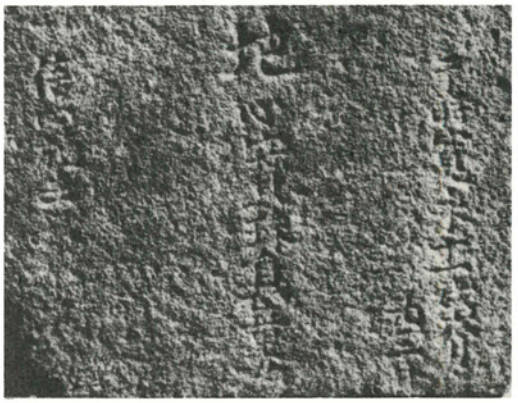

II 5


II 9

II 10

I 1

II 1

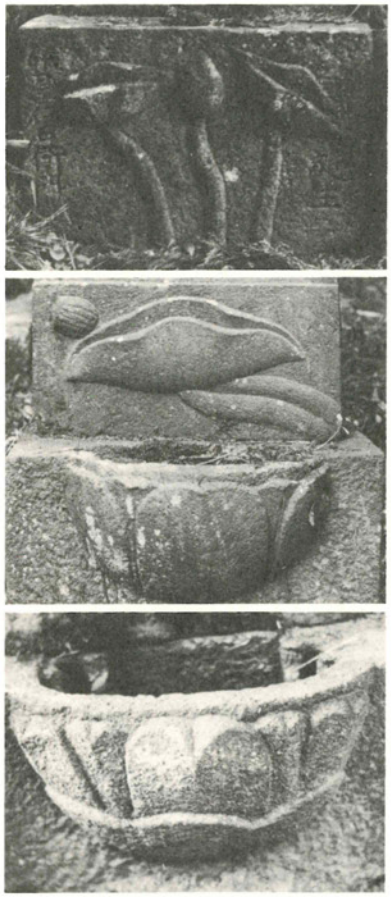

II 15

II 4

第52図　文字の記載

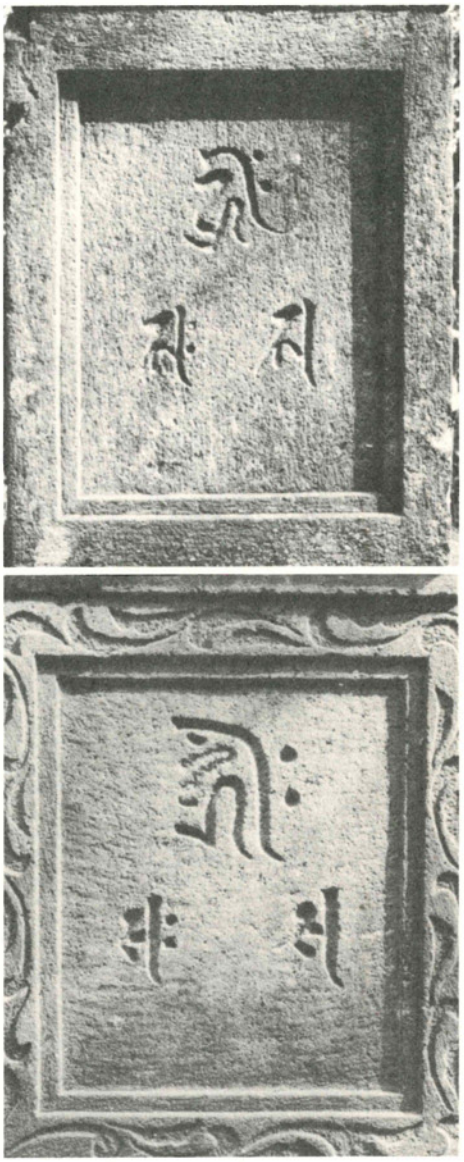
文様の表現

文様は蓮弁文を利用したものが多く、これらは垂れ蓮弁・仰ぎ蓮弁・開き蓮弁又は、葉と蕾とをあらわしたものがある。ことに、万治年間のものには蕾と葉とを碑面の下に浮彫りし、その下の台座には、開き蓮弁を表面にほどこした水受けをきざみこみ、あたかも葉と蕾とがこの水受けから出ているような趣を示すものもある。本来三笠蓮華は、中世の宝篋印塔等にも見られるものであるが、これから脱化させて特殊な表現を見せており、その頃の石工の技術が見られる。また、開き蓮弁の中には、彫りの浅いもの、力強く浮きだされているものなど、各種も指摘されそこに時代の変化もしのばれる。



第54図　蓮の葉と蕾の表現と水受け

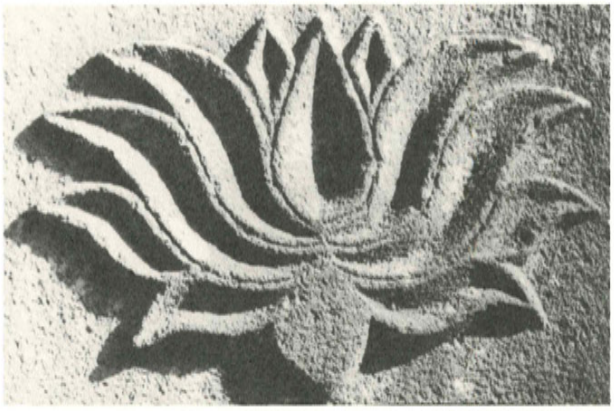
文様の中で、立葵の文様が本多家関係の墓標と見られる。立葵は沼田頼輔博士の研究によれば、徳川氏が従来立葵を用いたが、永禄三年になって、家康は家紋を定めるに際して、本多氏の家紋であった三葉葵の紋を用いたので、本多氏は三本立葵に改め、その後参河岡崎をはじめ本多氏はいずれも立葵紋を用いたという(『紋章の研究』)。これらの墓標に立葵を用いていることは当然であるが、形態上では、同文の中に立葵を用いたもの、立葵を並列させたものなどが見られ、しかも細部の点では、彫刻や文様に変化が見られる。



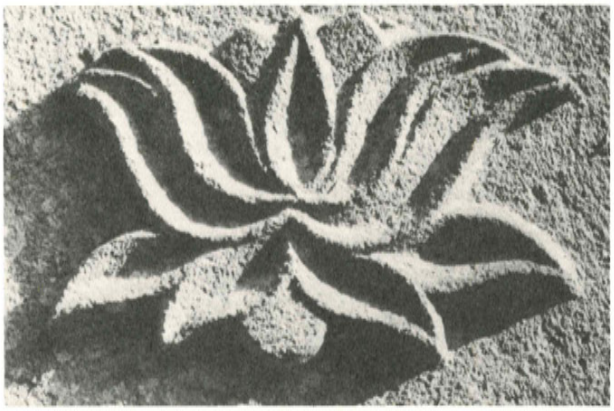
第53図　梵文表現の二例

II
6

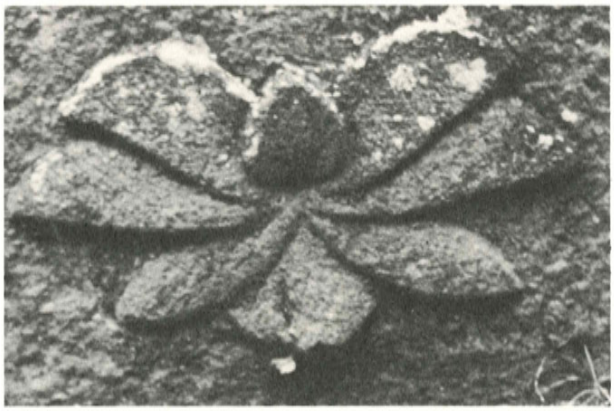
II
7



I
2



I
1



II
1

II
4

第55図　開き蓮弁の各形式

なお、宝篋印塔の意匠も、時間的に特色が見られるが、ことに隅飾りはその意匠の表現がかなり変化を示している。

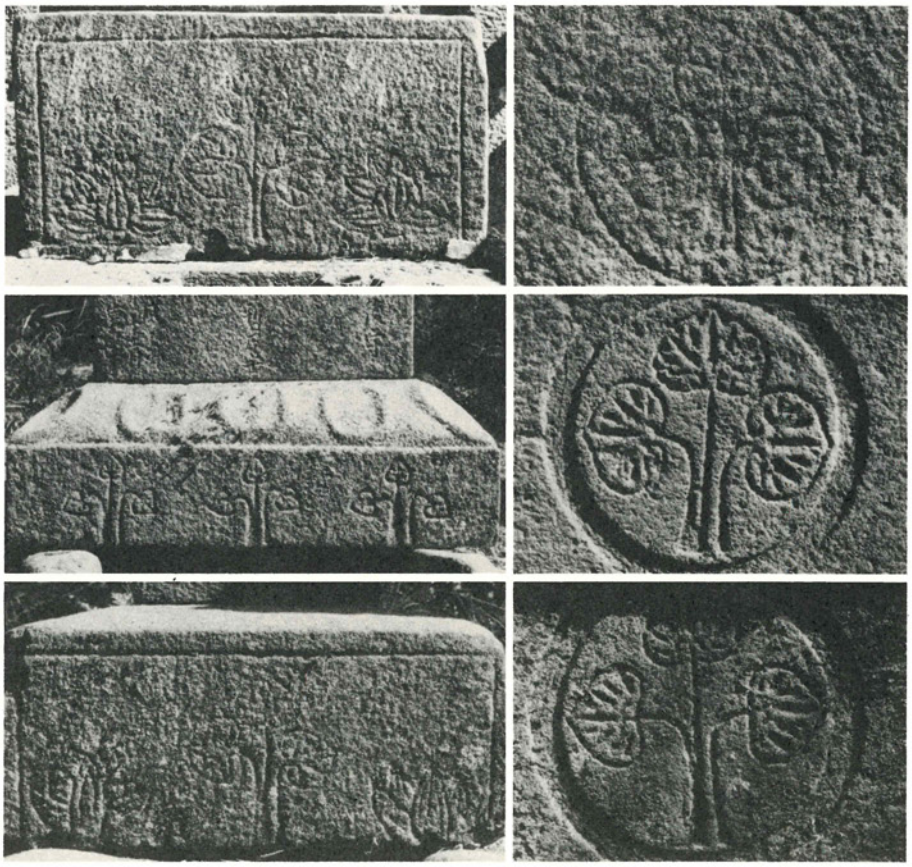
家紋の表現

墓標の正面の戒名の上に家紋をあらわすものが多く、これは近世の墓標の通有な一表現とみなされる。しかし、この墓地の場合は、初期の三角頭板状碑には家紋はなく阿弥陀の梵字のみをあらわす。しかもその上に丸い刳りを設けている。寛永年間のものも二重隅丸方頭の角碑にかわっているが、これにも梵字をあらわしている。文化・文政の頃から以降はほとんど家紋のものが発達している。家紋の表現の場合も、上部の隅とりの部分にほどこされているもの、飾隅取り内の部分にほどこされているものの二形式がある。

なお、円形の中に家紋を配する手法は、先行する三角頭板状碑の上部の円形刳りこみの手法からの発展とも見られぬことはない。

個人墓と夫婦墓

墓碑の戒名を見ると、個人を示すものと、二重位を刻し夫婦をあらわすものとがある。宝篋印塔や五輪塔又は三角頭板状碑は、個人の戒名のみである。この個人墓標は元禄の頃まで見られる。その後のものにはXII地区—16・XII地区—45・XIV地区—16・XIV地区—10などのようにつづき、明治まで存続する。



第56図　立葵の家紋の諸形式

墓地の選定

寺院の創立当初に建立された藩主の墓標は、本堂の近くに見られ、また、たとえ移転されたものでも、奥の高台の地に、あたかも城からも望まれる場所に営まれている。また、寺院住職の墓標も参道入口近く、本堂に近く営まれている。

藩関係の家中の人々の墓標は、眺望もよい高燥の地に多いことも指摘されるが、当時の町人や百姓の墓が、墓地の端とか、最も奥まったところなどに見ら

れる。

結び

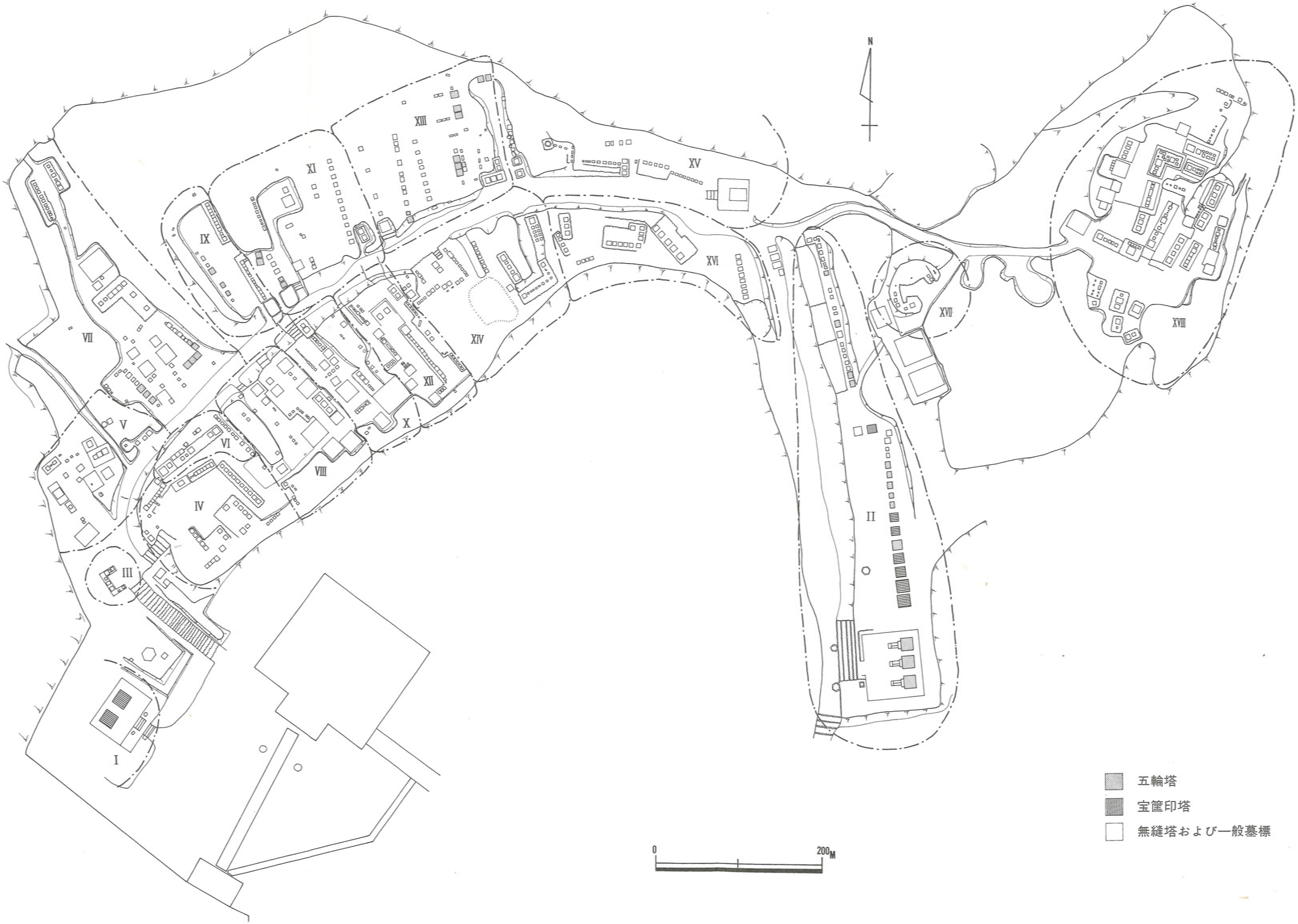
現在なお法燈のつづいている寺院において、墓地が寺域内にあり、しかも、寺院の創建当時から現在に至るまで墓塔墓碑の類がそのまま残され、過去帳もそなわり、かつ子孫の壇家の人々によって護持され墓参のつづけられている例は比較的少い。撰要寺の墓塔・墓碑の類は、この点において重要な文化遺産ともいえる。

今回の調査は、墓地に隣接している一部地域も既に削土され、墓地の文化遺産としての保全の上にも暗影が投ぜられているための緊急な調査であったが、その研究は近世考古学ことに発掘をともなわないで行った考古学の研究として、意義深いものと考えている。しかも、墓という、人々の習俗慣習の中の儀礼的な行為のあらわれである資料についての近世の動向は、単に近世のみでなく、中世又は古代、或いは弥生時代の墓制や古墳の研究にも示唆するところが少くないであろう。たとえば、三角頭をもつ板状碑が、次第に角碑に移行しつつも、三角頭の形式が強靱な伝統をつたえていること、或る定型となった角碑は、一つの時期の中に不動の地位を占めていること、江戸時代の終りから明治初年までの墓碑には変化がなく、明治維新という大きい政治的変革があったとしても、民衆の習俗慣習としての墓制には何等の変貌もなかったことなど、先行の墓制にも示唆をあたえる二、三の例である。

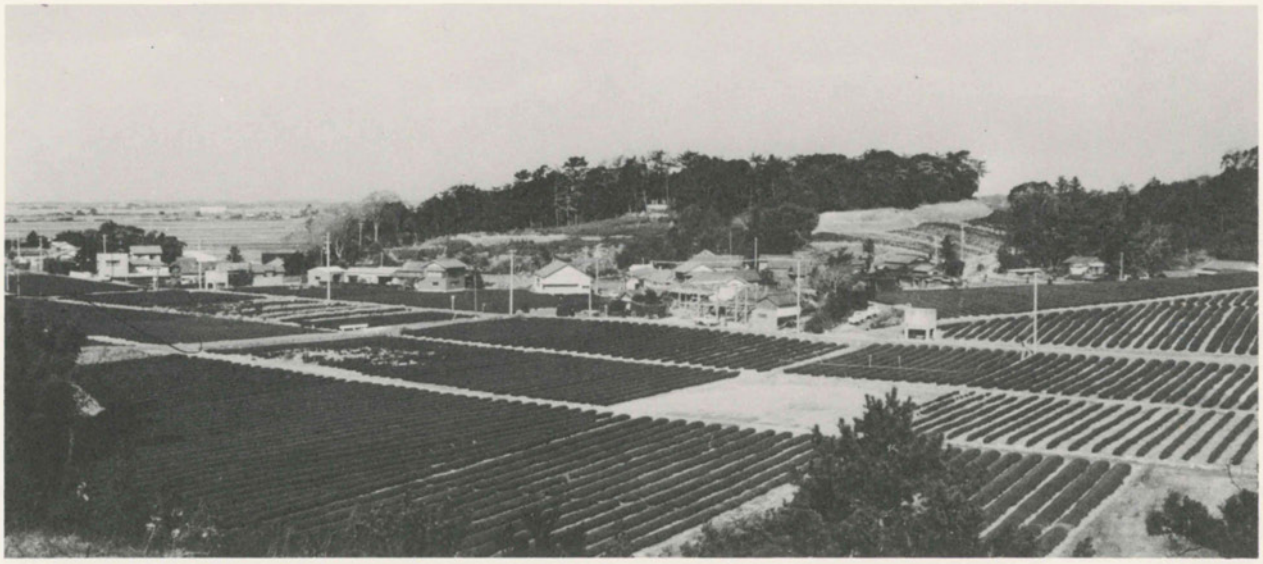
第57図　頭書の梵字と紋章

図版第一　撰要寺の位置（航空写真）

図版第二　撰要寺周辺地形図


N
I
II
III
IV
V
VI
VII
VIII
IX
X
XI
XII
XIII
XIV
XV
XVI
XVII
XVIII
五輪塔
宝筐印塔
無縫塔および一般墓標
0
200M

図版第四　撰要寺墓地遠望と山門

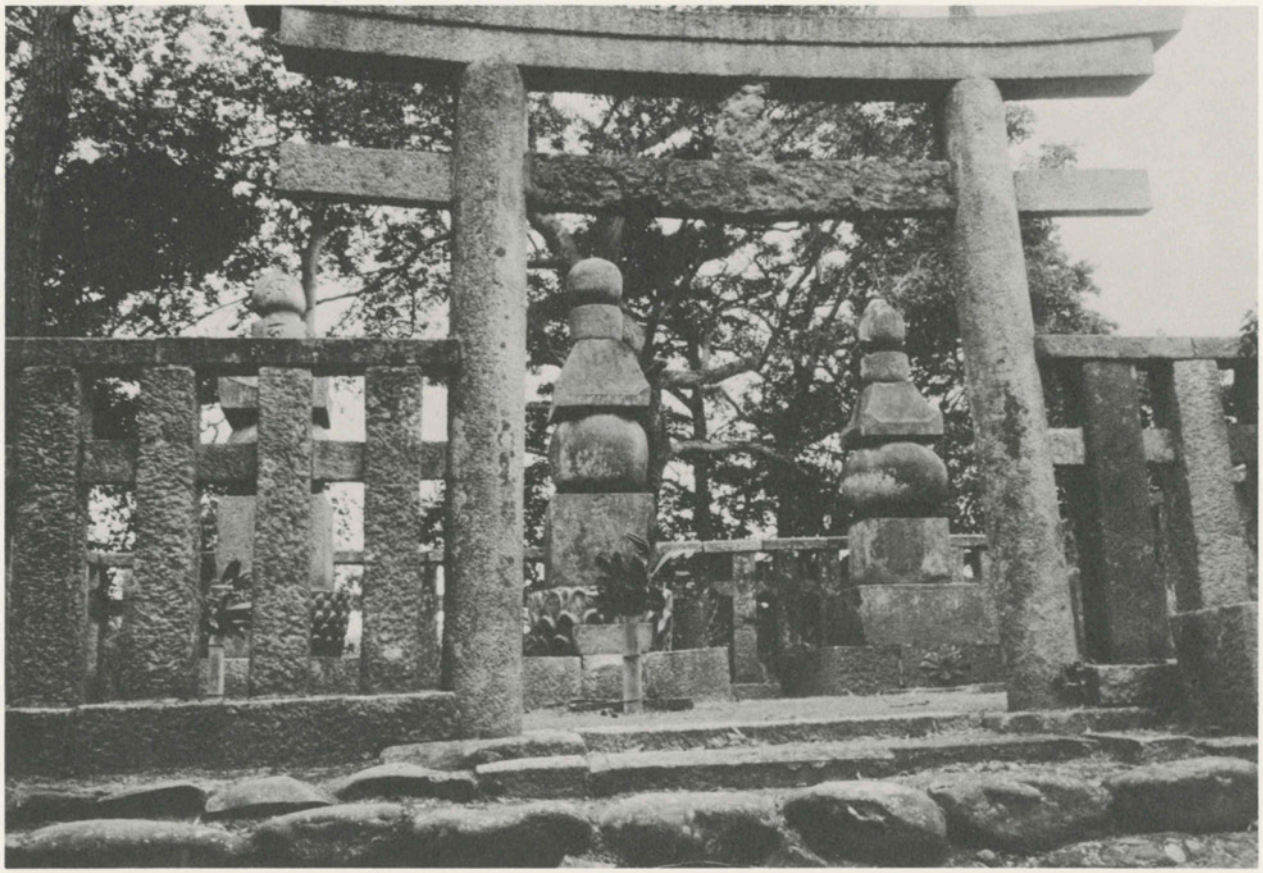


図版第五　大須賀家墓所（Ⅰ地区）

図版第六　大須賀康高墓塔

図版第七　大須賀忠政墓塔

図版第八　本多家墓所（II地区）



図版第九　本多康重墓塔（II地区）

1

図版第一〇　本多康紀墓塔（II地区）

図版第一一　本多忠利墓塔（II地区）

図版第一二　II地区　宝篋印塔等の並列状態

図版第一三　宝篋印塔（II地区）

図版第一四　宝篋印塔（II地区）

図版第一五　宝篋印塔上頂部（II地区）

5

図版第一六　宝篋印塔（II地区）

図版第一七　宝篋印塔（II地区）

図版第一八　宝篋印塔（II地区）

図版第一九　宝篋印塔（II地区）

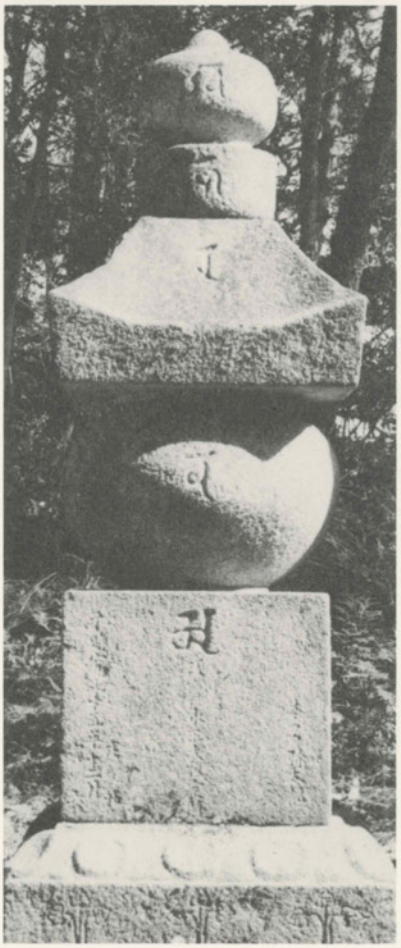
図版第二〇　五輪塔（II地区）

12

11

15

14


13

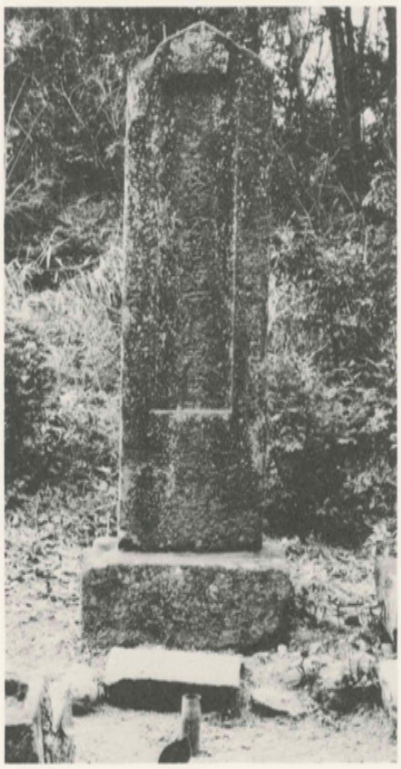
図版第二一　II地区の墓標

20

18

16

21


19

17

図版第二二　II地区の墓標

31

28

22

33

29

23

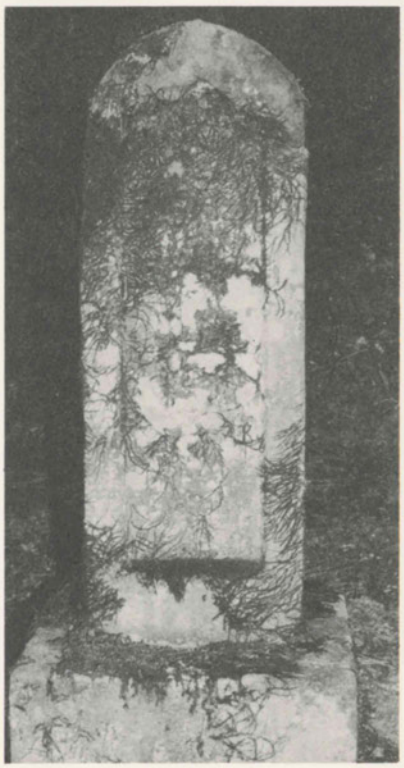
38

35

32

40

36


34

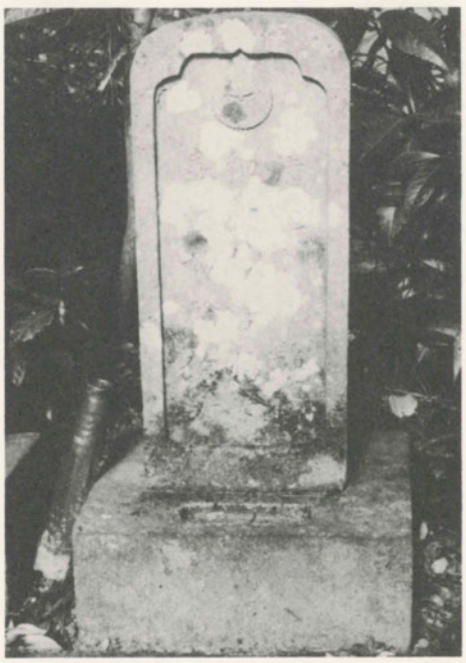
図版第二四　III地区の墓標

5

2

7

3


8

4

図版第二五　IV地区の墓標（無縫塔）（一）

7

4

1

9

5

2

10

6

3

図版第二六　Ⅳ地区の墓標（2）

17

14

11

18

15

12

19

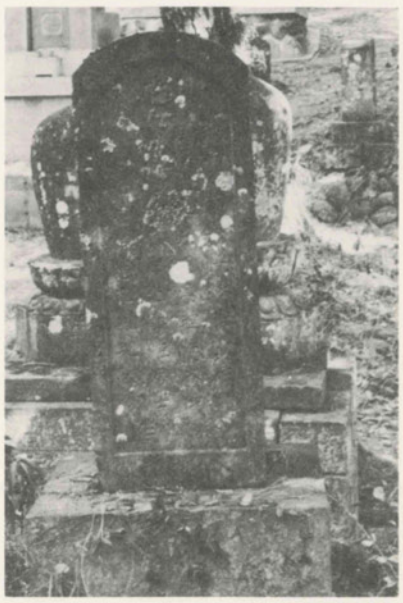
16

13

図版第二七　IV地区の墓標（3）

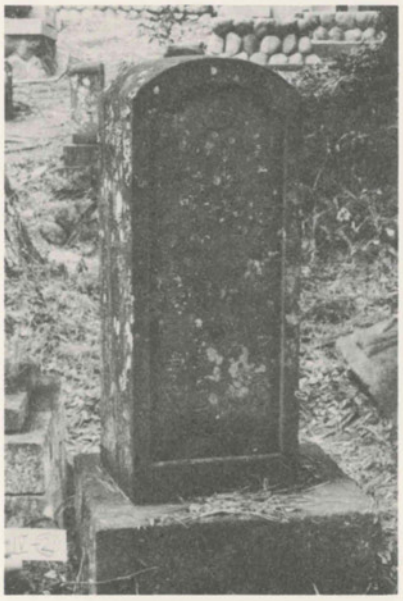
26

23


20

27

24


21

30

25

22

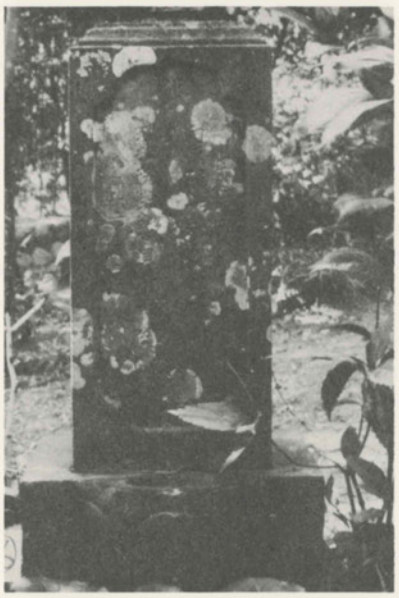
図版第二八　Ⅳ地区の墓標（4）

38

35

31

39


36

32

40

37

34

図版第二九　IV地区の墓標（5）

48

45

42

49

46

43

51

47

44

図版第三〇　V地区の墓標

10

6

1

11

7

2

13

9

5

図版第三一　VI地区の墓標

8

5

1

9

6

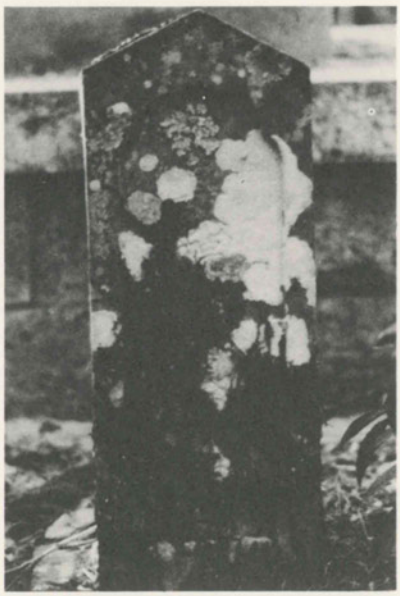
2

10

7

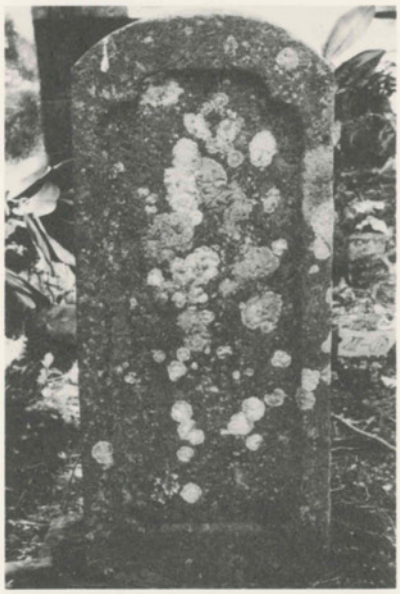
4

図版第三二　VII地区の墓標（一）


15

8

5


17

12

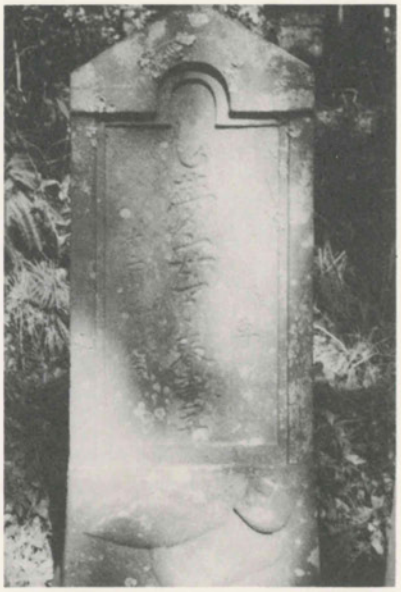
6

18

13

7

図版第三三　VII地区の墓標（2）


39

35

32

40

36

33

41

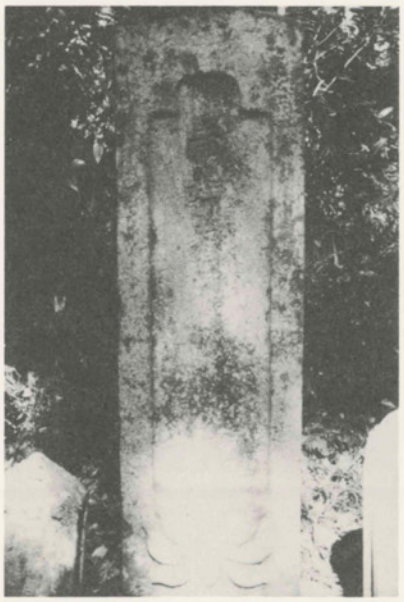
38

34

図版第三四　Ⅶ地区の墓標（3）

46

45


42

64

63

47

56

52

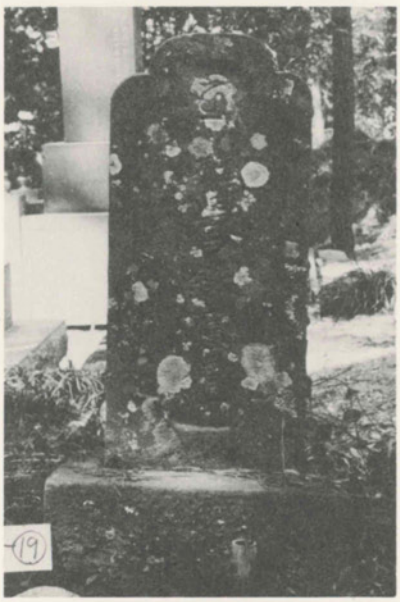
51

図版第三五　Ⅷ地区の墓標

18

7

2


19

9

5

22

17

6

図版第三六　IX地区の墓標（一）

14

11

1

15

12

6

19

13

8

図版第三七　IX地区の墓標（2）

31

28

20

37

29

22

39

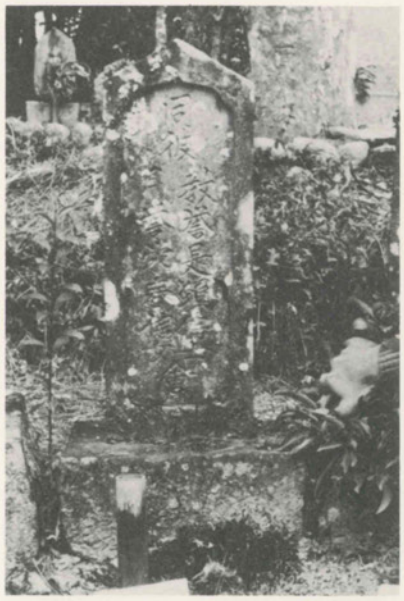
30

23

図版第三八　X地区の墓標

29

24


18

44

27

20

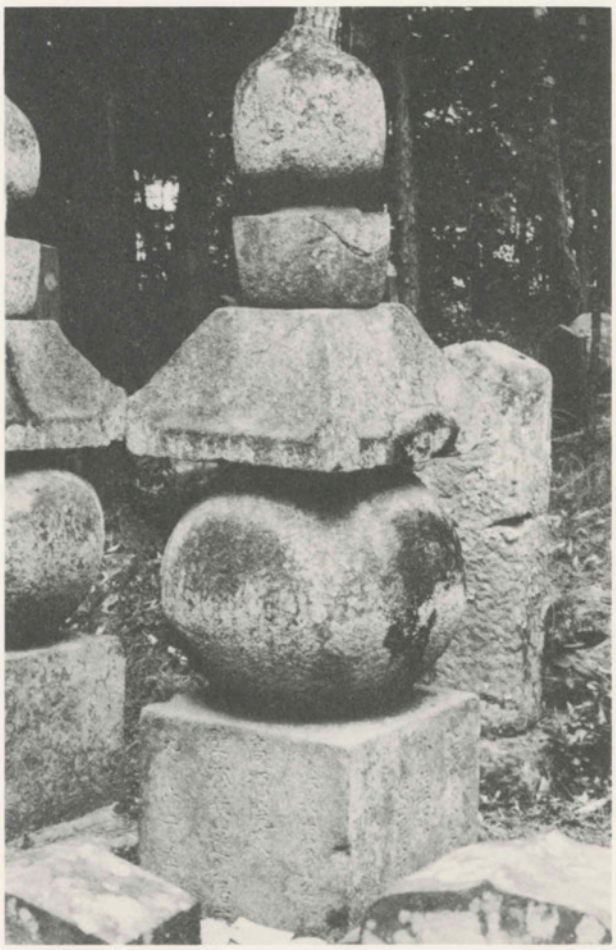
46

28

22

図版第三九　XI地区の墓標（五輪塔）（一）

3


1

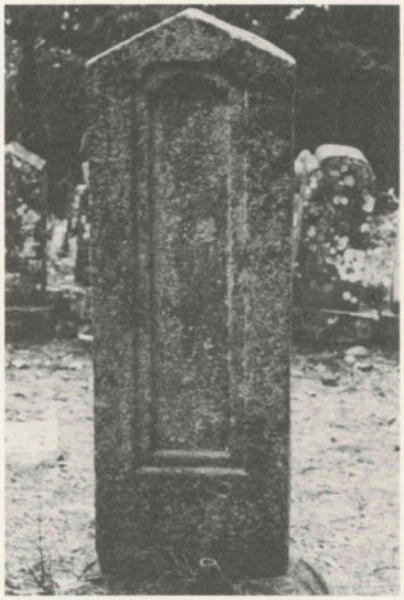
4

2

図版第四〇　XI地区の墓標（2）

24

13


5

33

19

6

20

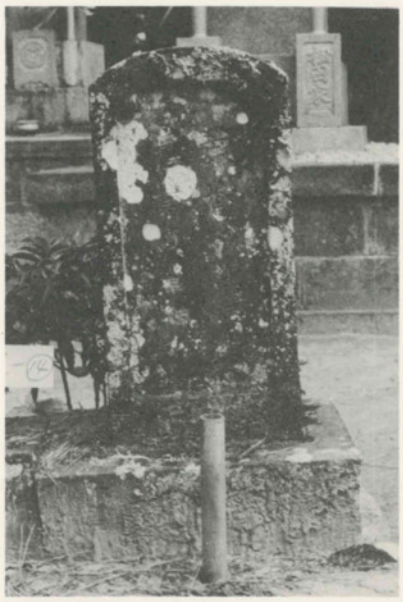
31

7

図版第四一　XII地区の墓標（一）

45

40


14

49

43

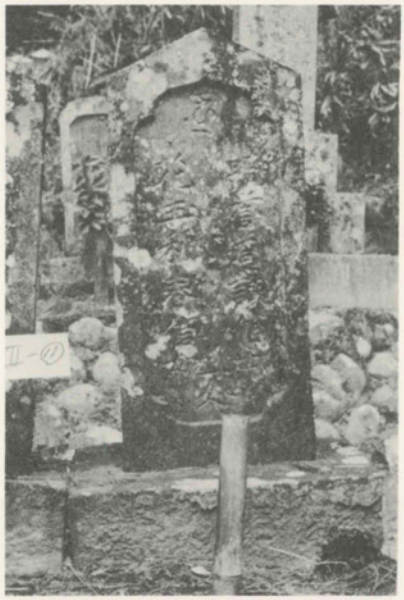
21

51

44

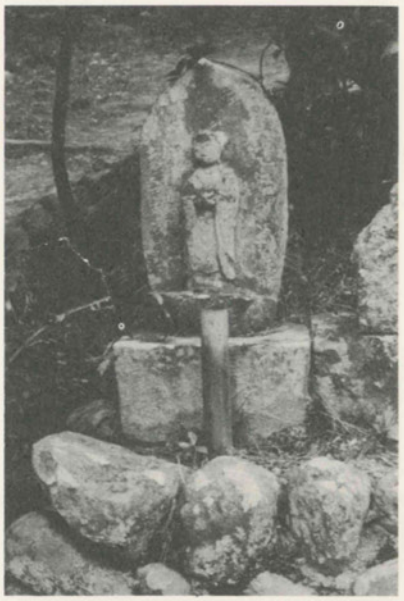
25

図版第四二　XII地区の墓標（2）

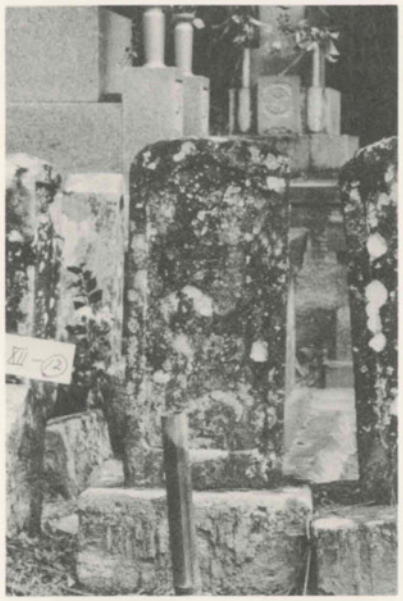


11

8



1



12

9

3

13

10

6

図版第四三　XIII地区の墓標（一）

41

34

9

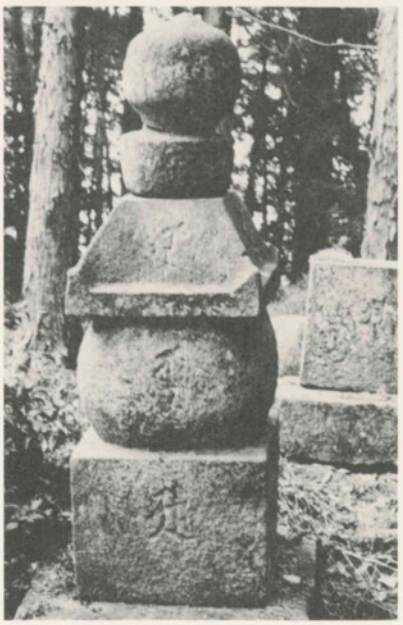
52

35

11

53

40


21

図版第四四　XIII地区の墓標（五輪塔）（2）

61と62（向って右62・向って左61）

61

62

図版第四五　XIV地区の墓標

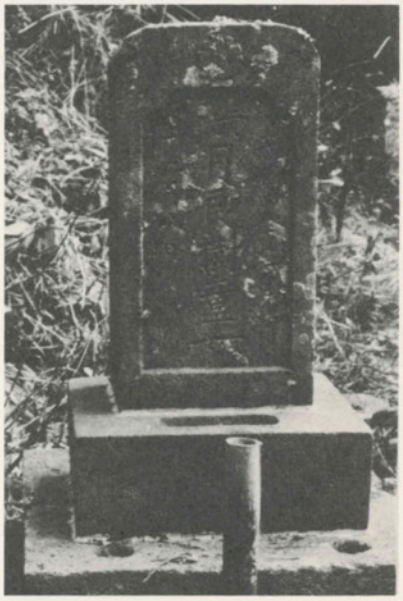
20

10

3

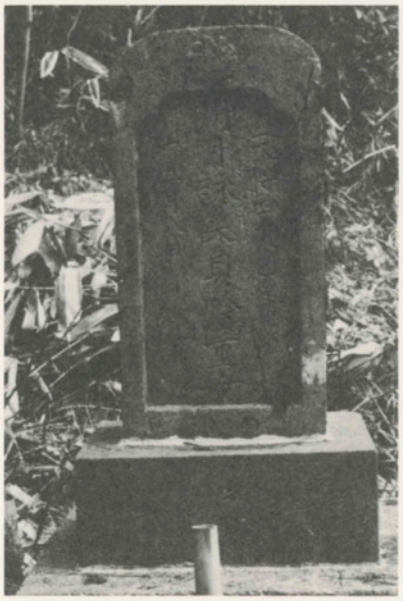
42

11


4

54

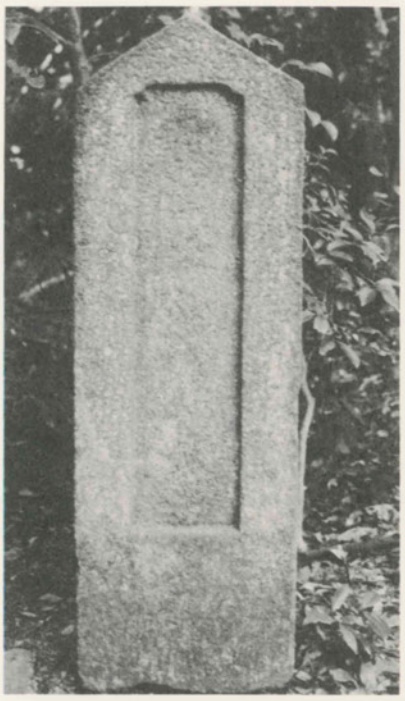
16


5

図版第四六　XV地区の墓標

20

17


6

25

18

7

34

19

15

図版第四七　XVI地区の墓標

18

9

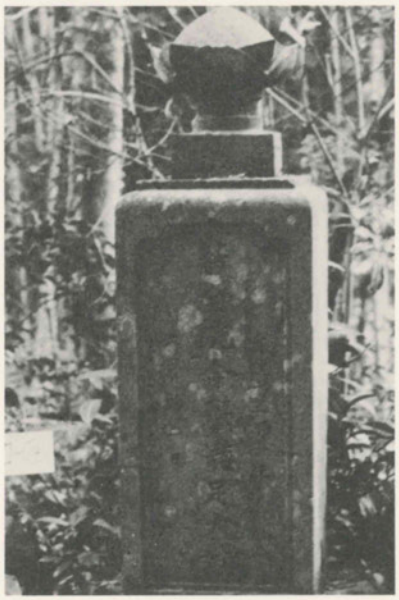
1

29

11

5

32


14

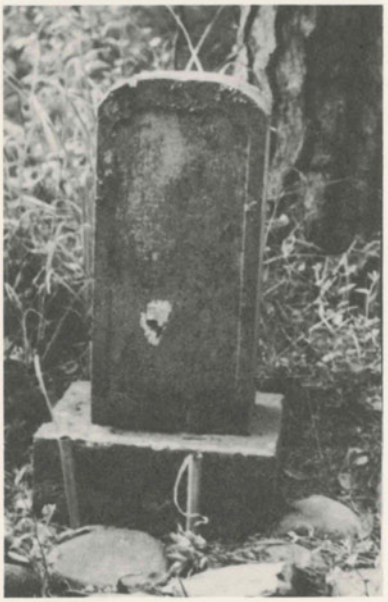
7

図版第四八　XVII・XVIII地区の墓標（左三基はXVIII地区）

1

25

1


2

38

10

5

46

11

昭和五十六年三月二十五日

撰要寺墓塔群

著作者　斎藤　忠

編集者　撰要寺墓塔群調査団

発行者　大須賀町教育委員会